



Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールリファレン ス

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-3947
2005年10月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品および本書は著作権法によって保護されており、その使用、複製、頒布、および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



051117@13215



目次

はじめに	13
1 設定情報	19
この章の利用方法	19
デフォルト値	20
設定で使用する用語	21
情報の参照方法	22
共通サーバー設定	22
Access Manager 設定情報	23
Access Manager: 管理情報	24
Access Manager: Web コンテナ情報	26
Access Manager: サービス情報	30
Access Manager: Directory Server 情報	36
Access Manager: プロビジョニングされているディレクトリの情報	37
Access Manager SDK 設定情報	39
Access Manager SDK: 管理情報	40
Access Manager SDK: Directory Server 情報	41
Access Manager SDK: プロビジョニングされているディレクトリの情報	42
Access Manager SDK: Web コンテナ情報	44
管理サーバーの設定情報	45
管理サーバー: 管理情報	45
管理サーバー: 設定用ディレクトリの設定情報	46
Application Server の設定情報	47
Application Server: 管理情報	48
Application Server: ノードエージェント情報	48
Application Server: ロードバランスプラグイン情報	49

Directory Server 設定情報	50
Directory Server: 管理情報	50
Directory Server: サーバー設定情報	51
Directory Server: Directory Server 設定情報	52
Directory Server: データ格納場所に関する設定情報	53
Directory Server: データ取り込み情報	54
Directory Proxy Server 設定情報	56
Directory Proxy Server: ポート選択の情報	56
Directory Proxy Server: サーバルート情報	56
HADB の設定情報	57
Portal Server の設定情報	58
Portal Server: Web コンテナ情報	58
Portal Server: Web コンテナの配備	64
Portal Server Secure Remote Access の設定情報	65
Secure Remote Access コアの設定	66
ゲートウェイの設定	70
Netlet プロキシの設定	72
Rewriter プロキシの設定	77
Web Server の設定情報	81
Web Server: 管理情報	82
Web Server: デフォルト Web Server インスタンス情報	83
Web Proxy Server の設定情報	84
状態ファイルのみで使用されるパラメータ	85
2 設定用ワークシート	89
Access Manager ワークシート	89
Application Server に配備された Access Manager	90
Web Server に配備された Access Manager	94
管理サーバーのワークシート	97
Application Server のワークシート	98
Directory Server のワークシート	100
Directory Proxy Server のワークシート	103
HADB のワークシート	104
Portal Server のワークシート	105
Application Server に配備された Portal Server	105
Web Server に配備された Portal Server	107
BEA WebLogic Server に配備された Portal Server	108
IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server	110

Portal Server Secure Remote Access のワークシート	112
Web Server のワークシート	117
Web Proxy Server のワークシート	119
3 デフォルトのインストールディレクトリとポート	121
デフォルトのインストールディレクトリ	121
デフォルトのポート番号	124
4 Java ES の配布内容	129
Solaris SPARC の配布内容	129
Solaris x86 の配布内容	132
Linux の配布内容	134
5 インストール可能なパッケージの一覧	137
Solaris パッケージ	137
Solaris OS 用アンインストールパッケージ	137
コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ	138
共有コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ	145
コンポーネント用のローカライズされた Solaris パッケージ	148
Linux パッケージ	159
Linux 用アンインストールパッケージ	159
コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ	159
共有コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ	166
コンポーネント用のローカライズされた Linux パッケージ	169
索引	185

表目次

表 1-1	共通サーバー設定	23
表 1-2	Access Manager のサブコンポーネントのインストールに必要な情報	24
表 1-3	Access Manager の管理に関する設定情報	25
表 1-4	Access Manager と Web Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報	27
表 1-5	Access Manager と Application Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報	29
表 1-6	Access Manager のコアとコンソールをインストールするためのサービスに関する設定情報	31
表 1-7	コンソールのみをインストールするための Access Manager サービス情報 (コアがすでにインストールされている場合)	34
表 1-8	Access Manager コンソールをインストールするためのサービス情報 (コアがまだインストールされていない場合)	34
表 1-9	連携管理をインストールするための Access Manager サービス情報 (コアがすでにインストールされている場合)	36
表 1-10	Access Manager のインストール時に必要となる Directory Server に関する設定情報	37
表 1-11	Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報	38
表 1-12	Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合の設定情報	38
表 1-13	Access Manager SDK のインストール時に必要となる管理に関する設定情報	40
表 1-14	Access Manager SDK のインストール時に必要な Directory Server に関する設定情報	41
表 1-15	Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報	43
表 1-16	Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニン	

	グされた既存ディレクトリが存在しない場合の設定情報	43
表 1-17	Access Manager SDK のインストール時に必要となる Web コンテナに関する設定情報	44
表 1-18	管理サーバーの管理に関する設定情報	45
表 1-19	管理サーバーの設定用ディレクトリの設定情報	46
表 1-20	Application Server の管理に関する設定情報	48
表 1-21	Application Server のインストール時に必要となるノードエージェントに関する設定情報	49
表 1-22	Application Server のインストール時に必要となるロードバランSPラグインに関する設定情報	49
表 1-23	Directory Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報	50
表 1-24	Directory Server のインストール時に必要となるサーバーに関する設定情報	51
表 1-25	Directory Server のインストール時に必要となる設定用 Directory Server に関する設定情報	53
表 1-26	Directory Server のインストール時に必要となるデータ格納場所に関する設定情報	54
表 1-27	Directory Server のインストール時に必要となるデータ取り込みに関する設定情報	55
表 1-28	Directory Proxy Server のインストール時に必要となるポート選択に関する設定情報	56
表 1-29	Directory Proxy Server のインストール時に必要となるサーバールートに関する設定情報	57
表 1-30	HADB のポート選択情報	57
表 1-31	Portal Server のインストール時に必要となる Web コンテナに関する設定情報	58
表 1-32	Portal Server と Web Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報	58
表 1-33	Portal Server と Application Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報	60
表 1-34	Portal Server と BEA WebLogic を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報	61
表 1-35	Portal Server と IBM WebSphere を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報	63
表 1-36	Portal Server のインストール時に必要となるポータルに関する設定情報 (すべてのケース)	64
表 1-37	Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる情報	66
表 1-38	Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報	67
表 1-39	Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる	

	Web コンテナ配備に関する設定情報	68
表 1-40	Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報	68
表 1-41	Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報	69
表 1-42	Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報	69
表 1-43	Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Sun Java System Application Server または BEA WebLogic Server に関する設定情報	69
表 1-44	Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報	70
表 1-45	Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報	70
表 1-46	Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報	71
表 1-47	Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報	72
表 1-48	Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報	73
表 1-49	Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報	73
表 1-50	Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Netlet プロキシに関する設定情報	74
表 1-51	Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となるプロキシに関する設定情報	75
表 1-52	Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報	76
表 1-53	Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報	78
表 1-54	Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる Rewriter プロキシに関する設定情報	78
表 1-55	Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となるプロキシに関する設定情報	79
表 1-56	Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報	81
表 1-57	Web Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報	82
表 1-58	Web Server のインストール時に必要となるデフォルト Web Server インスタンスに関する設定情報	83
表 1-59	Web Proxy Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報	84
表 1-60	状態ファイルのパラメータ	85

表 2-1	Application Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート	90
表 2-2	Web Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート	94
表 2-3	管理サーバーの設定用ワークシート	97
表 2-4	Application Server の設定用ワークシート	98
表 2-5	Directory Server の設定用ワークシート	100
表 2-6	Directory Proxy Server の設定用ワークシート	103
表 2-7	HADB の設定用ワークシート	104
表 2-8	Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート	105
表 2-9	Web Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート	107
表 2-10	BEA WebLogic Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート	108
表 2-11	IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート	110
表 2-12	Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート	112
表 2-13	Web Server の設定用ワークシート	117
表 2-14	Web Proxy Server の設定用ワークシート	119
表 3-1	デフォルトのインストールディレクトリ	122
表 3-2	コンポーネントのデフォルトポート番号	124
表 4-1	Solaris SPARC の配布内容	129
表 4-2	Solaris x86 の配布内容	132
表 4-3	Linux の配布内容	134
表 5-1	Solaris OS 用アンインストールパッケージ	138
表 5-2	Solaris OS 用 Access Manager パッケージ	138
表 5-3	Solaris OS 用管理サーバーパッケージ	139
表 5-4	Solaris OS 用 Application Server パッケージ	139
表 5-5	Solaris OS 用 Calendar Server パッケージ	139
表 5-6	Solaris OS 用 Communications Express パッケージ	140
表 5-7	Solaris OS 用 Delegated Administrator パッケージ	140
表 5-8	Solaris OS 用 Directory Server パッケージ	140
表 5-9	Solaris OS 用 Directory Proxy Server パッケージ	140
表 5-10	Solaris OS 用 HADB パッケージ	141
表 5-11	Solaris OS 用 Instant Messaging パッケージ	141
表 5-12	Solaris OS 用 Message Queue パッケージ	141
表 5-13	Solaris OS 用 Messaging Server パッケージ	142
表 5-14	Solaris OS 用 Portal Server パッケージ	142
表 5-15	Solaris OS 用 Portal Server SRA パッケージ	143
表 5-16	Solaris OS 用 Service Registry パッケージ	143

表 5-17	Solaris 8 および 9 OS 用 Sun Cluster ソフトウェアのパッケージ	144
表 5-18	Solaris 10 OS 用 Sun Cluster パッケージ	144
表 5-19	Solaris OS 用 Sun Cluster Agent for Sun Java System パッケージ	145
表 5-20	Solaris OS 用 Web Server パッケージ	145
表 5-21	Solaris OS 用 Web Proxy Server パッケージ	145
表 5-22	Solaris OS 用共用コンポーネントパッケージ	146
表 5-23	パッケージ名に含まれる言語略号	148
表 5-24	簡体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ	148
表 5-25	繁体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ	150
表 5-26	フランス語にローカライズされた Solaris パッケージ	151
表 5-27	ドイツ語にローカライズされた Solaris パッケージ	153
表 5-28	日本語にローカライズされた Solaris パッケージ	154
表 5-29	韓国語にローカライズされた Solaris パッケージ	156
表 5-30	スペイン語にローカライズされた Solaris パッケージ	157
表 5-31	Linux 用アンインストールパッケージ	159
表 5-32	Linux 用 Access Manager パッケージ	160
表 5-33	Linux 用管理サーバーパッケージ	160
表 5-34	Linux 用 Application Server パッケージ	161
表 5-35	Linux 用 Calendar Server パッケージ	161
表 5-36	Linux 用 Communications Express パッケージ	161
表 5-37	Linux 用 Delegated Administrator パッケージ	162
表 5-38	Linux 用 Directory Server パッケージ	162
表 5-39	Linux 用 Directory Proxy Server パッケージ	162
表 5-40	Linux 用 HADB パッケージ	162
表 5-41	Linux 用 Instant Messaging の Linux パッケージ	163
表 5-42	Linux 用 Message Queue パッケージ	163
表 5-43	Linux 用 Messaging Server パッケージ	163
表 5-44	Linux 用 Portal Server パッケージ	164
表 5-45	Linux 用 Portal Server SRA パッケージ	165
表 5-46	Linux 用 Service Registry パッケージ	166
表 5-47	Linux 用 Web Server パッケージ	166
表 5-48	Linux 用 Web Proxy Server パッケージ	166
表 5-49	Linux 用共有コンポーネントパッケージ	167
表 5-50	簡体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ	169
表 5-51	繁体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ	172
表 5-52	フランス語にローカライズされた Linux パッケージ	174
表 5-53	ドイツ語にローカライズされた Linux パッケージ	176
表 5-54	日本語にローカライズされた Linux パッケージ	178

表 5-55	韓国語にローカライズされた Linux パッケージ	180
表 5-56	スペイン語にローカライズされた Linux パッケージ	182

はじめに

Java Enterprise System インストールリファレンスには、Sun Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) または Linux オペレーティング環境で Sun Java™ Enterprise System (Java ES) ソフトウェアをインストールするために必要な情報が記載されています。このマニュアルには、特定のプラットフォームのみに当てはまり、異なるプラットフォームには適用されない情報も含まれます。こうした情報は、プラットフォーム名を明記して記載されています。ただし、大半の説明にはプラットフォーム名が明記されておらず、Solaris OS と Linux の両方に適用されます。

対象読者

このマニュアルに記載される内容は、Java ES ソフトウェアをインストールする評価担当者、システム管理者、およびソフトウェア技術者を対象としています。このマニュアルは、次の事項に習熟している方を対象に記述されています。

- エンタープライズレベルのソフトウェア製品のインストール
- サポートする Java ES プラットフォーム上のシステム管理とネットワーク
- クラスタリングモデル (クラスタリングソフトウェアをインストールする場合)
- インターネットと World Wide Web

Java ES ドキュメントセット

Java ES ドキュメントセットには、配備計画およびシステムインストールに関する情報が記載されています。システムドキュメントの URL は <http://docs.sun.com/coll/1286.1> です。Java ES の概要を理解するため、次の表に紹介されているマニュアルを、記載されている順番に参照してください。

表 P-1 Java Enterprise System ドキュメント

マニュアル名	内容
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 リリースノート』	既知の問題など、Java ES に関する最新の情報が記載されています。これ以外に、コンポーネントごとにリリースノートがあります。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 ドキュメントロードマップ』	システムおよび個別のコンポーネントの両方の Java ES に関する、すべてのマニュアルについて説明されています。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 技術の概要』	Java ES の技術的および概念的な基礎について説明します。コンポーネント、アーキテクチャ、プロセス、および機能について説明しています。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 配備計画ガイド』	Java ES に基づく企業配備ソリューションの計画および設計に関する情報を提供します。配備の計画および設計に関する基本的概念と原則を示し、ソリューションのライフサイクルについて説明し、Java ES に基づくソリューションを計画する際に使用する高度な例と戦略を提供します。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストール計画ガイド』	Java ES の配備に関し、ハードウェア、オペレーティングシステム、およびネットワーク面の実装仕様の開発に役立つ情報を提供します。インストールおよび設定計画を遂行する上で注意すべきコンポーネントの依存関係などの問題について説明します。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド(UNIX 版)』	Solaris オペレーティングシステムまたは Linux オペレーティングシステムに対する Java ES のインストールシーケンスについて説明します。また、インストール後にコンポーネントを設定する方法、および設定したコンポーネントが正常に機能するかどうかを確認する方法についても説明します。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールリファレンス』	設定パラメータに関する追加情報や、設定計画で使用するワークシート、デフォルトディレクトリやポート番号などの参考情報を提供します。
『Sun Java Enterprise System 2005Q1 Deployment Example Series: Evaluation Scenario』	任意のシステムに Java ES をインストールし、共有され、ネットワーク化されたコアとなるサービスを確立し、確立したサービスにアクセス可能なユーザーアカウントを設定する方法について説明します。

表 P-1 Java Enterprise System ドキュメント (続き)

マニュアル名	内容
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Upgrade Guide』	Solaris オペレーティングシステムまたは Linux オペレーティング環境で Java ES をアップグレードする方法および手順について説明します。
『Sun Java Enterprise System Glossary』	Java ES ドキュメントで使用される用語について説明します。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-2 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:
<i>aabbcc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep \^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

注 - * * * 下記の規則に該当する場合は、該当する規則のみ表記する。該当しない場合は、このセクションごと削除。* * *

- このマニュアルでは、英語環境での画面イメージを使っています。このため、実際に日本語環境で表示される画面イメージとこのマニュアルで使っている画面イメージが異なる場合があります。本文中で画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。

コマンド例のシェルプロンプト

次の表に、デフォルトのシステムプロンプトおよびスーパーユーザーのプロンプトを示します。

表 P-3 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
UNIX および Linux システムの C シェル	machine_name%
UNIX および Linux システムの C シェルのスーパーユーザー	machine_name#
UNIX および Linux システムの Bourne シェルと Korn シェル	\$
UNIX および Linux システムの Bourne シェルと Korn シェルのスーパーユーザー	#
Microsoft Windows のコマンド行	C:\

記号の表記規則

次の表に、このマニュアルで使用する記号の表記規則を示します。

表 P-4 記号の表記規則

記号	説明	例	意味
[]	オプションの引数およびコマンドオプションを含みます。	ls [-1]	-1 オプションは省略可能です。
{ }	必須コマンドオプションの選択肢を含みます。	-d {y n}	-d オプションは、引数 y または n のいずれかを使用する必要があります。
\${ }	変数の参照を示します。	\${com.sun.javaRoot}	com.sun.javaRoot 変数の値を参照します。
-	同時に押すキーを連結します。	Control-A	Control キーと A キーを同時に押します。
+	連続して押すキーを連結します。	Ctrl+A+N	Control キーを押し、放してから、以後のキーを続けて押します。
→	グラフィカルユーザーインターフェイスで選択するメニュー項目を示します。	「ファイル」→「新規」 →「テンプレート」	「ファイル」メニューから「新規」を選択します。「新規」サブメニューから、「テンプレート」を選択します。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよび トレーニング	http://jp.sun.com/supporttraining/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

第 1 章

設定情報

この章では、「今すぐ設定」設定オプションでのインストール時にコンポーネントを設定するために、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラに指定する必要がある情報について説明します。この情報には、一般的なサーバー設定や、インストール時に設定できる各コンポーネントに固有の情報が含まれます。

この章の内容は、第 2 章に記載されているワークシートとともに使用します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 19 ページの「この章の利用方法」
- 22 ページの「共通サーバー設定」
- 23 ページの「Access Manager 設定情報」
- 39 ページの「Access Manager SDK 設定情報」
- 45 ページの「管理サーバーの設定情報」
- 47 ページの「Application Server の設定情報」
- 50 ページの「Directory Server 設定情報」
- 56 ページの「Directory Proxy Server 設定情報」
- 57 ページの「HADB の設定情報」
- 58 ページの「Portal Server の設定情報」
- 65 ページの「Portal Server Secure Remote Access の設定情報」
- 81 ページの「Web Server の設定情報」
- 84 ページの「Web Proxy Server の設定情報」
- 85 ページの「状態ファイルのみで使用されるパラメータ」

この章の利用方法

「今すぐ設定」設定オプションを使用する場合、Java ES のインストーラは、インストール時に設定可能な、選択されたコンポーネントの設定ページを表示します。デフォルトの情報をそのまま使用することも、別の情報を入力することもできます。

注 - 次のコンポーネントは、Java ES インストーラでは設定できません。Calendar Server、Communications Express、Delegated Administrator、Directory Server Preparation Tool、Instant Messaging、Messaging Server、Service Registry、および Sun Cluster ソフトウェア。

「あとで設定」設定オプションを使用する場合、インストール中は、一般的なサーバー設定と、ポート設定がどのように機能するかを認識する以外の作業はほとんど必要ありません。インストールディレクトリおよびポートの割り当ての詳細は、第3章を参照してください。

この章で示すコンポーネント別の表は、グラフィカルインストーラでの設定ページと同様にグループ分けされています。最初にコンポーネント別に、次に情報のタイプ別にグループ分けされています。設定情報の表には、「ラベルと状態ファイルのパラメータ」および「説明」という2つの列があります。「ラベルと状態ファイルのパラメータ」列には、次の情報が含まれます。

- **ラベル:**グラフィカルインストーラで情報を識別するためのテキスト。これは、通常は入力フィールドに付けられたラベルです。
- **状態ファイルのパラメータ:**サイレントインストール用の状態ファイルで情報を識別するためのキー。状態ファイルのパラメータは、大文字のモノスペースフォントで表示されます。

ヒント - パラメータの使用方法を理解するには、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド (UNIX 版)』の付録 C 「状態ファイルの例」で示されている状態ファイルの例を検討するのがよい方法です。

インストールセッションの最後に、インストール中に設定された設定値がサマリーファイルに記録されます。このファイルをインストーラで表示したり、このファイルが保存されている次のディレクトリから表示することができます。

Solaris OS の場合: /var/sadm/install/logs

Linux の場合: /var/opt/sun/install/logs

デフォルト値

デフォルト値は、インストーラのすべてのモードに適用されます。ただし、サイレントモードで使用される状態ファイルの説明では別の値が示されます。

状態ファイルの値は、特に明記されていないかぎり大文字と小文字が区別されます。

設定で使用する用語

インストールおよび設定時に、さまざまなタイプのドメイン、組織、および関連する設定情報の値を指定するように求められます。

- **DNS (Domain Name System)**。DNS (Domain Name System) は、分散インターネットディレクトリサービスです。大抵の場合、DNS は、ドメイン名と IP アドレス間の変換および電子メールの配信を制御するために使用されます。
- **DNS ドメイン名**。DNS ドメイン名は、ネットワーク上のサーバーのグループを識別します。ドメイン名の例: `example.com`、`red.example.com`
- **完全修飾ドメイン名 (FQDN: Fully Qualified Domain Name)**。FQDN は、サーバー、ルーターなどのネットワークデバイス上に存在するネットワークインタフェースの TCP/IP アドレスに対応する、人間に解読可能な名前です。サーバーの FQDN には、ホスト名とドメイン名の両方が含まれます。サーバーの FQDN の例: `myComputer.example.com`
- **ホスト名**。ホスト名は、ネットワーク上でサーバーを識別する一意の名前です。ホスト名は、サーバーのローカル名と組織のドメイン名の組み合わせで表現できます。これは、サーバーの FQDN でもあります。ドメインのコンテキスト内では、ホスト名をローカル名だけで表せます。これは、ローカル名がドメイン内部で一意でなければならないためです。ホスト名の例:
 - FQDN 表現: `myComputer.red.example.com`
 - ローカル名表現 (`red.example.com` ドメイン内で一意): `myComputer`
- **設定ディレクトリ**。さまざまな管理ドメインの設定情報を格納する Directory Server のインスタンス。管理サーバーは、これらのドメインを管理する際に、設定ディレクトリにアクセスします。設定情報を保持するサブツリーのベースサフィックスは、常に `o=NetscapeRoot` になります。
- **ユーザー/グループディレクトリ**。LDAP 階層内の組織情報を格納する Directory Server のインスタンス。通常、組織は、LDAP 階層内の DNS ドメイン名で表現されます。階層内の各組織には、人、組織単位、プリンタ、ドキュメントなどを表すエントリを含めることができます。
- **管理ドメイン**。Directory Server 設定ディレクトリサーバー内で表現され、Sun Java System サーバーコンソールで管理されるサーバーのセット。通常、管理ドメインは、LDAP 階層内で DNS ドメイン名を使用して表現されますが、任意の名前を使用して、管理ドメインを構成するサーバーグループを表現できます。
- **電子メールドメイン**。電子メールのルーティングに使用される DNS 内の一意のドメイン。組織の電子メールドメインには DNS ドメイン名を使用できますが、別のドメインを使用して電子メールをルーティングすることも可能です。例: DNS ドメイン: `example.com` 電子メールドメイン: `sfbay.example.com` (Sun の LDAP スキーマ 2 を使用する場合。電子メールドメインは、ユーザー/グループディレクトリ内で組織の属性として表現される)
- **認証ドメイン**。Access Manager では、トラストサークルは認証ドメインとして実装されます。認証ドメインは DNS ドメインではありません。Access Manager では、認証ドメインは、アイデンティティを連携する目的でグループ化されるエンティティを表します。

- **組織 DN**。ユーザー / グループディレクトリの LDAP 階層内の組織の一意名。通常、組織は、o、ou、または dc LDAP 属性を使用して、LDAP 階層内の DNS ドメイン名で表現されます。組織には、サブ組織を含めることができます。
- **ディレクトリマネージャー**。UNIX のスーパーユーザーに相当する、権限のある Directory Server 管理者。デフォルトのディレクトリマネージャー DN は cn=Directory Manager ですが、これは変更可能です。インストールおよび設定時に、ディレクトリマネージャー DN およびパスワードを指定して、LDAP 設定を変更する必要があります。

情報の参照方法

この章の情報を参考にして、インストーラで要求される設定情報を入力するには、次のようにします。

1. そのコンポーネントについて説明している項目を特定します。
2. 表示されているインストーラページに対応する表を探します。各表には、インストーラのそれぞれのページに含まれるすべてのフィールドと質問が記載されています。
3. この章で状態ファイルのパラメータに関する情報を参照するには、次のようにします。
 - オンラインガイドを使用している場合は、HTML または PDF の検索機能を使用してパラメータ文字列を検索します。
 - 印刷されているマニュアルを使用している場合は、索引を参照します。索引には、各パラメータ名の項目が記載されています。

共通サーバー設定

「今すぐ設定」設定オプションを使用してコンポーネントをインストールする場合、インストーラでは一連の共通サーバー設定が表示されます。この設定は、設定を使用するコンポーネントのデフォルト値として使用されます。

インストーラの設定ページで「共有デフォルト値」という表記は、その設定が「共通サーバー設定」ページで設定されたデフォルト値であることを示します。デフォルト値をそのまま使用することも、設定中のコンポーネントに固有の値を入力することによってデフォルト値を変更することもできます。

次の表に、共通サーバー設定のデフォルト値の一覧を示します。

表 1-1 共通サーバー設定

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明	デフォルト値
ホスト名 CMN_HOST_NAME	Java ES コンポーネントのインストール先ホストのホスト名。	hostname コマンドの出力。例: thishost
DNS ドメイン名 CMN_DOMAIN_NAME	インストール先ホストのドメイン。	ローカル DNS サーバーに登録されている、このコンピュータのドメイン名。例: subdomain.domain.com
ホスト IP アドレス CMN_IPADDRESS	インストール先ホストの IP アドレス。	ローカルホストの IP アドレス。例: 127.51.91.192
管理者ユーザー ID CMN_ADMIN_USER	インストールされるすべてのコンポーネントの管理者のデフォルトユーザー ID。	admin
管理者パスワード CMN_ADMIN_PASSWORD	インストールされるすべてのコンポーネントの管理者のデフォルトパスワード。	デフォルト値はありません。パスワードは 8 文字以上で指定する必要があります。
システムユーザー CMN_SYSTEM_USER	コンポーネントプロセスの実行に適用されるユーザー ID (UID)。	root
システムグループ CMN_SYSTEM_GROUP	システムユーザーのグループ ID (GID)。	other

Access Manager 設定情報

Java ES インストーラでは、Access Manager の次のサブコンポーネントをインストールできます。

- アイデンティティ管理とポリシーサービスコア
- Access Manager 管理コンソール
- 連携管理の共有ドメインサービス
- Access Manager SDK

注 - Access Manager SDK はアイデンティティ管理とポリシーサービスコアの一部として自動的にインストールされますが、SDK はリモートホストに個別にインストールすることもできます。Access Manager SDK の個別のインストールについては、39 ページの「Access Manager SDK 設定情報」を参照してください。

インストールするサブコンポーネントが異なると、インストーラに指定する情報も異なります。詳細は次の表を参照してください。この表には、関連情報を参照できる表の参照先も記載されています。

表 1-2 Access Manager のサブコンポーネントのインストールに必要な情報

コンポーネント	必要な情報	関連資料
アイデンティティ管理とポリシーサービスコア	Web コンテナ情報	26 ページの「Access Manager: Web コンテナ情報」
	Directory Server 情報	36 ページの「Access Manager: Directory Server 情報」
	作成されたディレクトリの情報	38 ページの「プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合」および38 ページの「プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合」
連携管理の共有ドメインサービス	サービス情報	36 ページの「Access Manager 連携管理のインストール (コアがすでにインストールされている場合)」
Access Manager 管理コンソール	管理情報	24 ページの「Access Manager: 管理情報」
	サービス情報	33 ページの「Access Manager コンソールのインストール (コアがすでにインストールされている場合)」

Access Manager: 管理情報

Access Manager の管理コンソールをインストールする場合、インストーラは次の情報を要求します。

表 1-3 Access Manager の管理に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者ユーザー ID IS_ADMIN_USER_ID	<p>Access Manager の最上位管理者。このユーザーは、Access Manager が管理するすべてのエントリに対する無制限のアクセス権を持ちます。</p> <p>デフォルト名の amadmin を変更することはできません。これにより、Access Manager 管理者のロールおよび権限の作成と Directory Server へのマッピングが正しく行われることが保証されるため、ユーザーはインストール後すぐに Access Manager にログオンできます。</p>
管理者パスワード IS_ADMINPASSWD	<p>amadmin ユーザーのパスワード。パスワードは 8 文字以上で指定する必要があります。</p> <p>デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値 (CMN_ADMIN_PASSWORD) です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。</p>
LDAP ユーザー ID IS_LDAP_USER	<p>LDAP サービス、Membership サービス、および Policy サービスに対するバインド DN ユーザー。このユーザーは、Directory Server のすべてのエントリに対する読み取りおよび検索アクセス権を持ちます。</p> <p>デフォルトユーザー名の amldapuser は変更できません。</p>
LDAP パスワード IS_LDAPUSERPASSWD	<p>amldapuser ユーザーのパスワード。このパスワードを amadmin ユーザーのパスワードと同じにすることはできません。有効な任意のディレクトリサービスのパスワードを指定できます。</p>

表 1-3 Access Manager の管理に関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
パスワードの暗号鍵 AM_ENC_PWD	<p>Access Manager がユーザーパスワードの暗号化に使用する文字列。</p> <p>注: セキュリティ上の理由で、パスワードの暗号化鍵は 12 文字以上にすることが推奨されています。</p> <p>対話式インストーラは、デフォルトのパスワード暗号鍵を生成します。デフォルト値を受け入れることも、J2EE 乱数発生関数の生成する任意の鍵を指定することもできます。Access Manager のインストール時にプロパティファイルが更新され、<code>am.encrypted.pwd</code> プロパティはこの値に設定されます。プロパティファイルは <code>AMConfig.properties</code> です。このファイルは次の場所にあります。</p> <p>Solaris OS の場合: <code>/etc/opt/SUNWam/config</code></p> <p>Linux の場合: <code>/etc/opt/sun/identity/config</code></p> <p>Access Manager のサブコンポーネントはすべて、アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアが使用するのと同じ暗号鍵を使用する必要があります。Access Manager のサブコンポーネントを複数のホスト間で配布し、管理コンソールまたは連携管理の共有ドメインサービスをインストールする場合、コアのインストールで生成された <code>am.encrypted.pwd</code> の値をコピーし、このフィールドにペーストします。</p> <p>状態ファイルのデフォルトは LOCK です。任意の文字の組み合わせを使用できます。</p>
インストールタイプ AM_REALM	<p>その他のコンポーネントとの相互運用性のレベルを示します。「レルムモード (バージョン 7.x スタイル)」または「旧バージョンモード (バージョン 6.x スタイル)」のいずれかを選択します。Access Manager を Portal Server、Messaging Server、Calendar Server、Delegated Administrator、または Instant Messaging とともにインストールする場合は、旧バージョンモードを選択する必要があります。</p> <p>AM_REALM に指定可能な値は、「Enabled」(レルム 7.x モードの場合) および「Disabled」(旧バージョン 6.x モードの場合) です。</p> <p>旧バージョンモードのデフォルト値は「Disabled」です。</p>

Access Manager: Web コンテナ情報

Access Manager のアイデンティティ管理およびポリシーサービスコアの各サブコンポーネントは、Web Server または Application Server で稼働します。

注 – このコンポーネントは、サードパーティーの Web コンテナでも稼働しますが、「あとで設定」オプションを選択して AM をインストールする必要があります。この場合、インストール後に設定が実行されます。

インストーラが要求する情報は、Web コンテナの種類によって異なります。

- Web Server の場合は、27 ページの「[Web コンテナ情報: Access Manager と Web Server](#)」を参照してください。
- Application Server の場合は、28 ページの「[Web コンテナ情報: Access Manager と Application Server](#)」を参照してください。

Web コンテナ情報: Access Manager と Web Server

この節では、Web Server が Access Manager のアイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントの Web コンテナである場合に、インストーラに指定する必要がある情報を示しています。

表 1-4 Access Manager と Web Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ホスト名 IS_WS_HOST_NAME	ホストの完全修飾ドメイン名。 たとえば、このホストが <code>siroe.example.com</code> の場合、値は <code>siroe.example.com</code> となります。 デフォルト値は、現在のホストの完全修飾ドメイン名です。
Web Server ポート IS_WS_INSTANCE_PORT	Web Server が HTTP 接続に対して待機するポート。 デフォルト値は 80 です。 このインストーラセッションで Web Server をインストールする場合、デフォルト値は「Web Server HTTP ポート」の値 (<code>WS_ADMIN_PORT</code>) となります。83 ページの「 Web Server: デフォルト Web Server インスタンス情報 」を参照してください。

表 1-4 Access Manager と Web Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Web Server インスタンスディレクトリ	Web Server インスタンスのインストール先ディレクトリへのパス。パスの構文は次のとおりです。
IS_WS_INSTANCE_DIR	<p><i>WebServer-base/https- webservice-instance-name</i></p> <p>このセッションで Web Server をインストールする場合、<i>WebServer-base</i> のデフォルト値は、次に示す Web Server のインストールディレクトリです。</p> <p>Solaris OS の場合: <i>/opt/SUNWwbsvr</i></p> <p>Linux の場合: <i>/opt/sun/webserver</i></p>
ドキュメントルートディレクトリ	Web Server がコンテンツドキュメントを格納するディレクトリ。
IS_WS_DOC_DIR	<p>このインストールセッションで Web Server をインストールする場合、デフォルト値は Web Server の「ドキュメントルートディレクトリ」の値 (<i>WS_INSTANCE_CONTENT_ROOT</i>) となります。</p> <p>83 ページの「Web Server: デフォルト Web Server インスタンス情報」を参照してください。</p> <p>Web Server をインストールしない場合、デフォルトの場所は <i>WebServer-base/docs</i> となります。</p> <p><i>WebServer-base</i> のデフォルト値は、次に示す Web Server のインストールディレクトリです。</p> <p>Solaris OS の場合: <i>/opt/SUNWwbsvr</i></p> <p>Linux の場合: <i>/opt/sun/webserver</i></p>
セキュリティ保護されたサーバーインスタンスポート	Web Server のインスタンスのポートがセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。
IS_SERVER_PROTOCOL	<p>状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は <i>https</i> を、セキュリティ保護されていないポートの場合は <i>http</i> を指定します。デフォルト値は <i>http</i> です。</p>

Web コンテナ情報: Access Manager と Application Server

この節では、Application Server が Access Manager のアイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントの Web コンテナである場合に、インストールに指定する必要がある情報を示しています。

表 1-5 Access Manager と Application Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストールディレクトリ IS_APPSERVERBASEDIR	Application Server のインストール先ディレクトリへのパス。 Application Server をインストールする場合、この値のデフォルト値は Application Server のインストールディレクトリに指定した値となります。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /opt/SUNWappserver/appserver Linux の場合: /opt/sun/appserver
Access Manager 実行時インスタンス IS_IAS81INSTANCE	Access Manager を実行する Application Server インスタンスの名前。 デフォルト値は server です。
インスタンスディレクトリ IS_IAS81INSTANCEDIR	Application Server がインスタンスのファイルを格納するディレクトリへのパス。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver/domains Linux の場合: /var/opt/sun/appserver/domains
Access Manager インスタンスポート IS_IAS81INSTANCE_PORT	Application Server がインスタンスへの接続を待機するポート。 デフォルト値は 8080 です。
ドキュメントルート IS_SUNAPPSERVER_DOCS_DIR	Application Server がコンテンツドキュメントを格納するディレクトリです。 デフォルトのドキュメントルートは、IS_IAS81INSTANCEDIR によって指定されるインスタンスディレクトリの最後に domainname/docroot を追加した値となります。例: IS_IAS81INSTANCEDIR/domainname/docroot
管理者ユーザー ID IS_IAS81_ADMIN	Application Server 管理者のユーザー ID デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。
管理者パスワード IS_IAS81_ADMINPASSWD	Application Server 管理者のパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者のユーザーパスワード」の値です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。

表 1-5 Access Manager と Application Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理ポート IS_IAS81_ADMINPORT	Application Server の管理サーバーが接続を待機するポート。 デフォルト値は 4849 です。
セキュリティ保護されたサーバーインスタンスポート IS_SERVER_PROTOCOL	「インスタンスポート」の値 (IS_IAS81INSTANCE_PORT) がセキュリティ保護されたポートを参照するかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https を、セキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。
セキュリティ保護された管理サーバーポート ASADMIN_PROTOCOL	「管理ポート」の値 (IS_IAS81_ADMINPORT) がセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https を、セキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は https です。

Access Manager: サービス情報

Access Manager のサブコンポーネントが異なる場合、インストーラに指定する Access Manager サービスの情報も異なります。

- 30 ページの「Access Manager のコアとコンソールのインストール」
- 33 ページの「Access Manager コンソールのインストール (コアがすでにインストールされている場合)」
- 34 ページの「Access Manager コンソールのインストール (コアがまだインストールされていない場合)」
- 36 ページの「Access Manager 連携管理のインストール (コアがすでにインストールされている場合)」

Access Manager のコアとコンソールのインストール

この節では、アイデンティティ管理、ポリシーサービスコア、および Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントのインストール時に、インストーラに指定するサービス情報を示しています。

この例では、新規コンソールを配備するか、配備済みのコンソールを使用できます。「説明」列に示すように、新規コンソールを配備する場合は、30 ページの「Access Manager のコアとコンソールのインストール」の一部の情報はありません。

表 1-6 Access Manager のコアとコンソールをインストールするためのサービスに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ホスト名 IS_SERVER_HOST	インストール先のホストの完全修飾ドメイン名。 デフォルト値は、ローカルホストの完全修飾ドメイン名です。
サービス配備 URI SERVER_DEPLOY_URI	アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI (Uniform Resource Identifier) プレフィックス。 デフォルト値は <code>amserver</code> です。先頭にスラッシュを入力しないでください。
共通ドメイン配備 URI CDS_DEPLOY_URI	Web コンテナ上の共通ドメインサービスにアクセスするための URI プレフィックス。 デフォルト値は <code>amcommon</code> です。先頭にスラッシュを入力しないでください。
Cookie ドメイン COOKIE_DOMAIN_LIST	Access Manager がユーザーにセッション ID を付与する場合に、Access Manager がブラウザに返す、信頼できる DNS ドメインの名前。 この値は、 <code>example.com</code> などの単一の最上位ドメインに限定することができます。この場合、セッション ID で <code>example.com</code> のすべてのサブドメインの認証が得られます。 また、 <code>.corp.example.com</code> , <code>.sales.example.com</code> のように、コンマで区切ってサブドメインを指定することもできます。この場合、セッション ID でリスト内のすべてのサブドメインの認証が得られます。 リスト内の各ドメインの先頭に、ドット (.) を指定する必要があります。 デフォルト値は、現在のドメインにプレフィックスとしてドット (.) を付加した値となります。

表 1-6 Access Manager のコアとコンソールをインストールするためのサービスに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理コンソール: 新しいコンソールを配備および 既存コンソールを使用 USE_DSAME_SERVICES_WEB_CONTAINER	<p>Access Manager がインストールされるホストの Web コンテナにコンソールを配備するには、新規コンソールの配備を選択します。別のホストに配備されている既存のコンソールを使用するには、既存コンソールの使用を選択します。</p> <p>どちらの場合も、コンソール配備 URI とパスワード配備 URI を指定します。既存のコンソールを使用する場合は、コンソールホスト名とコンソールポートも指定する必要があります。</p> <p>状態ファイルでは、新規コンソールを配備する場合は true、既存コンソールを使用する場合は false を指定します。</p>
コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI	<p>Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。Access Manager のモードにより異なります。</p> <p>旧バージョンモード (6.x): /amconsole または /amserver</p> <p>レルムモード (7.x): /amserver</p> <p>デフォルト値は amconsole です。先頭にスラッシュを入力しないでください。</p>
パスワード配備 URI PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI	<p>Access Manager を実行する Web コンテナが使用する、ユーザー指定の文字列と対応する配備済みアプリケーション間のマッピングを決定する URI。</p> <p>デフォルト値は ampassword です。先頭にスラッシュを入力しないでください。</p>
コンソールホスト名 CONSOLE_HOST	<p>既存のコンソールをホストするサーバーの完全修飾ドメイン名。</p> <p>コンソールを新たに配備する場合は、この値を指定する必要はありません。グラフィカルインストールモードでは、既存のコンソールを使用する場合のみ、このフィールドを編集できます。</p> <p>デフォルト値には、「ホスト」に指定した値 (IS_SERVER_HOST)、ドット、および共通サーバー設定で指定した「DNS ドメイン名」の値が含まれます。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。</p> <p>たとえば、ホストが siroe、ドメインが example.com であれば、デフォルト値は siroe.example.com になります。</p>

表 1-6 Access Manager のコアとコンソールをインストールするためのサービスに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
コンソールポート CONSOLE_PORT	<p>既存のコンソールが接続を待機するポート。0～65535 の範囲内で、有効かつ未使用の任意のポート番号を使用できます。</p> <p>コンソールを新たに配備する場合は、この値を指定する必要はありません。グラフィカルインストールモードでは、既存のコンソールを使用する場合のみ、このフィールドを編集できます。</p> <p>デフォルト値は、次のいずれかの Web コンテナポートで指定した値となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「Web Server ポート」 (IS_WS_INSTANCE_PORT)。27 ページの「Web コンテナ情報: Access Manager と Web Server」を参照 ■ 「Access Manager インスタンスポート」 (IS_IAS81_INSTANCE_PORT)。28 ページの「Web コンテナ情報: Access Manager と Application Server」を参照

Access Manager コンソールのインストール (コアがすでにインストールされている場合)

この節では、次の両方の条件が真である場合にインストーラに指定するサービス情報を示します。

- Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントのみをインストールします。
- アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントが、すでに同一のホストにインストールされています。

注 - AM コンソール単体のインストールは、レルムモード (7.x) でのみ実行できます。旧バージョンモード (6.x) では実行できません。

表 1-7 コンソールのみをインストールするための Access Manager サービス情報 (コアがすでにインストールされている場合)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI	Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。Access Manager のモードにより異なります。 レルムモード (7.x): /amconsole または /amserver 旧バージョンモード (6.x): /amserver
パスワードサービス配備 URI PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI	Access Manager を実行する Web コンテナが使用する、ユーザー指定の文字列と対応する配備済みアプリケーション間のマッピングを決定する URI。 デフォルト値は ampasword です。先頭にスラッシュを入力しないでください。

Access Manager コンソールのインストール (コアがまだインストールされていない場合)

この節では、次の両方の条件が真である場合にインストーラに指定するサービス情報を示しています。

- Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントのみをインストールします。
- アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントが、異なるホストにインストールされています。

表 1-8 Access Manager コンソールをインストールするためのサービス情報 (コアがまだインストールされていない場合)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Access Manager 管理コンソール用の Web コンテナ	
コンソールホスト名 CONSOLE_HOST	インストール先のホストの完全修飾ドメイン名。
コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI	Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。Access Manager のモードにより異なります。 旧バージョンモード (6.x): /amconsole または /amserver レルムモード (7.x): /amserver

表 1-8 Access Manager コンソールをインストールするためのサービス情報 (コアがまだインストールされていない場合) (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
パスワードサービス配備 URI	パスワードサービス用の配備 URI。
PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI	デフォルト値は <code>ampassword</code> です。先頭にスラッシュを入力しないでください。
Access Manager サービス用の Web コンテナ	
サービスホスト名	アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントのインストール先ホストの完全修飾ドメイン名。
IS_SERVER_HOST	デフォルト値は、このホストの完全修飾ドメイン名です。デフォルト値は指定形式を示す例としてだけ用い、値を編集して正しいリモートホスト名を指定する必要があります。 状態ファイルでは、リモートホストの完全修飾ドメイン名を指定します。
ポート	アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントが接続を待機するポート。このポートは、Web コンテナが使用する HTTP ポートまたは HTTPS ポートです。
CONSOLE_PORT	
サービス配備 URI	アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。
SERVER_DEPLOY_URI	デフォルト値は <code>amserver</code> です。先頭にスラッシュを入力しないでください。

表 1-8 Access Manager コンソールをインストールするためのサービス情報 (コアがまだインストールされていない場合) (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Cookie ドメイン COOKIE_DOMAIN_LIST	<p>Access Manager がユーザーにセッション ID を付与する場合に、Access Manager がブラウザに返す、信頼できる DNS ドメインの名前。</p> <p>この値を example.com などの単一の最上位ドメインに限定できます。この場合、セッション ID で example.com のすべてのサブドメインの認証が得られます。</p> <p>また、 .corp.example.com, .sales.example.com のように、コンマで区切ってサブドメインを指定することもできます。この場合、セッション ID でリスト内のすべてのサブドメインの認証が得られます。</p> <p>各ドメインの先頭に、ドット (.) を指定する必要があります。</p> <p>デフォルト値は、現在のドメインにプレフィックスとしてドット (.) を付加した値となります。</p>

Access Manager 連携管理のインストール (コアがすでにインストールされている場合)

この節では、連携管理サブコンポーネントの共有ドメインサービスのみをインストールする場合に、インストーラに指定するサービス情報を示しています。

表 1-9 連携管理をインストールするための Access Manager サービス情報 (コアがすでにインストールされている場合)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
共通ドメイン配備 URI CDS_DEPLOY_URI	<p>Web コンテナ上の共通ドメインサービスにアクセスするための URI プレフィックス。</p> <p>デフォルト値は amcommon です。先頭にスラッシュを入力しないでください。</p>

Access Manager: Directory Server 情報

アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアをインストールする場合に、インストーラに指定する情報は次のとおりです。

表 1-10 Access Manager のインストール時に必要となる Directory Server に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Directory Server ホスト IS_DS_HOSTNAME	Directory Server が存在するホストを決定するホスト名または値。 デフォルト値は、ローカルホストの完全修飾ドメイン名です。たとえば、ローカルホストが <code>siroe.example.com</code> の場合、デフォルト値は <code>siroe.example.com</code> となります。
Directory Server ポート IS_DS_PORT	Directory Server がクライアント接続を待機するポート。 デフォルト値は 389 です。
Access Manager ディレクトリルートサフィックス IS_ROOT_SUFFIX	Access Manager ルートサフィックスとして設定する識別名 (DN)。 デフォルト値は、このホストの完全修飾ホスト名からホスト名を除いた値に基づきます。たとえば、このホストが <code>siroe.subdomain.example.com</code> の場合、値は <code>dc=subdomain,dc=example,dc=com</code> になります。
ディレクトリマネージャー DN IS_DIRMGRDN	Directory Server への無制限のアクセス権を持つユーザーの DN。 デフォルト値は <code>cn=Directory Manager</code> です。
ディレクトリマネージャーパスワード IS_DIRMGRPASSWD	ディレクトリマネージャーのパスワード。

Access Manager: プロビジョニングされているディレクトリの情報

プロビジョニングされたディレクトリの設定に必要な情報は、インストーラがホスト内でプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出するかどうかによって異なります。

インストーラは、状態ファイルを生成するとき、プロビジョニングされた既存ディレクトリを検出すると、状態ファイルに `IS_EXISTING_DIT_SCHEMA=y` を書き込みます。プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合、インストーラは状態ファイルに `IS_EXISTING_DIT_SCHEMA=n` を書き込みます。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合

インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出した場合は、次の情報を指定します。

表 1-11 Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ユーザーネーミング属性 IS_USER_NAMING_ATTR	プロビジョニングされたディレクトリ内でユーザーに対して使用されるネーミング属性。 デフォルト値は uid です。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合

インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出しない場合、プロビジョニングされた既存ディレクトリを使用するかどうかを選択できます。次の表の最初の質問に対して Yes を指定した場合、表に記載されている残りの質問に対しても情報を指定する必要があります。

表 1-12 Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合の設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Directory Server にユーザーデータが準備されていますか? IS_LOAD_DIT	プロビジョニングされた既存ディレクトリを使用するかどうかを指定します。 デフォルト値は No です。 状態ファイルの値として指定できる値は、y または n です。デフォルト値は n です。
組織マーカーオブジェクトクラス IS_ORG_OBJECT_CLASS	プロビジョニングされた既存ディレクトリ内で組織に対して定義されているオブジェクトクラス。 この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。 デフォルト値は SunISManagedOrganization です。

表 1-12 Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合の設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
組織ネーミング属性 IS_ORG_NAMING_ATTR	<p>プロビジョニングされている既存ディレクトリ内で組織の定義に使用されるネーミング属性。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を <code>Yes</code> に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は <code>o</code> です。</p>
ユーザーマーカーオブジェクトクラス IS_USER_OBJECT_CLASS	<p>プロビジョニングされた既存ディレクトリ内でユーザーに対して定義されているオブジェクトクラス。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を <code>Yes</code> に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は <code>inetorgperson</code> です。</p>
ユーザーネーミング属性 IS_USER_NAMING_ATTR	<p>プロビジョニングされた既存ディレクトリ内でユーザーに対して使用されるネーミング属性。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を <code>Yes</code> に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は <code>uid</code> です。</p>

Access Manager SDK 設定情報

Access Manager のサブコンポーネントであるアイデンティティ管理とポリシーサービスコアをインストールすると、Access Manager SDK が自動的にインストールされます。Access Manager SDK は、Access Manager コアサービスから離れたリモートホストに独立したコンポーネントとしてインストールすることもできます。

Access Manager SDK をインストールする前に、リモートホストに Access Manager コアサービスがインストールされ、稼働している必要があります。このインストールの実行中に指定する Web コンテナの情報と Directory Server の設定情報は、Access Manager コアサービスのインストール時に指定した Web コンテナ情報および Directory Server 設定情報と一致している必要があります。

注 - インストーラが Web コンテナと Directory Server に関する情報を要求するとき、ローカルホストの設定に基づいたデフォルト値が表示されます。

デフォルト値は形式の例としてだけ使用し、これらの値をそのまま適用しないでください。ここでは、デフォルト値の代わりに、正しいリモート情報を指定する必要があります。

Access Manager SDK を別個のコンポーネントとしてインストールする場合は、次の情報を指定する必要があります。

- 40 ページの「Access Manager SDK: 管理情報」
- 41 ページの「Access Manager SDK: Directory Server 情報」
- 42 ページの「Access Manager SDK: プロビジョニングされているディレクトリの情報」
- 44 ページの「Access Manager SDK: Web コンテナ情報」

Access Manager SDK: 管理情報

Access Manager SDK のみをインストールする場合、インストーラは次の管理情報を要求します。

表 1-13 Access Manager SDK のインストール時に必要となる管理に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者ユーザー ID IS_ADMIN_USER_ID	Access Manager の最上位管理者。このユーザーは、Access Manager が管理するすべてのエントリに対する無制限のアクセス権を持ちます。 デフォルト名の amadmin を変更することはできません。これにより、Access Manager 管理者のロールおよび権限の作成と Directory Server へのマッピングが正しく行われることが保証されるため、ユーザーはインストール後すぐに Access Manager にログオンできます。
管理者パスワード IS_ADMINPASSWD	amadmin ユーザーのパスワード。パスワードは 8 文字以上で指定する必要があります。 リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値 (CMN_ADMIN_PASSWORD) です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。
LDAP ユーザー ID IS_LDAP_USER	LDAP サービス、Membership サービス、および Policy サービスに対するバインド DN ユーザー。このユーザーは、Directory Server のすべてのエントリに対する読み取りおよび検索アクセス権を持ちます。 デフォルトユーザー名の amldapuser は変更できません。

表 1-13 Access Manager SDK のインストール時に必要となる管理に関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
LDAP パスワード IS_LDAPUSERPASSWD	amldapuser ユーザーのパスワード。このパスワードを amadmin ユーザーのパスワードと同じにすることはできません。有効な任意のディレクトリサービスのパスワードを指定できます。 リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。
パスワードの暗号鍵 AM_ENC_PWD	Access Manager がユーザーパスワードの暗号化に使用する文字列。 注: セキュリティー上の理由で、パスワードの暗号化鍵は 12 文字以上にすることが推奨されています。 Access Manager のサブコンポーネントはすべて、アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアが使用するのと同じ暗号鍵を使用する必要があります。Access Manager SDK の暗号鍵を指定するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. コアのインストールで生成された am. encryption. pwd の値をコピーします。 2. コピーした値をこのフィールドにペーストします。状態ファイルのデフォルトは LOCK です。任意の文字の組み合わせを使用できます。

Access Manager SDK: Directory Server 情報

ほかの Access Manager サブコンポーネントなしで Access Manager SDK をインストールする場合、インストーラは Directory Server に関する次の情報を要求します。

表 1-14 Access Manager SDK のインストール時に必要な Directory Server に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Directory Server ホスト IS_DS_HOSTNAME	Directory Server が存在するホストを決定するホスト名または値。 リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。
Directory Server ポート IS_DS_PORT	Directory Server がクライアント接続を待機するポート。 リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。

表 1-14 Access Manager SDK のインストール時に必要な Directory Server に関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Access Manager ディレクトリルート サフィックス IS_ROOT_SUFFIX	<p>Directory Server のインストール時に Access Manager のルートサフィックスとして指定した識別名 (DN)。ルートサフィックスは、Access Manager により管理されるディレクトリの一部を示します。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> <p>デフォルト値は、このホストの完全修飾ホスト名からホスト名を除いた値に基づきます。たとえば、このホストが <code>siroe.subdomain.example.com</code> の場合、値は <code>dc=subdomain,dc=example,dc=com</code> になります。</p> <p>デフォルト値は、形式を示す例としてだけ利用します。</p>
ディレクトリマネージャー DN IS_DIRMGRDN	<p>Directory Server への無制限のアクセス権を持つユーザーの DN。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> <p>デフォルト値は <code>cn=Directory Manager</code> です。</p>
ディレクトリマネージャーパスワード IS_DIRMGRPASSWD	<p>ディレクトリマネージャーのパスワード。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p>

Access Manager SDK: プロビジョニングされているディレクトリの情報

プロビジョニングされたディレクトリの設定に必要な情報は、インストーラがホスト内でプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出するかどうかによって異なります。

インストーラは、状態ファイルを生成するとき、プロビジョニングされた既存ディレクトリを検出すると、状態ファイルに `IS_EXISTING_DIT_SCHEMA=y` を書き込みます。プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合、インストーラは状態ファイルに `IS_EXISTING_DIT_SCHEMA=n` を書き込みます。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合

インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出した場合は、次の情報を指定します。

表 1-15 Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ユーザーネーミング属性 IS_USER_NAMING_ATTR	プロビジョニングされたディレクトリ内でユーザーに対して使用されるネーミング属性。 デフォルト値は uid です。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合

インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出しない場合、プロビジョニングされた既存ディレクトリを使用するかどうかを選択できます。次の表の最初の質問に対して Yes を指定した場合、表に記載されている残りの質問に対しても情報を指定する必要があります。

表 1-16 Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが存在しない場合の設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Directory Server にユーザーデータが準備されていますか? IS_LOAD_DIT	プロビジョニングされた既存ディレクトリを使用するかどうかを指定します。 デフォルト値は No です。 状態ファイルの値として指定できる値は、y または n です。デフォルト値は n です。
組織マーカーオブジェクトクラス IS_ORG_OBJECT_CLASS	プロビジョニングされた既存ディレクトリ内で組織に対して定義されているオブジェクトクラス。 この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。 デフォルト値は SunISManagedOrganization です。
組織ネーミング属性 IS_ORG_NAMING_ATTR	プロビジョニングされている既存ディレクトリ内で組織の定義に使用されるネーミング属性。 この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。 デフォルト値は o です。

表 1-16 Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが存在しない場合の設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ユーザーマーカーオブジェクトクラス IS_USER_OBJECT_CLASS	<p>プロビジョニングされた既存ディレクトリ内でユーザーに対して定義されているオブジェクトクラス。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は inetorgperson です。</p>
ユーザーネーミング属性 IS_USER_NAMING_ATTR	<p>プロビジョニングされた既存ディレクトリ内でユーザーに対して使用されるネーミング属性。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は uid です。</p>

Access Manager SDK: Web コンテナ情報

Access Manager SDK だけをインストールする場合、インストーラは Web コンテナに関する次の情報を要求します。

表 1-17 Access Manager SDK のインストール時に必要となる Web コンテナに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ホスト IS_WS_HOST_NAME (Web Server)	<p>Access Manager コアサービスを実行する Web コンテナのホスト名。リモートホストに Access Manager をインストールするときに指定した値を使用します。</p> <p>デフォルト値は存在しません。</p>
サービス配備 URI SERVER_DEPLOY_URI	<p>Access Manager に関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> <p>デフォルト値は amserver です。先頭にスラッシュを入力しないでください。</p>

表 1-17 Access Manager SDK のインストール時に必要となる Web コンテナに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Cookie ドメイン COOKIE_DOMAIN_LIST	<p>Access Manager がユーザーにセッション ID を付与する場合に、Access Manager がブラウザに返す、信頼できる DNS ドメインの名前。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> <p>デフォルト値は、現在のドメインにプレフィックスとしてドット (.) を付加した値となります。</p>
サービスポート IS_WS_INSTANCE_PORT (Web Server) IS_IAS81INSTANCE_PORT (Application Server)	<p>Access Manager コアサービスを実行する Web コンテナインスタンスのポート番号。Access Manager コアサービスのインストール時に指定したポート番号を使用します。</p>

管理サーバーの設定情報

管理サーバー: 管理情報

表 1-18 管理サーバーの管理に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
サーバールート ADMINSERV_ROOT	<p>管理サーバーによって管理されるコンポーネントのインストール先のベースパス名。</p> <p>デフォルト値は次のとおりです。</p> <p>Solaris OS の場合: /var/opt/mps/serverroot</p> <p>Linux の場合: /var/opt/sun/directory-server</p>
管理ポート ADMINSERV_PORT	<p>管理コンソールから HTTP 経由でこの管理サーバーに接続する際に使用するポート。</p> <p>デフォルト値は 390 です。使用可能な任意のポート番号を指定できます。</p>

表 1-18 管理サーバーの管理に関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理ドメイン ADMINSERV_DOMAIN	ディレクトリサービスを共有するサーバーコレクションの名前。 推奨されるデフォルト値は、共通サーバー設定に指定したホストドメイン名です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。ただし、管理ドメインの名称は、ネットワークドメインに対して、一致や関連付けの必要はありません。
システムユーザー ADMINSERV_SYSTEM_USER	管理サーバープロセスの実行に適用されるユーザー ID。有効な任意のシステムユーザーを指定できます。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「システムユーザー」の値です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。 注: この値は、関連付けられた Directory Server に対する値と同じでなければなりません。
システムグループ ADMINSERV_SYSTEM_GROUP	有効な任意のシステムグループを指定できます。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定したシステムグループです。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。 注: この値は、関連付けられた Directory Server に対する値と同じでなければなりません。

管理サーバー: 設定用ディレクトリの設定情報

表 1-19 管理サーバーの設定用ディレクトリの設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理ユーザー ID ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_USER	設定ディレクトリ管理者のユーザー ID。管理サーバーは、この ID を使用して設定ディレクトリのデータを管理します。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。 このセッションで Directory Server をインストールする場合、デフォルト値は Directory Server の「管理者ユーザー ID」で指定した値となります。50 ページの「Directory Server: 管理情報」を参照してください。

表 1-19 管理サーバーの設定用ディレクトリの設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者パスワード ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_PASSWORD	<p>設定ディレクトリ管理者のパスワード。</p> <p>デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者のユーザーパスワード」の値です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。</p> <p>このセッションで Directory Server をインストールする場合、デフォルト値は Directory Server の「管理者のユーザーパスワード」で指定した値となります。50 ページの「Directory Server: 管理情報」を参照してください。</p>
Directory Server ホスト ADMINSERV_CONFIG_DIR_HOST	<p>ホスト名、または設定ディレクトリが存在するホストを解決する値を指定します。設定ディレクトリには、管理ドメインに所属する全サーバーの設定データが保存されます。</p> <p>このセッションで Directory Server をインストールする場合、デフォルト値は共通サーバー設定で指定した「ホスト名」の値 (CMN_HOST_NAME) となります。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。</p> <p>このセッションで Directory Server をインストールしない場合、デフォルト値は存在しません。</p>
Directory Server ポート ADMINSERV_CONFIG_DIR_PORT	<p>LDAP 操作で設定ディレクトリへのバインド時に使用するポート。</p> <p>使用中でない任意の有効なポート番号を指定できます。デフォルト値は 389 です。</p> <p>このセッションで Directory Server をインストールする場合、デフォルト値は Directory Server の「Port」の値となります。51 ページの「Directory Server: サーバー設定情報」を参照してください。</p> <p>このセッションで Directory Server をインストールしない場合、デフォルト値は存在しません。</p>

Application Server の設定情報

インストール時に、Application Server について次の情報を指定する必要があります。

- 48 ページの「Application Server: 管理情報」

- 48 ページの「Application Server: ノードエージェント情報」
- 49 ページの「Application Server: ロードバランスプラグイン情報」

Application Server: 管理情報

表 1-20 Application Server の管理に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理ユーザー名 AS_ADMIN_USER_NAME	Application Server 管理者のユーザー ID デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。
パスワード AS_PASSWORD	Application Server の管理者のパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。最低 8 文字以上です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。
管理ポート AS_ADMIN_PORT	Application Server の管理サーバーが接続を待機するポート。管理ツールにアクセスするために必要です。 デフォルト値は 4849 です。
JMX ポート AS_JMX_PORT	Application Server が JMX 接続を待機するポート。 デフォルト値は 8686 です。
HTTP サーバーポート AS_HTTP_PORT	Application Server が HTTP 接続を待機するポート。 デフォルト値は 8080 です。デフォルトポートが使用中の場合、インストーラにより別の値が表示されます。
HTTPS ポート AS_HTTPS_PORT	Application Server が HTTPS 接続を待機するポート。 デフォルト値は 8181 です。
マスターパスワード AS_MASTER_PASSWORD	ドメイン管理サーバーやノードエージェントの起動などの <code>asadmin</code> 操作で使用される SSL 証明書データベースパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。最低 8 文字以上です。

Application Server: ノードエージェント情報

インストール時に、ノード管理について次の情報を指定する必要があります。

表 1-21 Application Server のインストール時に必要となるノードエージェントに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理ホスト名 ASNA_ADMIN_HOST_NAME	ノードエージェントが接続可能なドメイン管理用ホストの名前。 デフォルト値は存在しません。
管理ユーザー名 ASNA_ADMIN_USER_NAME	Application Server 管理ユーザーのユーザー ID。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。
パスワード ASNA_PASSWORD	Application Server 管理ユーザーのパスワード。 デフォルト値は存在しません。
マスターパスワード ASNA_MASTER_PASSWORD	ドメイン管理サーバーやノードエージェントの起動などの <code>asadmin</code> 操作で使用される SSL 証明書データベースパスワード。 デフォルト値は存在しません。
管理ポート ASNA_ADMIN_PORT	Application Server のノードエージェントが接続を待機するポート。管理ツールにアクセスするために必要です。 デフォルト値は 4849 です。
ノードエージェント名 ASNA_NODE_AGENT_NAME	ローカルノードの名前。 デフォルト値はローカルホスト名です。

Application Server: ロードバランスポラグイン情報

表 1-22 Application Server のインストール時に必要となるロードバランスポラグインに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ロードバランスポラグインが使用する Web サーバー AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE	Sun Java System Web Server または Apache Web Server を選択します。 デフォルト値は Sun Java System Web Server です。

表 1-22 Application Server のインストール時に必要となるロードバランプラグインに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Web サーバーの場所 AS_WEB_SERVER_LOCATION	<p>Web Server のインスタンスディレクトリおよび Apache HTTP Server のインストールディレクトリ。</p> <p>ロードバランプラグインをインストールするのと同じセッションで Web Server をインストールする場合、デフォルト値は Web Server です。次に例を示します。</p> <p>Solaris OS の場合:</p> <pre>/opt/SUNWwbsvr /https-hostname .domainname</pre> <p>Linux の場合:</p> <pre>/opt/sun/webserver/https-hostname .domainname</pre>

Directory Server 設定情報

インストール時に、Directory Server について次の情報を指定する必要があります。

- 50 ページの「Directory Server: 管理情報」
- 51 ページの「Directory Server: サーバー設定情報」
- 52 ページの「Directory Server: Directory Server 設定情報」
- 53 ページの「Directory Server: データ格納場所に関する設定情報」
- 54 ページの「Directory Server: データ取り込み情報」

Directory Server: 管理情報

表 1-23 Directory Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者ユーザー ID DS_ADMIN_USER	<p>設定ディレクトリに対して管理者権限を持つユーザー。</p> <p>このユーザーは、サフィックスの作成や削除など、Directory Server の設定を変更できますが、アクセス制御の制約を受けます。</p> <p>デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。</p>

表 1-23 Directory Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者パスワード DS_ADMIN_PASSWORD	管理者のパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。
ディレクトリマネージャー DN DS_DIR_MGR_USER	Directory Server に対して無制限のアクセス権を持つユーザーの識別名 (DN)。 デフォルト値は cn=Directory Manager です。
ディレクトリマネージャーパスワード DS_DIR_MGR_PASSWORD	ディレクトリマネージャーのパスワード。 デフォルト値は存在しません。

Directory Server: サーバー設定情報

表 1-24 Directory Server のインストール時に必要となるサーバーに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Directory Server ルート CMN_DS_SERVER_ROOT	ディレクトリ設定データが格納される Directory Server の場所。 デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/mps/serverroot Linux の場合: /var/opt/sun/directory-server
サーバー識別子 DS_SERVER_IDENTIFIER	管理コンソールで Directory Server のインスタンスを識別する名前。 名前は、オペレーティングシステムのファイル命名規則に準拠している必要があります。ピリオドや空白文字は使用できません。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「ホスト名」の値 (CMN_HOST_NAME) です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。
サーバーポート DS_SERVER_PORT	Directory Server がクライアント接続を待機するポート。 デフォルト値は 389 です。

表 1-24 Directory Server のインストール時に必要となるサーバーに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
サフィックス DS_SUFFIX	このインスタンスによって管理される初期ディレクトリサフィックス。 デフォルト値は、現在のホストの完全修飾ドメイン名のセグメントから構成されます。たとえば、インストール先が <code>siroe.sub1.example.com</code> の場合、デフォルト値は <code>dc=sub1,dc=example,dc=com</code> になります。
管理ドメイン DS_ADM_DOMAIN	データ管理と認証のためにユーザーディレクトリを共有するサーバー製品のグループ。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「DNS ドメイン名」の値 (CMN_DOMAIN_NAME) となります。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。
システムユーザー DS_SYSTEM_USER	Directory Server がホスト上で動作するために使用するユーザー名 (UID)。ID 番号ではなく名前を使用します。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「システムユーザー」の値です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。 注: この値は、関連付けられた管理サーバーに対する値と同じでなければなりません。
システムグループ DS_SYSTEM_GROUP	Directory Server がユーザーとして実行されるグループ名 (UID)。ID 番号ではなく名前を使用します。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「システムグループ」の値です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。 注: この値は、関連付けられた管理サーバーに対する値と同じでなければなりません。

Directory Server: Directory Server 設定情報

この Directory Server インスタンスの設定データは、この Directory Server インスタンス、または別のホスト上の既存の Directory Server インスタンスに格納できます。このインスタンスに設定データを格納する場合は、次の表の最初の質問に対してだけ情報を指定します。別のインスタンスに設定データを格納する場合は、次の表に示されるすべての情報を指定します。

表 1-25 Directory Server のインストール時に必要となる設定用 Directory Server に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
このサーバーに設定データを保存します。このサーバーの設定データを Directory Server の次のインスタンスに保存します。 USE_EXISTING_CONFIG_DIR	Java ES インストーラがこの Directory Server の設定データを格納する場所 (この Directory Server インスタンスまたは別のインスタンス) を制御するオプション。 状態ファイルで次のいずれかの値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0: (ゼロ) この Directory Server インスタンスを使用します。これがデフォルト値です。 ■ 1: 別のインスタンスを使用します。 別のインスタンスに設定データを格納する場合は、この表のほかの情報も指定する必要があります。このインスタンスに設定データを格納する場合は、ほかの項目を指定する必要はありません。
Directory Server ホスト CONFIG_DIR_HOST	ホスト名、または設定ディレクトリが存在するホストを解決する値を指定します。設定ディレクトリには、管理ドメインに所属する全サーバーの設定データが保存されます。
Directory Server ポート CONFIG_DIR_PORT	LDAP 操作で設定ディレクトリへのバインド時に使用するポート。 デフォルト値は 389 です。
ディレクトリマネージャー DN CONFIG_DIR_ADM_USER	Directory Server への無制限のアクセス権を持つユーザーの DN。 デフォルト値は cn=Directory Manager です。
ディレクトリマネージャーパスワード CONFIG_DIR_ADM_PASSWD	ディレクトリマネージャーのパスワードを指定します。

Directory Server: データ格納場所に関する設定情報

ユーザーデータおよびグループデータは、この Directory Server インスタンスまたは既存のインスタンスに格納できます。次の表に示す設定情報を指定する必要があるのは、この Directory Server インスタンスのユーザーデータおよびグループデータを別のインスタンスのユーザーディレクトリに格納する場合だけです。

表 1-26 Directory Server のインストール時に必要となるデータ格納場所に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
このサーバーにユーザーデータおよびグループデータを保存します。Directory Server の次のインスタンスにユーザーデータおよびグループデータを保存します。	Java ES インストーラが Directory Server のユーザーデータおよびグループデータを格納する場所を制御するオプション。データは、インストールされるインスタンス、または既存の Directory Server インスタンスのどちらかに格納されます。
USE_EXISTING_USER_DIR	別のインスタンスにユーザーデータおよびグループデータを保存する場合は、この表に記載された追加情報を指定する必要があります。 状態ファイルで次のいずれかの値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0: (ゼロ) ユーザーデータおよびグループデータをこの Directory Server インスタンスに格納します。これがデフォルト値です。 ■ 1: リモートインスタンスを使用します。
Directory Server ホスト USER_DIR_HOST	Directory Server がユーザーデータを保存するホストを解決するホスト名または値を指定します。
Directory Server ポート USER_DIR_PORT	LDAP 操作でユーザーディレクトリへのバインド時に使用するポート。 このポートは、Directory Server の設定で指定した「Directory Server ポート」の値 (CONFIG_DIR_PORT) と一致する必要があります。デフォルト値は 389 です。
ディレクトリマネージャー DN USER_DIR_ADM_USER	Directory Server への無制限のアクセス権を持つユーザーの DN。 デフォルト値は cn=Directory Manager です。
ディレクトリマネージャーパスワード USER_DIR_ADM_PASSWD	ディレクトリマネージャーのパスワード。
サフィックス USER_DIR_SUFFIX	ユーザーおよびグループデータを含む Directory Server サフィックス。たとえば、dc=example, dc=com などです。 この値は、LDAP ツリー内のエントリに対応している必要があります。

Directory Server: データ取り込み情報

インストールおよび設定処理を行う際に、Directory Server のユーザーディレクトリを取り込むことができます。

表 1-27 Directory Server のインストール時に必要となるデータ取り込みに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
<p>サンプル組織構造の読み込み</p> <p>DS_ADD_SAMPLE_ENTRIES</p>	<p>Java Enterprise System インストーラに対し、サンプルのロールおよびグループを、この Directory Server インスタンスの対応するアクセス制御リストとともに追加するように指示するオプション。</p> <p>状態ファイルで次のいずれかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1: Directory Server にサンプル組織構造を読み込みます。 ■ 0: (ゼロ) サンプルデータを読み込みません。これがデフォルト値です。
<p>データの読み込み</p> <p>DS_POPULATE_DATABASE</p>	<p>Java Enterprise System インストーラに対し、エントリーを後で別個にロードするのではなく、インストールおよび設定処理の一部としてロードするように指示します。</p> <p>状態ファイルで次のいずれかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1: Directory Server にサンプルデータを読み込みます。これがデフォルト値です。 ■ 0: (ゼロ) サンプルデータを読み込みません。
<p>サンプルデータ、自分のデータ (LDIF ファイル)、ファイル名</p> <p>DS_POPULATE_DATABASE_FILE_NAME</p>	<p>次のオプションのいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>DirectoryProxyServer-base /slapd-ServerID /ldif/</i> 内のサンプル LDIF ファイルからエントリーをロードします。 ■ ユーザーが指定した LDIF ファイルからエントリーをロードします。このオプションを選択する場合は、ファイル名を入力する必要があります。状態ファイルで次のいずれかを選択します。 ■ パラメータ値には何も入力せずに、サンプルファイルからエントリーをロードします。 ■ 完全修飾ファイル名を指定して、そのファイルからエントリーをロードします。

表 1-27 Directory Server のインストール時に必要となるデータ取り込みに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
スキーマチェックを無効にしてデータインポートを高速化する DS_DISABLE_SCHEMA_CHECKING	<p>Java Enterprise System インストーラに対し、エントリが既知のスキーマに従っているかどうかをチェックせずにサンプルデータをロードするように指示するオプション。</p> <p>スキーマチェックを有効にすると、既知のスキーマに従っている場合にのみ、ロードされたエントリを変更できます。スキーマチェックを無効にする場合は、インストール後に矛盾を解決することを予定に入れておく必要があります。</p> <p>状態ファイルで次のいずれかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1: スキーマチェックを無効にします。 ■ 0: (ゼロ) スキーマチェックを有効にします。これがデフォルト値です。

Directory Proxy Server 設定情報

Directory Proxy Server と同時に管理サーバーがインストールされる場合、管理サーバーも設定する必要があります。

いずれかのバージョンの管理サーバーがすでにインストールされているホストに Directory Proxy Server をインストールする場合は、インストーラにサーバールート情報も指定する必要があります。

Directory Proxy Server: ポート選択の情報

インストーラでは、Directory Proxy Server のポート選択情報が必要です。

表 1-28 Directory Proxy Server のインストール時に必要となるポート選択に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Directory Proxy Server ポート DPS_PORT	<p>Directory Proxy Server がクライアント接続を待機するポート。</p> <p>デフォルト値は 489 です。</p>

Directory Proxy Server: サーバルート情報

管理サーバーがすでにインストールされている場合に限り、インストーラは次の表に記載されている情報を要求します。

表 1-29 Directory Proxy Server のインストール時に必要となるサーバールートに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Administration Server ルートディレクトリ DPS_SERVERROOT	<p>Directory Proxy Server のこのインスタンスの管理サーバ設定データが格納されているファイルシステムディレクトリ。</p> <p>このディレクトリは、管理サーバ設定の「サーバールート」の値 (ADMINSERV_ROOT) に関連付けられています。45 ページの「管理サーバ: 管理情報」を参照してください。</p> <p>この値の形式は、ローカルファイルシステムの完全修飾パス名です。</p> <p>デフォルト値は存在しません。</p>

HADB の設定情報

インストール時に、HADB について次の情報を指定する必要があります。

表 1-30 HADB のポート選択情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
HADB 管理ポート HADB_DEFAULT_ADMINPORT	<p>HADB 管理が待機するポート。</p> <p>デフォルト値は 1862 です。</p>
HADB リソースディレクトリ HADB_DEFAULT_RESDIR	<p>HADB がリソースの内容を格納する場所。</p> <p>デフォルト値は /var/opt です。</p>
HADB 管理グループ HADB_DEFAULT_GROUP	<p>HADB のデフォルトインスタンスの実行時ユーザーが所属するグループ (GID)。</p> <p>デフォルト値は other です。</p>
HADB 自動起動 HADB_AUTO_START	<p>インストーラに対し、システムの再起動時に HADB を自動的に起動するように指示する場合に、このオプションを選択します。</p> <p>デフォルト値は yes です。</p>
HADB グループ管理 HADB_ALLOW_GROUPMANAGE	<p>HADB をグループごとに管理する場合に、このオプションを選択します。</p> <p>デフォルト値は no です。</p>

Portal Server の設定情報

インストール時に、Portal Server について次の情報を指定する必要があります。

- 58 ページの「Portal Server: Web コンテナ情報」
- 64 ページの「Portal Server: Web コンテナの配備」

Portal Server: Web コンテナ情報

Portal Server は、4 種類の Web コンテナのいずれかで稼働します。インストーラが要求する情報は、Web コンテナの種類によって異なります。次の表は、4 種類の Web コンテナと、各 Web コンテナが必要とする情報についての説明です。

表 1-31 Portal Server のインストール時に必要となる Web コンテナに関する設定情報

Web コンテナ	参照先
Web Server	58 ページの「Web コンテナ情報: Web Server を使用する Portal Server」
Application Server	59 ページの「Web コンテナ情報: Application Server を使用する Portal Server」
BEA WebLogic	61 ページの「Web コンテナ情報: BEA WebLogic を使用する Portal Server」
IBM WebSphere Application Server	63 ページの「Web コンテナ情報: IBM WebSphere を使用する Portal Server」

Web コンテナ情報: Web Server を使用する Portal Server

この節では、Portal Server の Web コンテナが Web Server の場合にインストーラが必要とする情報を示します。

表 1-32 Portal Server と Web Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストールディレクトリ	Web Server のインストール先ディレクトリ。デフォルト値は次のとおりです。
PS_DEPLOY_DIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr Linux の場合: /opt/sun/webserver

表 1-32 Portal Server と Web Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
サーバーインスタンス PS_DEPLOY_INSTANCE	Portal Server で使用する Web Server インスタンス。
サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT	Web Server が HTTP 接続に対して待機するポート。 デフォルト値は 80 です。 このインストーラセッションで Web Server をインストールする場合、デフォルト値は「Web Server HTTP ポート」の値 (WS_ADMIN_PORT) となります。83 ページの「Web Server: デフォルト Web Server インスタンス情報」を参照してください。
サーバードキュメントルート PS_DEPLOY_DOCROOT	スタティックページが保持されるディレクトリ。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr/docs Linux の場合: /opt/sun/webserver/docs
セキュリティ保護されたサーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PROTOCOL	Web Server のインスタンスのポートがセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https を、セキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。

Web コンテナ情報: Application Server を使用する Portal Server

この節では、Portal Server の Web コンテナが Application Server の場合にインストーラが必要とする情報を示します。

表 1-33 Portal Server と Application Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストールディレクトリ PS_DEPLOY_DIR	Application Server のインストール先ディレクトリ。 デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /opt/SUNWappserver/appserver Linux の場合: /opt/sun/appserver
ドメイン名 PS_DEPLOY_DOMAIN	Portal Server を配備する Application Server インスタンスの名前。この名前は、Application Server インスタンスディレクトリの名前でもあります。 デフォルト値は domain1 です。
サーバーインスタンスディレクトリ PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR	ドメインの、この Portal Server インスタンスを配備する Application Server ディレクトリへのパス。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1 Linux の場合: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1
サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT	Application Server がインスタンスへの接続を待機するポート。 デフォルト値は 8080 です。
ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT	スタティックページが保持されるディレクトリの名前。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot Linux の場合: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1/docroot
管理ポート PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	Application Server 管理インスタンスが、Portal Server のインストール先ドメインで稼働するポート。 デフォルト値は 4849 です。
管理者ユーザー ID PS_DEPLOY_ADMIN	Portal Server が Application Server に管理者としてアクセスする際に使用するユーザー ID。 デフォルト値は admin です。
管理者パスワード PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD	Portal Server が Application Server に管理者としてアクセスする際に使用するパスワード。

表 1-33 Portal Server と Application Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
セキュリティ保護されたサーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PROTOCOL	<p>「インスタンスポート」の値がセキュリティ保護されているポートを参照するかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。</p> <p>状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https を、セキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。</p>
セキュリティ保護された管理サーバーポート PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	<p>「管理ポート」の値がセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。</p> <p>状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https を、セキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。</p>

Web コンテナ情報: BEA WebLogic を使用する Portal Server

この節では、Portal Server の Web コンテナが BEA WebLogic の場合にインストーラが要求する情報を示しています。

表 1-34 Portal Server と BEA WebLogic を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ホームディレクトリ PS_DEPLOY_DIR	<p>BEA WebLogic ホームディレクトリへのパス。 デフォルト値は /usr/local/boa です。</p>
製品インストールディレクトリ PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR	<p>BEA WebLogic のインストール先ディレクトリへのパス。 デフォルト値は /usr/local/boa/weblogic81 です。</p>
ユーザープロジェクトのディレクトリ PS_DEPLOY_PROJECT_DIR	<p>BEA WebLogic がユーザープロジェクトを格納するディレクトリへのパス。 デフォルトは user_projects です。</p>

表 1-34 Portal Server と BEA WebLogic を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
製品の JDK ディレクトリ PS_DEPLOY_JDK_DIR	BEA WebLogic が使用する JDK のコピーのインストール先ディレクトリへのパス。 デフォルトは /usr/local/bean/jdk141_05 です。
サーバー / クラスタドメイン PS_DEPLOY_DOMAIN	BEA WebLogic が配備される BEA WebLogic ドメインの名前。 デフォルトは mydomain です。
サーバー / クラスタインスタンス PS_DEPLOY_INSTANCE	Portal Server を実行する BEA WebLogic インスタンスの名前。 デフォルトは myserver です。
サーバー / クラスタポート PS_DEPLOY_PORT	BEA WebLogic が管理接続を待機するポート。 デフォルトは 7001 です。
サーバー / クラスタプロトコル PS_DEPLOY_PROTOCOL	「サーバー / クラスタポート」の値がセキュリティ保護されたポートを参照するかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 デフォルトは http です。
ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT	BEA WebLogic がコンテンツドキュメントを格納するディレクトリへのパス。
管理者ユーザー ID PS_DEPLOY_ADMIN	BEA WebLogic 管理者 (システムユーザー) のユーザー名。 デフォルトは weblogic です。
管理者パスワード PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD	BEA WebLogic 管理者 (システムユーザー) のパスワード。
管理対象サーバー PS_DEPLOY_NOW	BEA WebLogic Server が管理対象サーバーであることを指定できます。 BEA WebLogic Server が管理対象サーバーである場合、Portal Server Web アプリケーションを WebLogic の「サーバーインスタンス」に指定したインスタンスに配備してはなりません。 状態ファイルで、管理対象サーバーの場合は n、または管理対象外サーバーの場合は y を指定します。デフォルト値は y です。

Web コンテナ情報: IBM WebSphere を使用する Portal Server

この節では、Portal Server の Web コンテナが IBM WebSphere Application Server の場合にインストーラが要求する情報を示します。

表 1-35 Portal Server と IBM WebSphere を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストールディレクトリ PS_DEPLOY_DIR	IBM WebSphere Application Server のインストール先ディレクトリへのパス。 デフォルト値は /opt/IBM/WebSphere/Express51/AppServer です。
仮想ホスト PS_DEPLOY_VIRTUAL_HOST	IBM WebSphere Application Server インスタンスの仮想ホストエイリアスの名前。 デフォルト値は default_host です。
セル PS_DEPLOY_CELL	IBM WebSphere Application Server セルの名前。 デフォルト値は DefaultNode です。
ノード PS_DEPLOY_NODE	IBM WebSphere Application Server ノードの名前。 デフォルト値は DefaultNode です。
サーバーインスタンス PS_DEPLOY_INSTANCE	IBM WebSphere Application Server インスタンスの名前。 デフォルト値は server1 です。
サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT	IBM WebSphere アプリケーションインスタンスが HTTP 接続を待機するポート。この値は、通常はフロントエンド Web サーバーから設定されます。 デフォルト値は 9080 です。
ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT	IBM WebSphere Application Server がコンテンツドキュメントを格納するディレクトリ。 デフォルト値は /opt/IBM/WebSphere/Express51/Appserver/web/docs です。 英語以外の言語を使用する場合は、パス名の最後の部分を変更する必要があります。

表 1-35 Portal Server と IBM WebSphere を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Java ホームディレクトリ PS_DEPLOY_JDK_DIR	IBM WebSphere Application Server が使用する Java インストールへのパス。 デフォルトは /opt/IBM/WebSphere/Express51/Appserver/java です。
セキュリティ保護されたサーバーインスタンス PS_DEPLOY_PROTOCOL	「サーバーインスタンスポート」がセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https を、セキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。

Portal Server: Web コンテナの配備

この節では、インストーラが Portal Server 用に必要とする Web コンテナの配備に関する情報を示しています。

表 1-36 Portal Server のインストール時に必要となるポータルに関する設定情報 (すべてのケース)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ロードバランサプロトコル	ロードバランサが HTTP と HTTPS のどちらのプロトコルを使用するかを指定します。このオプションは、「複数の Portal Server を制御するロードバランサ」オプションを指定した場合にだけ有効になります。 これは、PS_LOAD_BALANCER_URL パラメータの構築に使用します。
ロードバランサホスト	ロードバランサホストの完全修飾ホスト名。このオプションは、「複数の Portal Server を制御するロードバランサ」オプションを指定した場合にだけ有効になります。 これは、PS_LOAD_BALANCER_URL パラメータの構築に使用します。

表 1-36 Portal Server のインストール時に必要となるポータルに関する設定情報 (すべてのケース) (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ロードバランサポート	<p>ロードバランサが接続を待機するポート。このオプションは、「複数の Portal Server を制御するロードバランサ」オプションを指定した場合にだけ有効になります。</p> <p>これは、PS_LOAD_BALANCER_URL パラメータの構築に使用します。</p>
配備 URI PS_DEPLOY_URI	<p>Portal Server に関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI (Uniform Resource Identifier) プレフィックス。</p> <p>値の先頭にスラッシュを含め、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。</p> <p>デフォルト値は /portal です。</p>
複数の Portal Server を制御するロードバランサ	<p>インストールしている Portal Server へのアクセスが、複数の Portal Server を制御するロードバランサを経由するかどうかを指定します。</p>
サンプルポータルのインストール PS_SAMPLE_PORTAL	<p>サンプルポータルをインストールするかどうかを指定します。</p> <p>状態ファイルで指定可能な値は、y または n です。デフォルト値は y です。</p>

Portal Server Secure Remote Access の設定情報

ここでは、最初に Secure Remote Access コアのインストールについて説明し、次に Portal Server Secure Remote Access のゲートウェイ、Netlet プロキシ、Rewriter プロキシの各サブコンポーネントのインストールについて説明します。

- 66 ページの「Secure Remote Access コアの設定」
- 70 ページの「ゲートウェイの設定」
- 72 ページの「Netlet プロキシの設定」
- 77 ページの「Rewriter プロキシの設定」

Secure Remote Access コアの設定

ここでは、Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時にインストーラが必要とする情報を示します。指定が必要となる情報は、次に示すインストール方法によって異なります。

- 単一セッションインストール: Portal Server と Portal Server Secure Remote Access を同時にインストールします。
- 複数セッションインストール: あるセッションで Portal Server をインストールし、その後のセッションで Portal Server Secure Remote Access をインストールします。

表 1-37 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる情報

Portal Server の状況	要件	情報の参照先
Portal Server をこのセッションでインストールする。	ゲートウェイ情報	66 ページの「単一セッションインストール」
Portal Server がすでにインストールされ、Web Server または IBM WebSphere Application Server を使用している。	Web コンテナ配備情報 ゲートウェイ情報 Access Manager 情報	67 ページの「複数セッションインストール (Sun Java System Web Server または IBM WebSphere Application Server を使用)」
Portal Server がすでにインストールされ、Application Server を使用している。	Web コンテナ配備情報 Access Manager 情報 ゲートウェイ情報 Sun Java System Application Server 情報	68 ページの「複数セッションインストール (Sun Java System Application Server または BEA WebLogic を使用)」
Portal Server がすでにインストールされ、BEA WebLogic を使用している。	Web コンテナ配備情報 ゲートウェイ情報 Access Manager 情報 BEA WebLogic 情報	68 ページの「複数セッションインストール (Sun Java System Application Server または BEA WebLogic を使用)」

単一セッションインストール

Portal Server Secure Remote Access コアと Portal Server を単一のセッションでインストールする場合は、Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイに関する情報を指定する必要があります。インストーラは、Portal Server Secure Remote Access のその他の設定情報を Portal Server の設定情報から取得します。

この節では、Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時にインストーラが要求するゲートウェイに関する情報を示します。

表 1-38 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ゲートウェイプロトコル SRA_GATEWAY_PROTOCOL	Portal Server との通信時にゲートウェイが使用するプロトコル。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https を、セキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は https です。
Portal Server ドメイン SRA_SERVER_DOMAIN	Portal Server のドメイン名。 たとえば、完全修飾ドメイン名が siroe.subdomain1.example.com の場合、subdomain1.example.com を入力します。
ゲートウェイドメイン SRA_GATEWAY_DOMAIN	ゲートウェイコンポーネントのドメイン名。 たとえば、Portal Server ホストの完全修飾ドメイン名が siroe.subdomain1.example.com の場合、subdomain1.example.com を入力します。
ゲートウェイポート SRA_GATEWAY_PORT	ゲートウェイホストの待機ポート。 デフォルト値は 443 です。
ゲートウェイプロファイル名 SRA_GATEWAY_PROFILE	リスナポート、SSL オプション、プロキシオプションなどのゲートウェイ設定情報を含むプロファイル。 デフォルト値は default です。
ログのユーザーパスワード SRA_LOG_USER_PASSWORD	ルート以外のアクセス権を持つ管理者がゲートウェイログファイルにアクセスするためのパスワード。

複数セッションインストール (Sun Java System Web Server または IBM WebSphere Application Server を使用)

ここでは、次の条件が満たされるホストに Portal Server Secure Remote Access をインストールするときに必要となる情報について説明します。

- Portal Server がすでにインストールされている
- Portal Server は Sun Java System Web Server または IBM WebSphere Application Server Web コンテナに配備されている

このケースでは、次の情報を指定する必要があります。

- Web コンテナ配備情報
- ゲートウェイ情報
- Access Manager 情報

次の表は、Web コンテナについて指定が必要な情報を示しています。

表 1-39 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
配備 URI	Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。
SRA_DEPLOY_URI	配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。 デフォルト値は /portal です。

次の表に、Access Manager について指定が必要な情報を示します。

表 1-40 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ディレクトリマネージャー DN	Directory Server への無制限のアクセス権を持つユーザーの DN。
USER_DIR_ADM_USER	デフォルト値は cn=Directory Manager です。 状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。
ディレクトリマネージャーパスワード	ディレクトリマネージャーのパスワード。
USER_DIR_ADM_PASSWD	状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。

複数セッションインストール (Sun Java System Application Server または BEA WebLogic を使用)

ここでは、次の条件が満たされるホストに Portal Server Secure Remote Access をインストールするときに必要となる情報について説明します。

- Portal Server がすでにインストールされている
- Portal Server が Sun Java System Application Server Web コンテナまたは BEA WebLogic Web コンテナに配備されている
このケースでは、次の情報を指定する必要があります。
- Web コンテナ配備情報
- Access Manager 情報
- Sun Java System Application Server 情報または BEA WebLogic 情報

次の表は、Web コンテナについて指定が必要な情報を示しています。

表 1-41 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
配備 URI SRA_DEPLOY_URI	Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。 デフォルト値は /portal です。

次の表は、Access Manager について指定が必要な情報を示しています。

表 1-42 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ディレクトリマネージャー DN USER_DIR_ADM_USER	Directory Server への無制限のアクセス権を持つユーザーの DN。 デフォルト値は cn=Directory Manager です。 状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。
ディレクトリマネージャーパスワード USER_DIR_ADM_PASSWD	ディレクトリマネージャーのパスワード。 状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。

次の表は、Sun Java System Application Server または BEA WebLogic Server について指定が必要な情報を示しています。

表 1-43 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Sun Java System Application Server または BEA WebLogic Server に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者のユーザーパスワード PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD	Portal Server が Application Server または BEA WebLogic に管理者としてアクセスするためのパスワード。

ゲートウェイの設定

ここでは、Netlet プロキシサブコンポーネントをインストールするときに指定する必要がある情報について説明します。このケースでは、次の情報を指定する必要があります。

- 73 ページの「Web コンテナ配備情報」
- 73 ページの「Access Manager 情報」
- 74 ページの「プロキシ情報」
- 76 ページの「証明書に関する情報」

Web コンテナ配備情報

次の表は、Portal Server またはロードバランサ用の Web コンテナについて指定が必要な情報を示しています。

表 1-44 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
配備 URI SRA_DEPLOY_URI	Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。 デフォルト値は /portal です。

Access Manager 情報

次の表は、Access Manager について指定が必要な情報を示しています。

表 1-45 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストールディレクトリ SRA_IS_INSTALLDIR	Access Manager コンポーネントのインストール先ディレクトリ。 デフォルト値は /opt です。

ゲートウェイ情報

この節では、ゲートウェイサブコンポーネントのインストール時に、インストーラに指定するゲートウェイ情報を示しています。

表 1-46 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
プロトコル SRA_GW_PROTOCOL	<p>ゲートウェイが通信に使用するプロトコル (HTTP または HTTPS)。セキュリティー保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティー保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。ほとんどの場合、ゲートウェイでは HTTPS を使用する必要があります。</p> <p>状態ファイルで、セキュリティー保護されたポートの場合は https を、セキュリティー保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は https です。</p>
ホスト名 SRA_GW_HOSTNAME	<p>ゲートウェイコンポーネントのインストール先ホストの名前。</p> <p>たとえば、完全修飾ドメイン名が siroe.subdomain1.example.com の場合、siroe を入力します。</p> <p>デフォルト値は、ローカルホストの名前です。</p>
サブドメイン SRA_GW_SUBDOMAIN	<p>ゲートウェイホストのサブドメイン名。</p> <p>デフォルト値は存在しません。</p>
ドメイン SRA_GW_DOMAIN	<p>ゲートウェイホストのドメイン名。</p> <p>たとえば、完全修飾ドメイン名が siroe.example.com の場合、この値は example.com となります。</p> <p>デフォルト値は、ローカルホストのドメインです。</p>
ホスト IP アドレス SRA_GW_IPADDRESS	<p>Access Manager ホストの IP アドレス。Portal Server に対して Access Manager がインストールされたホストの IP アドレスを指定します。</p> <p>デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。</p>
アクセスポート SRA_GW_PORT	<p>ゲートウェイホストの待機ポート。</p> <p>デフォルト値は 443 です。</p>
ゲートウェイプロファイル名 SRA_GW_PROFILE	<p>ゲートウェイが待機するポート、SSL オプション、プロキシオプションなど、ゲートウェイの設定に関連する情報を含むゲートウェイプロファイル。</p> <p>デフォルト値は default です。</p>
ログのユーザーパスワード SRA_LOG_USER_PASSWORD	<p>ルート以外のアクセス権を持つ管理者がゲートウェイログファイルにアクセスするためのパスワード。</p>

表 1-46 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストール後ゲートウェイの開始 SRA_GW_START	インストール後にゲートウェイを自動的に起動させるかどうかをインストーラに指示します。 状態ファイルで指定可能な値は、y または n です。デフォルト値は y です。

証明書に関する情報

ゲートウェイ、Netlet プロキシ、または Rewriter プロキシをインストールする場合、Portal Server Secure Remote Access で使用する自己署名付き証明書を作成するための情報を指定できます。証明書を設定するには、インストーラに次の情報を指定する必要があります。

注 – 証明書情報には、マルチバイト文字を使用することはできません。

表 1-47 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
組織 SRA_CERT_ORGANIZATION	所属する組織または会社名。
部署 SRA_CERT_DIVISION	所属する部署名。
市 / 地域 SRA_CERT_CITY	居住する市または地域。
州 / 都道府県 SRA_CERT_STATE	居住する都道府県名。
国名コード SRA_CERT_COUNTRY	2 文字の国名コード。
証明書データベースパスワード SRA_CERT_PASSWORD	自己署名付き証明書にのみ適用されるパスワード (および確認用パスワード)。

Netlet プロキシの設定

ここでは、Netlet プロキシサブコンポーネントをインストールするときに指定する必要がある情報について説明します。このケースでは、次の情報を指定する必要があります。

- 77 ページの「Web コンテナ配備情報」
- 73 ページの「Netlet プロキシ情報」
- 79 ページの「プロキシ情報」
- 80 ページの「証明書に関する情報」

Web コンテナ配備情報

次の表は、Web コンテナについて指定が必要な情報を示しています。情報は、Portal Server またはロードバランサに適用されます。

表 1-48 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
配備 URI SRA_DEPLOY_URI	Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んではなりません。 デフォルト値は /portal です。

Access Manager 情報

次の表は、Access Manager について指定が必要な情報を示しています。

表 1-49 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストールディレクトリ SRA_IS_INSTALLDIR	Access Manager コンポーネントのインストール先ディレクトリ。 デフォルト値は /opt です。

Netlet プロキシ情報

この節では、Netlet プロキシのインストール時に、インストーラに指定する Netlet プロキシ情報を示します。

表 1-50 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Netlet プロキシに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ホスト名 SRA_NLP_HOSTNAME	Netlet プロキシホストのホスト名。 デフォルト値は、ローカルホストのホスト名です。
サブドメイン SRA_NLP_SUBDOMAIN	Netlet プロキシホストのサブドメイン名。 デフォルト値は存在しません。
ドメイン SRA_NLP_DOMAIN	Netlet プロキシホストのドメイン名。 デフォルト値は、ローカルホストのドメインです。
ホスト IP アドレス SRA_NLP_IPADDRESS	Netlet プロキシホストの IP アドレス。 デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。
アクセスポート SRA_NLP_PORT	Netlet プロキシの待機ポート。 デフォルト値は 10555 です。
ゲートウェイプロファイル名 SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE	リスナポート、SSL オプション、プロキシオプションなどのゲートウェイ設定情報を含むプロファイル。 デフォルト値は default です。
インストール後 Netlet プロキシの開始 SRA_NLP_START	インストール後に Netlet プロキシを自動的に起動させるかどうかをインストーラに指示します。 状態ファイルで指定可能な値は、y または n です。デフォルト値は y です。

プロキシ情報

次の表は、Portal Server Secure Remote Access がすでにインストールされているホストにプロキシサブコンポーネントをインストールする場合に指定が必要な情報を示しています。

表 1-51 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となるプロキシに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
別のホスト上の Portal Server で作業 SRA_IS_CREATE_INSTANCE	<p>このホストに Netlet プロキシと Rewriter プロキシをインストールし、これらのプロキシが Portal Server SRA のリモートインスタンスと通信する場合にだけこのオプションを選択します (CLI モードでは <i>y</i> を指定する)。</p> <p>Netlet プロキシと Rewriter プロキシが Portal Server SRA のローカルインスタンスと通信する場合は、このオプションを選択しません (CLI モードでは <i>n</i> を指定する)。</p> <p>状態ファイルで指定可能な値は、<i>y</i> または <i>n</i> です。状態ファイルでのこの値の意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>y</i> を指定した場合、プロキシは Portal Server SRA のローカルインスタンスと対話します。 ■ <i>n</i> を指定した場合、プロキシは Portal Server SRA のリモートインスタンスと対話します。 <p>この表に示す残りのフィールドは、プロキシが Portal Server SRA のリモートインスタンスと対話することを指定した場合にだけ適用されます。</p>
Portal Server プロトコル SRA_SERVER_PROTOCOL	<p>ゲートウェイが Portal Server との通信に使用するプロトコル (HTTP または HTTPS)。</p> <p>状態ファイルで、<i>https</i> または <i>http</i> を指定します。デフォルト値は <i>https</i> です。</p>
Portal Server ホスト SRA_SERVER_HOST	Portal Server のインストール先ホストのホスト名。
Portal Server ポート SRA_SERVER_PORT	<p>Portal Server へのアクセスに使用するポート。</p> <p>デフォルト値は 8080 です。</p>
Portal Server 配備 URI SRA_SERVER_DEPLOY_URI	<p>Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。</p> <p>配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んではなりません。</p> <p>デフォルト値は <i>/portal</i> です。</p>
組織 DN SRA_IS_ORG_DN	<p>Portal Server のインストール先ドメインのルートサフィックスの識別名 (DN)。</p> <p>デフォルト値は <i>dc=com</i> です。このデフォルト値を編集する必要があります。</p>

表 1-51 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる
プロキシに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Access Manager サービス URI SRA_IS_SERVICE_URI	Access Manager サービスの呼び出しに使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 デフォルト値は /amserver です。
Access Manager パスワードの暗号化 鍵 SRA_IS_PASSWORD_KEY	Access Manager のインストール時に生成される暗号鍵 を含む文字列。この文字列は、パスワード生成のシード として使われます。 Portal Server SRA は、Access Manager がインストール 時に使用した暗号鍵を使用する必要があるため、イン ストーラはデフォルト値を自動的にその鍵に設定しま す。対話モードのインストーラでは、デフォルト値と して表示される値を変更してはなりません。 Access Manager のインストール後に、暗号鍵が Access Manager のプロパティファイルである AMConfig.properties にマッピングされます。この ファイルは次の場所にあります。 Solaris OS の場合: /etc/opt/SUNWam/config Linux の場合: /etc/opt/sun/identity/config この値を含むプロパティは am. encryption.pwd で す。

証明書に関する情報

ゲートウェイ、Netlet プロキシ、または Rewriter プロキシをインストールする場合、Portal Server Secure Remote Access で使用する自己署名付き証明書を作成するための情報を指定できます。証明書を設定するには、インストーラに次の情報を指定する必要があります。

注 – 証明書情報には、マルチバイト文字を使用することはできません。

表 1-52 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる
証明書に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
組織 SRA_CERT_ORGANIZATION	所属する組織または会社名。

表 1-52 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
部署 SRA_CERT_DIVISION	所属する部署名。
市 / 地域 SRA_CERT_CITY	居住する市または地域。
州 / 都道府県 SRA_CERT_STATE	居住する都道府県名。
国名コード SRA_CERT_COUNTRY	2 文字の国名コード。
証明書データベースパスワード SRA_CERT_PASSWORD	自己署名付き証明書にのみ適用されるパスワード (および確認用パスワード)。

Rewriter プロキシの設定

ここでは、Rewriter プロキシサブコンポーネントをインストールするときに指定する必要がある情報について説明します。このケースでは、次の情報を指定する必要があります。

- Web コンテナ配備情報
- Rewriter プロキシ情報
- プロキシ情報
- 証明書情報

次に、指定が必要な情報について詳しく説明します。

Web コンテナ配備情報

次の表は、Web コンテナについて指定が必要な情報を示しています。

表 1-53 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
配備 URI SRA_DEPLOY_URI	Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。 デフォルト値は /portal です。

Rewriter プロキシ情報

この節では、Rewriter プロキシのインストール時に、インストーラに指定する Rewriter プロキシ情報を示します。

表 1-54 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる Rewriter プロキシに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ホスト名 SRA_RWP_HOSTNAME	Rewriter プロキシのインストール先ホストのホスト名。 デフォルト値は、ローカルホストのホスト名です。
サブドメイン SRA_RWP_SUBDOMAIN	Rewriter プロキシのインストール先ホストのサブドメイン名。 デフォルト値は存在しません。
ドメイン SRA_RWP_DOMAIN	Rewriter プロキシのインストール先ホストのドメイン名。 デフォルト値は、ローカルホストのドメイン名です。
ホスト IP アドレス SRA_RWP_IPADDRESS	Rewriter プロキシのインストール先ホストの IP アドレス。 デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。
アクセスポート SRA_RWP_PORT	Rewriter プロキシの待機ポート。 デフォルト値は 10443 です。
ゲートウェイプロファイル名 SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE	リスナポート、SSL オプション、プロキシオプションなどのゲートウェイ設定情報を含むプロファイル。 デフォルト値は default です。
ログのユーザーパスワード SRA_LOG_USER_PASSWORD	ルート以外のアクセス権を持つ管理者がログファイルにアクセスするためのパスワード。

表 1-54 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる Rewriter プロキシに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストール後 Rewriter プロキシの開始	インストール後に Rewriter プロキシを自動的に起動させるかどうかをインストーラに指示します。
SRA_RWP_START	状態ファイルで指定可能な値は、y または n です。デフォルト値は y です。

プロキシ情報

次の表は、Portal Server Secure Remote Access がすでにインストールされているホストにプロキシサブコンポーネントをインストールする場合に指定が必要な情報を示しています。

表 1-55 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となるプロキシに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
別のホスト上の Portal Server で作業 SRA_IS_CREATE_INSTANCE	<p>このホストに Netlet プロキシと Rewriter プロキシをインストールし、これらのプロキシが Portal Server SRA のリモートインスタンスと通信する場合にだけこのオプションを選択します (CLI モードでは y を指定する)。</p> <p>Netlet プロキシと Rewriter プロキシが Portal Server SRA のローカルインスタンスと通信する場合は、このオプションを選択しません (CLI モードでは n を指定する)。</p> <p>状態ファイルで指定可能な値は、y または n です。状態ファイルでのこの値の意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ y を指定した場合、プロキシは Portal Server SRA のローカルインスタンスと対話します。 ■ n を指定した場合、プロキシは Portal Server SRA のリモートインスタンスと対話します。 <p>この表に示す残りのフィールドは、プロキシが Portal Server SRA のリモートインスタンスと対話することを指定した場合にだけ適用されます。</p>
プロトコル SRA_SERVER_PROTOCOL	<p>ゲートウェイが Portal Server との通信に使用するプロトコル (HTTP または HTTPS)。</p> <p>状態ファイルで、https または http を指定します。デフォルト値は https です。</p>
ポータルホスト名 SRA_SERVER_HOST	Portal Server のインストール先ホストの完全修飾ドメイン名。

表 1-55 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となるプロキシに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Portal Server ポート SRA_SERVER_PORT	Portal Server へのアクセスに使用するポート。 デフォルト値は 80 です。
Portal Server 配備 URI SRA_DEPLOY_URI	Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。 デフォルト値は /portal です。
組織 DN SRA_IS_ORG_DN	Portal Server のインストール先ドメインのルートサブドメインの識別名 (DN)。 デフォルト値は .com です。このデフォルト値を編集する必要があります。
サービス URI SRA_IS_SERVICE_URI	Access Manager サービスの呼び出しに使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 デフォルト値は /amserver です。
Access Manager パスワードの暗号化鍵 SRA_IS_PASSWORD_KEY	Access Manager がユーザーパスワードの暗号化に使用する文字列。 Portal Server SRA は、Access Manager がインストール時に使用した暗号鍵を使用する必要があるため、インストーラはデフォルト値を自動的にその鍵に設定します。対話モードのインストーラでは、デフォルト値として表示される値を変更してはなりません。 Access Manager の暗号化鍵は、Access Manager のプロパティファイルである AMConfig.properties から見つけることができます。このファイルは次の場所にあります。 Solaris OS の場合: /etc/opt/SUNWam/config Linux の場合: /etc/opt/sun/identity/config この値を含むプロパティは am.encrypted.pwd です。

証明書に関する情報

ゲートウェイ、Netlet プロキシ、または Rewriter プロキシをインストールする場合、Portal Server, Secure Remote Access で使用する自己署名付き証明書を作成するための情報を指定できます。証明書を設定するには、インストーラに次の情報を指定する必要があります。

注 – 証明書情報には、マルチバイト文字を使用することはできません。

表 1-56 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
組織 SRA_CERT_ORGANIZATION	所属する組織または会社名。
部署 SRA_CERT_DIVISION	所属する部署名。
市 / 地域 SRA_CERT_CITY	居住する市または地域。
州 / 都道府県 SRA_CERT_STATE	居住する都道府県名。
国名コード SRA_CERT_COUNTRY	2 文字の国名コード。
証明書データベースパスワード SRA_CERT_PASSWORD	自己署名付き証明書にのみ適用されるパスワード (および確認用パスワード)。

Web Server の設定情報

インストール時に、Web Server に関する以下の情報を指定する必要があります。

- 管理情報
- デフォルトの Web Server インスタンス情報

Web Server: 管理情報

表 1-57 Web Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者ユーザー ID WS_ADMIN_USER	Web Server 管理者のユーザー ID。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。
管理者パスワード WS_ADMIN_PASSWORD	Web Server 管理者のパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。22 ページの「共通サーバー設定」を参照してください。
Web Server ホスト WS_ADMIN_HOST	ローカルホストとして解決されるホストとドメインの値。この値を使用して、Web Server インスタンスのサーバールート内にディレクトリが作成されます。 デフォルト値は、共通サーバー設定の「ホスト名」と「DNS ドメイン名」に指定した値を結合して自動的に作成されます。値の書式は <i>hostname.domainname</i> です。
管理ポート WS_ADMIN_PORT	Web Server の管理サーバーが接続を待機するポート。 デフォルト値は 8888 です。
管理実行時ユーザー ID WS_ADMIN_SYSTEM_USER	Web Server Administration Server を実行するユーザー ID。 デフォルト値は root です。

Web Server: デフォルト Web Server インスタンス情報

表 1-58 Web Server のインストール時に必要となるデフォルト Web Server インスタンスに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
実行時ユーザー ID WS_INSTANCE_USER	Web Server のデフォルトインスタンスがシステムでの実行に使用するユーザー ID。 Access Manager または Portal Server をインストールする場合は、この値を root に設定し、「実行時グループ」の値を other に設定します。これらの値は、インストール後に変更できます。その他のサーバーの場合、「実行時ユーザー ID」をルート以外のユーザーに設定する必要があります。 デフォルト値は root です。
実行時グループ WS_INSTANCE_GROUP	Web Server のデフォルトインスタンスを実行するグループ ID。 デフォルト値は root です。
HTTP ポート WS_INSTANCE_PORT	Web Server が HTTP 接続に対して待機するポート。 デフォルト値は 80 です。
ドキュメントルートディレクトリ WS_INSTANCE_CONTENT_ROOT	Web Server がコンテンツドキュメントを格納する場所。 デフォルト以外の値を使用するには、指定するディレクトリがファイルシステムにすでに存在していることを確認します。存在しないディレクトリを指定しても、インストーラはディレクトリを作成しません。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr/docs Linux の場合: /opt/sun/webserver/docs
システム再起動時に自動的に Web Server を起動 WS_INSTANCE_AUTO_START	システムを再起動したときに Web Server が自動的に起動されるように設定します。 Web Server は、システムの再起動時に Access Manager の起動スクリプトによって起動されるため、Access Manager を Web Server に配備した場合、この値は無視されます。 状態ファイルで指定可能な値は、Y または N です。デフォルト値は Y です。

Web Proxy Server の設定情報

表 1-59 Web Proxy Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者ユーザー ID WPS_ADMIN_USER	Web Proxy Server 管理者のユーザー ID。 デフォルトは、admin または共通サーバー設定で指定した値です。
管理者パスワード WPS_ADMIN_PASSWORD	Web Proxy Server 管理者のパスワード デフォルトは、共通サーバー設定で指定した値です。
プロキシサーバードメイン名 WPS_PROXY_DOMAIN	ローカルホストとして解決されるホストとドメインの値。デフォルト値は、共通サーバー設定の「ホスト名」と「DNS ドメイン名」に指定した値を結合して作成されます。 次に例を示します。hostname.domain
管理ポート WPS_ADMIN_PORT	Web Proxy Server の管理サーバーが接続を待機するポート。デフォルト値は 8888 です。
管理サーバー実行時ユーザー ID WPS_ADMIN_RUNTIME_USER	Web Proxy Server 管理サーバーは、このユーザー (UID) としてシステムで稼働します。ユーザー ID 番号ではなく、名前を使用してください。デフォルトは、共通サーバー設定で指定した値です。
インスタンス実行時ユーザー ID WPS_ADMIN_USER	既存の非スーパーユーザー。デフォルト値は nobody です。
プロキシインスタンスポート WPS_INSTANCE_PORT	
インスタンス自動起動値 WPS_INSTANCE_AUTO_START	Web Proxy Server インスタンスの自動起動に使用されます。システムの再起動時に Web Proxy Server を起動する必要がある場合に、このパラメータを選択します。値は Y または N です。 デフォルト値は N です。

状態ファイルのみで使用されるパラメータ

次の表は、コンポーネントの設定に関係しない状態ファイルパラメータに関する情報を示しています。パラメータ名は、アルファベット順に記載されています。

表 1-60 状態ファイルのパラメータ

パラメータ名	説明
CCCP_UPGRADE_EXTERNAL_ \ INCOMPATIBLE_JDK	JDK がホスト内で検出されたが、Java Enterprise System により配布される JDK とは互換性がない場合に、アップグレードするかどうかを指定します。 指定できる値は yes または no のいずれかです。このパラメータでは、大文字と小文字は区別されます。デフォルト値は no です。
CONFIG_TYPE	設定の種類を定義します。 指定できる値は、Custom (インストール時に設定) または skip (インストール後に設定、「あとで設定」と同じ) です。デフォルト値は Custom で、「今すぐ設定」を選択した場合と同じ結果が得られます。 状態ファイルにこの値を設定してはなりません。インストーラを実行して状態ファイルを生成する場合にのみ、この値を指定します。設定タイプは、インストーラの処理ロジックにさまざまな方法で影響を及ぼします。状態ファイルの生成後に値を変更した場合、エラーが発生する場合があります。
DeploymentServer	Access Manager の Web コンテナの種類を指定します。 指定可能な値は、WebServer および AppServer です。デフォルト値は AppServer (Application Server) です。
PSDEPLOYTYPE	Portal Server の Web コンテナの種類を指定します。指定可能な値は、IWS、SUNONE8、WEBLOGIC、WEBSPHERE です。

表 1-60 状態ファイルのパラメータ (続き)

パラメータ名	説明
LANGUAGE_SUPPORT	<p>インストールする言語を指定します。指定可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ en (英語) ■ es (スペイン語) ■ ja (日本語) ■ fr (フランス語) ■ de (ドイツ語) ■ ko (韓国語) ■ zh_TW (繁体字中国語) ■ zh_CN (簡体字中国語) <p>英語はいかなる場合でもインストールされ、パラメータ値が空白の場合でもインストールされます。複数の言語を選択する場合は、言語の略号をコンマで区切って指定します。たとえば、en, es, ja, fr のように指定することができます。</p>
LICENSE_TYPE	<p>指定可能な値は「Evaluation」および「Deployment」ですが、このフィールドは使用されません。</p>
PSP_EXIT_ON_DEPENDENCY_WARNING	<p>選択したコンポーネントの依存関係が要件を満たしていない場合に終了するようにインストーラに指示します。通常、警告を確認することで、設定時に指定可能なリモートコンポーネントに適した依存関係を識別できます。</p> <p>依存関係の警告が表示されたらインストールを終了する場合は Yes を指定し、警告に関係なく処理を続行する場合は No を指定します。デフォルト値は No です。</p> <p>このパラメータでは、大文字と小文字が区別されません。</p>
PSP_LOG_CURRENTLY_INSTALLED	<p>現在インストールされている製品リストのログファイルへの書き出しをインストーラに指示します。このオプションは、グラフィカルインストーラの「コンポーネントの選択」ページの「インストール済みの製品」ボタンをクリックする操作に相当します。</p> <p>指定可能な値は、Yes および No です。デフォルト値は Yes です。</p> <p>このパラメータでは、大文字と小文字が区別されません。</p>

表 1-60 状態ファイルのパラメータ (続き)

パラメータ名	説明
PSP_SELECTED_COMPONENTS	インストールするコンポーネントおよびサブコンポーネントのコンマ区切りのリスト。 デフォルト値は A11 です。
REMOVE_BUNDLED_PRODUCTS	インストーラに対し、このコンポーネントの Java ES バージョンをインストールする前に、Solaris OS に付属の Application Server および Message Queue 製品を削除するように指示します。

第 2 章

設定用ワークシート

この章では、「今すぐ設定」設定オプションでのインストールに必要な設定データを収集するためのワークシートを示します。これらのワークシートは、第 1 章の設定表に対応します。

注 - ワークシートは、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラを使って設定可能なコンポーネントだけを対象としています。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 89 ページの「Access Manager ワークシート」
- 97 ページの「管理サーバーのワークシート」
- 98 ページの「Application Server のワークシート」
- 100 ページの「Directory Server のワークシート」
- 103 ページの「Directory Proxy Server のワークシート」
- 104 ページの「HADB のワークシート」
- 105 ページの「Portal Server のワークシート」
- 112 ページの「Portal Server Secure Remote Access のワークシート」
- 117 ページの「Web Server のワークシート」
- 119 ページの「Web Proxy Server のワークシート」

Access Manager ワークシート

Access Manager 用のワークシートは 2 つあります。それぞれのワークシートが、Access Manager を配備可能な各 Web コンテナに対応しています。

- 90 ページの「Application Server に配備された Access Manager」
- 94 ページの「Web Server に配備された Access Manager」

Application Server に配備された Access Manager

このワークシートの各フィールドの詳細については、23 ページの「Access Manager 設定情報」の表を参照してください。

表 2-1 Application Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	
Access Manager	データ:
CMN_IS_INSTALLDIR	_____
	例: /opt (デフォルト)
管理	
管理者ユーザー ID	データ: amadmin
IS_ADMIN_USER_ID	変更することはできません。
管理者パスワード	データ:
IS_ADMINPASSWD	_____
	(デフォルトは共通サーバー設定の値)
LDAP ユーザー ID	データ: amldapuser
IS_LDAP_USER	変更することはできません。
LDAP パスワード	データ:
IS_LDAPUSERPASSWD	_____
	制限: 管理者パスワードとは異なる必要があります。
パスワードの暗号鍵	データ:
AM_ENC_PWD	_____
	状態ファイルの例: LOCK (デフォルト) 対話インストールの例: デフォルトが生成されます。
<i>Sun Java System Application Server</i>	
インストールディレクトリ	データ:
IS_APPSERVERBASEDIR	_____
	デフォルトの場所
	Solaris OS の場合: /opt/SUNWappserver/appserver
	Linux の場合: /opt/sun/appserver)
Access Manager 実行時インスタンス	データ:
IS_IAS81INSTANCE	_____
	例: server (デフォルト)

表 2-1 Application Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インスタンスディレクトリ IS_IAS81INSTANCEDIR	データ: _____ デフォルトの場所 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/ Linux の場合: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1/
Access Manager インスタンスポート IS_IAS81INSTANCE_PORT	データ: _____ 例: 8080 (デフォルト)
ドキュメントルート IS_SUNAPPSERVER_DOCS_DIR	データ: _____ デフォルトの場所 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot Linux の場合: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1/docroot
管理者ユーザー ID IS_IAS81_ADMIN	データ: _____ 例: admin (デフォルトは共通サーバー設定の値)
管理者パスワード IS_IAS81_ADMINPASSWD	データ: _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値)
管理ポート IS_IAS81_ADMINPORT	データ: _____ 例: 4849 (デフォルト)
セキュリティー保護されたインスタンスプロトコル IS_SERVER_PROTOCOL	データ: _____ 状態ファイルの例: http (デフォルト)
管理サーバープロトコル ASADMIN_PROTOCOL	データ: _____ 状態ファイルの例: https (デフォルト)
Access Manager サービスを実行するための Web コンテナ	

表 2-1 Application Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ホスト名 IS_SERVER_HOST	データ: <hr/> 例: mycomputer.example.com
サービス配備 URI SERVER_DEPLOY_URI	データ: <hr/> 例: amserver (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュを入力しないでください。
共通ドメイン配備 URI CDS_DEPLOY_URI	データ: <hr/> 例: amcommon (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュを入力しないでください。
Cookie ドメイン COOKIE_DOMAIN_LIST	データ: <hr/> 例: .example.com 注: 先頭にピリオド(.)が必要です。
新しいコンソールを配備および既存コンソールを使用 USE_DSAME_SERVICES_WEB_CONTAINER	詳細は、30 ページの「Access Manager のコアとコンソールのインストール」を参照してください。
コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI	データ: <hr/> 旧バージョンモード (6.x): amconsole または amserver レルムモード (7.x): amserver 注: 先頭にスラッシュを入力しないでください。
パスワード配備 URI PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI	データ: <hr/> 例: ampassword (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュを入力しないでください。
コンソールホスト CONSOLE_HOST	データ: <hr/> 例: mycomputer.example.com
コンソールポート CONSOLE_PORT	データ: <hr/> 例: 80

表 2-1 Application Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
<i>Directory Server</i> 情報	
Directory Server ホスト	データ:
IS_DS_HOSTNAME	_____
	例: mycomputer.example.com
Directory Server ポート	データ:
IS_DS_PORT	_____
	例: 389 (デフォルト)
Access Manager ディレクトリルートサ フィックス	データ:
IS_ROOT_SUFFIX	_____
	例: dc=example,dc=com
ディレクトリマネージャー DN	データ:
IS_DIRMGRDN	_____
	例: cn=Directory Manager (デフォルト)
ディレクトリマネージャーパスワード	データ:
IS_DIRMGRPASSWD	_____
	(デフォルトは共通サーバー設定の値)
<i>Directory Server</i> 情報、プロビジョニングさ れたディレクトリ	
Directory Server にユーザーデータが準備 されていますか? IS_LOAD_DIT	データ:

	例: no (デフォルト)
組織マーカーオブジェクトクラス	データ:
IS_ORG_OBJECT_CLASS	_____
	例: SunISManagedOrganization (デフォルト)
組織ネーミング属性	データ:
IS_ORG_NAMING_ATTR	_____
	例: o (デフォルト)
ユーザーマーカーオブジェクトクラス	データ:
IS_USER_OBJECT_CLASS	_____
	例: inetorgperson (デフォルト)
ユーザーネーミング属性	データ:
IS_USER_NAMING_ATTR	_____
	例: uid (デフォルト)

Web Server に配備された Access Manager

このワークシートの各フィールドの詳細については、23 ページの「Access Manager 設定情報」の表を参照してください。

表 2-2 Web Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	
Access Manager	データ: _____
CMN_IS_INSTALLDIR	例: /opt (デフォルト)
管理	
管理者ユーザー ID	データ: amadmin
IS_ADMIN_USER_ID	変更することはできません。
管理者パスワード	データ: _____
IS_ADMINPASSWD	(デフォルトは共通サーバー設定の値)
LDAP ユーザー ID	データ: amldapuser
IS_LDAP_USER	変更することはできません。
LDAP パスワード	データ: _____
IS_LDAPUSERPASSWD	制限: 管理者パスワードとは異なる必要があります。
パスワードの暗号鍵	データ: _____
AM_ENC_PWD	状態ファイルの例: LOCK (デフォルト) 対話インストールの例: デフォルトが生成されます。
<i>Sun Java System Web Server</i>	
ホスト名	データ: _____
IS_WS_HOST_NAME	例: mycomputer.example.com
Web サーバーポート	データ: _____
IS_WS_INSTANCE_PORT	例: 80 (デフォルト)
Web サーバーインスタンスディレクトリ	データ: _____
IS_WS_INSTANCE_DIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr/https-mycomputer.example.com Linux の場合: /opt/sun/webserver/https-mycomputer.example.com

表 2-2 Web Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ドキュメントルートディレクトリ IS_WS_DOC_DIR	データ: _____ Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr/docs (デフォルト) Linux の場合: /opt/sun/webserver/docs (デフォルト)
サーバーインスタンスプロトコル IS_SERVER_PROTOCOL	データ: _____ 対話インストールの例: セキュリティー保護されていない場合は http、セ キュリティー保護されている場合は https 状態ファイルの例: http (デフォルト)
<i>Access Manager</i> サービスを実行す るための Web コンテナ	
ホスト名 IS_SERVER_HOST	データ: _____ 例: mycomputer.example.com
サービス配備 URI SERVER_DEPLOY_URI	データ: _____ 例: amserver (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュを入力しないでください。
共通ドメイン配備 URI CDS_DEPLOY_URI	データ: _____ 例: amcommon (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュを入力しないでください。
Cookie ドメイン COOKIE_DOMAIN_LIST	データ: _____ 例: .example.com 注: 先頭にピリオド (.) が必要です。
新しいコンソールを配備および既 存コンソールを使用 USE_DSAME_SERVICES_WEB_CONTAINER	詳細は、30 ページの「Access Manager のコアとコンソールのインストー ル」を参照してください。
コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI	データ: _____ 旧バージョンモード (6.x): amconsole または amserver レルムモード (7.x): amserver 注: 先頭にスラッシュを入力しないでください。

表 2-2 Web Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
パスワード配備 URI	データ:
PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI	例: ampasword (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュを入力しないでください。
コンソールホスト	データ:
CONSOLE_HOST	例: mycomputer.example.com
コンソールポート	データ:
CONSOLE_PORT	例: 80
<i>Directory Server</i> 情報	
Directory Server ホスト	データ:
IS_DS_HOSTNAME	例: mycomputer.example.com
Directory Server ポート	データ:
IS_DS_PORT	例: 389 (デフォルト)
Access Manager ディレクトリルートサフィックス	データ:
IS_ROOT_SUFFIX	例: dc=example,dc=com
ディレクトリマネージャー DN	データ:
IS_DIRMGRDN	例: cn=Directory Manager (デフォルト)
ディレクトリマネージャーパスワード	データ:
IS_DIRMGRPASSWD	(デフォルトは共通サーバー設定の値)
<i>Directory Server</i> 情報、プロビジョニングされたディレクトリ	
Directory Server にユーザーデータが準備されていますか?	データ:
IS_LOAD_DIT	例: no (デフォルト)
組織マーカーオブジェクトクラス	データ:
IS_ORG_OBJECT_CLASS	例: SunISManagedOrganization (デフォルト)

表 2-2 Web Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
組織ネーミング属性	データ:
IS_ORG_NAMING_ATTR	例: o (デフォルト)
ユーザーマーカーオブジェクトクラス	データ:
IS_USER_OBJECT_CLASS	例: inetorgperson (デフォルト)
ユーザーネーミング属性	データ:
IS_USER_NAMING_ATTR	例: uid (デフォルト)

管理サーバーのワークシート

このワークシートの各フィールドの詳細については、45 ページの「管理サーバーの設定情報」の表を参照してください。

表 2-3 管理サーバーの設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
サーバー設定	
サーバールート	データ:
ADMINSERV_ROOT	例: /var/opt/mps/serverroot (デフォルト)
管理ポート	データ:
ADMINSERV_PORT	例: 390 (デフォルト)
管理ドメイン	データ:
ADMINSERV_DOMAIN	例: example.com
システムユーザー	データ:
ADMINSERV_SYSTEM_USER	例: root (デフォルトは共通サーバー設定の値)

表 2-3 管理サーバーの設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
システムグループ	データ:
ADMINSERV_SYSTEM_GROUP	例: other (デフォルトは共通サーバー設定の値)
設定用ディレクトリの設定	
管理ユーザー ID	データ:
ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_USER	例: admin (デフォルトは共通サーバー設定の値)
管理者パスワード	データ:
ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_PASSWORD	(デフォルトは共通サーバー設定の値)
Directory Server ホスト	データ:
ADMINSERV_CONFIG_DIR_HOST	例: mycomputer.example.com
Directory Server ポート	データ:
ADMINSERV_CONFIG_DIR_PORT	例: 389 (デフォルト)

Application Server のワークシート

このワークシートの各フィールドの詳細については、47 ページの「[Application Server の設定情報](#)」の表を参照してください。

表 2-4 Application Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	
Application Server	データ:
CMN_AS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWappserver (デフォルト) Linux の場合: /opt/sun/appserver (デフォルト)

表 2-4 Application Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
Application Server のサーバー設定 データ:	
CMN_AS_DOMAINSDIR	Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver (デフォルト) Linux の場合: /var/opt/sun/appserver (デフォルト)
管理	
管理ユーザー名	データ:
AS_ADMIN_USER_NAME	例: admin (デフォルトは共通サーバー設定の値)
パスワード	データ:
AS_PASSWORD	(デフォルトは共通サーバー設定の値)
管理ポート	データ:
AS_ADMIN_PORT	例: 4849 (デフォルト)
JMX ポート	データ:
AS_JMX_PORT	例: 8686 (デフォルト)
HTTP ポート	データ:
AS_HTTP_PORT	例:8080 (デフォルト)
HTTPS ポート	データ:
AS_HTTPS_PORT	例:8181 (デフォルト)
マスターパスワード	データ:
AS_MASTER_PASSWORD	(デフォルトは共通サーバー設定の値)
ノードエージェント	
管理ホスト名	データ:
ASNA_ADMIN_HOST_NAME	例: ノードエージェントが接続可能な管理用ホストの名前。デフォルト値はありません。
管理ユーザー名	データ:
ASNA_ADMIN_USER_NAME	例: admin (デフォルトは共通サーバー設定の値)

表 2-4 Application Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
パスワード	データ:
ASNA_PASSWORD	(デフォルトは共通サーバー設定の値)
マスターパスワード	データ:
ASNA_MASTER_PASSWORD	(デフォルトは共通サーバー設定の値)
管理ポート	データ:
ASNA_ADMIN_PORT	例: 4849 (デフォルト)
ノードエージェント名	データ:
ASNA_NODE_AGENT_NAME	例: デフォルトはローカルホスト名です。
ロードバランспラグイン	
プラグイン用に使用される Web サーバー	データ:
AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE	例: デフォルト値は Web Server です。
Web サーバーの場所	データ:
AS_WEB_SERVER_LOCATION	ロードバランспラグインをインストールするのと同じセッションで Web Server をインストールする場合、デフォルト値は Web Server です。

Directory Server のワークシート

このワークシートの各フィールドの詳細については、50 ページの「Directory Server 設定情報」の表を参照してください。

表 2-5 Directory Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	

表 2-5 Directory Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
Directory Server、サーバールート CMN_DS_SERVER_ROOT	データ: _____ Solaris OS の場合: /var/opt/mps/serverroot (デフォルト) Linux の場合: /var/opt/sun/directory-server (デフォルト)
管理	
管理者ユーザー ID DS_ADMIN_USER	データ: _____ 例: admin (デフォルトは共通サーバー設定の値)
管理者パスワード DS_ADMIN_PASSWORD	データ: _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値)
ディレクトリマネージャー DN DS_DIR_MGR_USER	データ: _____ 例: cn=Directory Manager (デフォルト)
ディレクトリマネージャーパスワード DS_DIR_MGR_PASSWORD	データ: _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値)
サーバー設定	
サーバー識別子 DS_SERVER_IDENTIFIER	データ: _____ 例: mycomputer (デフォルトは共通サーバー設定の値)
サーバーポート DS_SERVER_PORT	データ: _____ 例: 389 (デフォルト)
サフィックス DS_SUFFIX	データ: _____ 例: dc=example,dc=com
管理ドメイン DS_ADM_DOMAIN	データ: _____ 例: example.com (デフォルトは共通サーバー設定の値)
システムユーザー DS_SYSTEM_USER	データ: _____ 例: root (デフォルトは共通サーバー設定の値)

表 2-5 Directory Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
システムグループ	データ:
DS_SYSTEM_GROUP	例: other (デフォルトは共通サーバー設定の値)
設定用 <i>Directory Server</i>	
このサーバーに設定データを保存しません。このサーバーの設定データを Directory Server の次のインスタンスに保存します。	詳細は、52 ページの「Directory Server: Directory Server 設定情報」を参照してください。
USE_EXISTING_CONFIG_DIR	
Directory Server ホスト	データ:
CONFIG_DIR_HOST	例: othercomputer.example.com
Directory Server ポート	データ:
CONFIG_DIR_PORT	例: 389 (デフォルト)
ディレクトリマネージャー DN	データ:
CONFIG_DIR_ADM_USER	例: cn=Directory Manager (デフォルト)
ディレクトリマネージャーパスワード	データ:
CONFIG_DIR_ADM_PASSWD	
データストレージの場所	
このサーバーにユーザー / グループデータを保存します。Directory Server の次のインスタンスにユーザー / グループデータを保存します。	詳細は、53 ページの「Directory Server: データ格納場所に関する設定情報」を参照してください。
USE_EXISTING_USER_DIR	
Directory Server ホスト	データ:
USER_DIR_HOST	例: othercomputer.example.com
Directory Server ポート	データ:
USER_DIR_PORT	例: 389 (デフォルト)
ディレクトリマネージャー DN	データ:
USER_DIR_ADM_USER	例: cn=Directory Manager (デフォルト)

表 2-5 Directory Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ディレクトリマネージャーパスワード	データ: _____
USER_DIR_ADM_PASSWD	_____
サフィックス	データ: _____
USER_DIR_SUFFIX	_____
	例: dc=example,dc=com
データの取り込み情報	
サンプル組織構造の読み込み	データ: _____
DS_ADD_SAMPLE_ENTRIES	_____
	例: 1 または 0 (デフォルト)
データの読み込み	データ: _____
DS_POPULATE_DATABASE	_____
	例: 1 または 0 (デフォルト)
インストーラからのサンプルデータまたは LDIF ファイルからの自分のデータ	詳細は、54 ページの「Directory Server: データ取り込み情報」を参照してください。
ファイル名	詳細は、54 ページの「Directory Server: データ取り込み情報」を参照してください。
DS_POPULATE_DATABASE_FILE_NAME	_____
データのインポートにかかる時間を短縮するため、スキーマチェックを無効にします。	データ: _____
DS_DISABLE_SCHEMA_CHECKING	_____
	例: 1 または 0 (デフォルト)

Directory Proxy Server のワークシート

このワークシートの各フィールドの詳細については、56 ページの「Directory Proxy Server 設定情報」の表を参照してください。

表 2-6 Directory Proxy Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	_____

表 2-6 Directory Proxy Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
Directory Proxy Server	データ:
CMN_DPS_INSTALLDIR	例: / (デフォルト)
ポート選択	
Directory Proxy Server ポート	データ:
DPS_PORT	例: 489 (デフォルト)

HADB のワークシート

このワークシートの各フィールドの詳細については、57 ページの「HADB の設定情報」を参照してください。

表 2-7 HADB の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
HADB 管理ポート	データ:
HADB_DEFAULT_ADMINPORT	例: 1862
HADB リソースディレクトリ	データ:
HADB_DEFAULT_RESDIR	例: /var/opt
HADB 管理者グループ	データ:
HADB_DEFAULT_GROUP	デフォルト: other
HADB 自動起動	データ:
HADB_AUTO_START	デフォルト: yes
HADB グループ管理	データ:
HADB_ALLOW_GROUPMANAGE	デフォルト: no

Portal Server のワークシート

Portal Server 用に 4 つのワークシートがあります。それぞれのワークシートは、Portal Server を配備可能な各 Web コンテナに対応しています。

- 105 ページの「Application Server に配備された Portal Server」
- 107 ページの「Web Server に配備された Portal Server」
- 108 ページの「BEA WebLogic Server に配備された Portal Server」
- 110 ページの「IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server」

Application Server に配備された Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、58 ページの「Portal Server の設定情報」の表を参照してください。

表 2-8 Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	
Portal Server	データ:
CMN_PS_INSTALLDIR	例: /opt (デフォルト)
<i>Sun Java System Application Server</i>	
インストールディレクトリ	
PS_DEPLOY_DIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWappserver/appserver (デフォルト) Linux の場合: /opt/sun/appserver (デフォルト)
ドメイン	
PS_DEPLOY_DOMAIN	Solaris OS の場合: domain1 (デフォルト) Linux の場合: domain1 (デフォルト)
サーバーインスタンス	
PS_DEPLOY_INSTANCE	例: server (デフォルト)

表 2-8 Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT	データ: _____ 例: 8080 (デフォルト)
ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT	データ: _____ Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot Linux の場合: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1/docroot
管理ポート PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	データ: _____ 例: 4849 (デフォルト)
管理者ユーザー ID PS_DEPLOY_ADMIN	データ: _____ 例: admin (デフォルトは共通サーバー設定の値)
管理者のユーザーパスワード PS_IS_ADMIN_PASSWORD	データ: _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値)
サーバーインスタンスプロトコル PS_DEPLOY_PROTOCOL	データ: _____ 状態ファイルの例: http (デフォルト)
管理サーバープロトコル PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	データ: _____ 状態ファイルの例: https (デフォルト)
<i>Web</i> コンテナの配備	
配備 URI PS_DEPLOY_URI	データ: _____ 例: /portal (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュ (/) が必要です。
複数の Portal Server を制御する ロードバランサ	データ: _____ 状態ファイルの例: n (デフォルト)
ロードバランサ URL PS_LOAD_BALANCER_URL	データ: _____

表 2-8 Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
サンプルポータルインストール	データ:
PS_SAMPLE_PORTAL	状態ファイルの例: y (デフォルト)

Web Server に配備された Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、58 ページの「Portal Server の設定情報」の表を参照してください。

表 2-9 Web Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	
Portal Server	データ:
CMN_PS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt (デフォルト) Linux の場合: /opt/sun (デフォルト)
<i>Sun Java System Web Server</i>	
インストールディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_DIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr (デフォルト) Linux の場合: /opt/sun/webserver (デフォルト)
サーバーインスタンス	データ:
PS_DEPLOY_INSTANCE	例: mycomputer.example.com
サーバーインスタンスポート	データ:
PS_DEPLOY_PORT	例: 80 (デフォルト)
サーバードキュメントルート	データ:
PS_DEPLOY_DOCROOT	Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr/docs (デフォルト) Linux の場合: /opt/sun/webserver/docs (デフォルト)

表 2-9 Web Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
セキュリティー保護されたサーバーインスタンスポート	データ: _____
PS_DEPLOY_PROTOCOL	状態ファイルの例: http (デフォルト)
<i>Web</i> コンテナの配備	
配備 URI	データ: _____
PS_DEPLOY_URI	例: /portal (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュ (/) が必要です。
複数の Portal Server を制御するロードバランサ	データ: _____
	状態ファイルの例: n (デフォルト)
ロードバランサ URL	データ: _____
PS_LOAD_BALANCER_URL	_____
サンプルポータルインストール	データ: _____
PS_SAMPLE_PORTAL	状態ファイルの例: y (デフォルト)

BEA WebLogic Server に配備された Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、50 ページの「[Directory Server 設定情報](#)」の表を参照してください。

表 2-10 BEA WebLogic Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	
Portal Server	データ: _____
CMN_PS_INSTALLDIR	例: /opt (デフォルト)
<i>BEA WebLogic Server</i>	
ホームディレクトリ	データ: _____
PS_DEPLOY_DIR	例: /usr/local/boa (デフォルト)

表 2-10 BEA WebLogic Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
製品インストールディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR	例: /usr/local/boa/weblogic81 (デフォルト)
ユーザープロジェクトのディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_PROJECT_DIR	例: user_projects (デフォルト)
製品の JDK ディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_JDK_DIR	例: /usr/local/boa/jdk141_05 (デフォルト)
サーバー / クラスタドメイン	データ:
PS_DEPLOY_DOMAIN	例: mydomain (デフォルト)
サーバー / クラスタインスタンス	データ:
PS_DEPLOY_INSTANCE	例: myserver (デフォルト)
サーバー / クラスタポート	データ:
PS_DEPLOY_PORT	例: 7001 (デフォルト)
サーバー / クラスタプロトコル	データ:
PS_DEPLOY_PROTOCOL	例: http (デフォルト)
ドキュメントルートディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_DOCROOT	
管理者ユーザー ID	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN	例: weblogic (デフォルト)
管理者パスワード	データ:
PS_IS_ADMIN_PASSWORD	(デフォルトは共通サーバー設定の値)
管理対象サーバー	データ:
PS_DEPLOY_NOW	状態ファイルの例: n (デフォルト)
Web コンテナの配備	

表 2-10 BEA WebLogic Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ロードバランサプロトコル	データ: _____ 状態ファイルの例: http (デフォルト)
ロードバランサホスト	データ: _____ 例: mycomputer.example.com
ロードバランサポート	データ: _____ 例: 80 (デフォルト)
配備 URI PS_DEPLOY_URI	データ: _____ 例: /portal (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュ (/) が必要です。
複数の Portal Server を制御する ロードバランサ	データ: _____ 状態ファイルの例: n (デフォルト)
サンプルポータルインストール PS_SAMPLE_PORTAL	データ: _____ 状態ファイルの例: y (デフォルト)

IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、58 ページの「Portal Server の設定情報」の表を参照してください。

表 2-11 IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	
Portal Server CMN_PS_INSTALLDIR	データ: _____ 例: /opt (デフォルト)
<i>IBM WebSphere Application Server</i>	

表 2-11 IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ PS_DEPLOY_DIR	データ: 例: /opt/IBM/WebSphere/Express51/AppServer (デフォルト)
仮想ホスト PS_DEPLOY_VIRTUAL_HOST	データ: 例: default_host (デフォルト)
セル PS_DEPLOY_CELL	データ: 例: DefaultNode (デフォルト)
ノード PS_DEPLOY_NODE	データ: 例: DefaultNode (デフォルト)
サーバーインスタンス PS_DEPLOY_INSTANCE	データ: 例: server1 (デフォルト)
サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT	データ: 例: 9080 (デフォルト)
ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT	データ: 例: /opt/IBM/WebSphere/Express51/AppServer/installedApps\ DefaultNode/DefaultApplication.ear (デフォルト)
Java ホームディレクトリ PS_DEPLOY_JDK_DIR	データ: 例: /opt/IBM/WebSphere/Express51/Appserver/java (デフォルト)
セキュリティー保護されたサーバーインスタンス PS_DEPLOY_PROTOCOL	データ: 状態ファイルの例: http (デフォルト)
<i>Web</i> コンテナの配備	
ロードバランサプロトコル	データ: 状態ファイルの例: http (デフォルト)

表 2-11 IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ロードバランサホスト	データ: _____ 例: mycomputer.example.com
ロードバランサポート	データ: _____ 例: 8080 (デフォルト)
配備 URI PS_DEPLOY_URI	データ: _____ 例: /portal (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュ (/) が必要です。
複数の Portal Server を制御する ロードバランサ	データ: _____ 状態ファイルの例: n (デフォルト)
サンプルポータルインストール PS_SAMPLE_PORTAL	データ: _____ 状態ファイルの例: y (デフォルト)

Portal Server Secure Remote Access の ワークシート

このワークシートの各フィールドの詳細については、65 ページの「Portal Server Secure Remote Access の設定情報」の表を参照してください。

表 2-12 Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ (常に必要)	
Portal Server Secure Remote Access CMN_SRA_INSTALLDIR	データ: _____ 例: /opt (デフォルト)

表 2-12 Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
Web コンテナの配備 (Secure Remote Access コアを Portal Server と同じセッションでインストールする場合以外は必須)	
プロトコル	データ:
SRA_SERVER_PROTOCOL	状態ファイルの例: http (デフォルト)
ホスト	データ:
SRA_SERVER_HOST	例: mycomputer.example.com
ポート	データ:
SRA_SERVER_PORT	例: 8080 (デフォルト)
配備 URI	データ:
SRA_DEPLOY_URI	例: /portal (デフォルト)
ゲートウェイ情報 (Secure Remote Access コアをインストールする場合は必須)	
ゲートウェイプロトコル	データ:
SRA_GATEWAY_PROTOCOL	状態ファイルの例: https (デフォルト)
Portal Server ドメイン	データ:
SRA_SERVER_DOMAIN	例: example.com
ゲートウェイドメイン	データ:
SRA_GATEWAY_DOMAIN	例: example.com
ゲートウェイポート	データ:
SRA_GATEWAY_PORT	例: 443 (デフォルト)
ゲートウェイプロファイル名	データ:
SRA_GATEWAY_PROFILE	例: default (デフォルト)

表 2-12 Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ログのユーザーパスワード	データ:
SRA_LOG_USER_PASSWORD	_____ (デフォルトは共通サーバー設定の値)
ゲートウェイ (ゲートウェイをインストールする場合は必須)	
プロトコル	データ:
SRA_GW_PROTOCOL	_____ 状態ファイルの例: https (デフォルト)
ホスト名	データ:
SRA_GW_HOSTNAME	_____ 例: mycomputer
サブドメイン	データ:
SRA_GW_SUBDOMAIN	_____
ドメイン	データ:
SRA_GW_DOMAIN	_____ 例: example.com
ホスト IP アドレス	データ:
SRA_GW_IPADDRESS	_____ 例: 127.51.91.192
アクセスポート	データ:
SRA_GW_PORT	_____ 例: 443 (デフォルト)
ゲートウェイプロファイル名	データ:
SRA_GW_PROFILE	_____ 例: default (デフォルト)
ログのユーザーパスワード	データ:
SRA_LOG_USER_PASSWORD	_____ (デフォルトは共通サーバー設定の値)
インストール後ゲートウェイの開始	データ:
SRA_GW_START	_____ 状態ファイルの例: y (デフォルト)
Netlet プロキシ (Netlet プロキシをインストールする場合は必須)	

表 2-12 Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ホスト名 SRA_NLP_HOSTNAME	データ: _____ 例: mycomputer
サブドメイン SRA_NLP_SUBDOMAIN	データ: _____
ドメイン SRA_NLP_DOMAIN	データ: _____ 例: example.com
ホスト IP アドレス SRA_NLP_IPADDRESS	データ: _____ 例: 127.51.91.192
アクセスポート SRA_NLP_PORT	データ: _____ 例: 10555 (デフォルト)
ゲートウェイプロファイル名 SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE	データ: _____ 例: default (デフォルト)
ログのユーザーパスワード SRA_LOG_USER_PASSWORD	データ: _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値)
インストール後 Netlet プロキシの 開始 SRA_NLP_START	データ: _____ 状態ファイルの例: y (デフォルト)
<i>Rewriter</i> プロキシ (<i>Rewriter</i> プロキシをインストールする場合は必須)	
ホスト名 SRA_RWP_HOSTNAME	データ: _____ 例: mycomputer
サブドメイン SRA_RWP_SUBDOMAIN	データ: _____
ドメイン SRA_RWP_DOMAIN	データ: _____ 例: example.com

表 2-12 Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ホスト IP アドレス	データ:
SRA_RWP_IPADDRESS	_____
	例: 127.51.91.192
アクセスポート	データ:
SRA_RWP_PORT	_____
	例: 10443 (デフォルト)
ゲートウェイプロファイル名	データ:
SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE	_____
	例: default (デフォルト)
ログのユーザーパスワード	データ:
SRA_LOG_USER_PASSWORD	_____
	(デフォルトは共通サーバー設定の値)
インストール後 Rewriter プロキシの開始	データ:
SRA_RWP_START	_____
	状態ファイルの例: y (デフォルト)
プロキシ情報 (Netlet プロキシまたは Rewriter プロキシをインストールする場合は必須)	
別のホスト上の Portal Server で作業	データ:
SRA_IS_CREATE_INSTANCE	_____
Portal Server プロトコル	データ:
SRA_SERVER_PROTOCOL	_____
Portal Server ホスト	データ:
SRA_SERVER_HOST	_____
Portal Server ポート	データ:
SRA_SERVER_PORT	_____
Portal Server 配備 URI	データ:
SRA_DEPLOY_URI	_____
組織 DN	データ:
SRA_IS_ORG_DN	_____
Access Manager サービス URI	データ:
SRA_IS_SERVICE_URI	_____

表 2-12 Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
Access Manager の暗号鍵	データ:
SRA_IS_PASSWORD_KEY	_____
証明書情報 (ゲートウェイ、Netlet プロキシ、または Rewriter プロキシをインストールする場合は必須)	
組織	データ:
SRA_CERT_ORGANIZATION	_____
部署	データ:
SRA_CERT_DIVISION	_____
市 / 地域	データ:
SRA_CERT_CITY	_____
州 / 都道府県	データ:
SRA_CERT_STATE	_____
国名コード	データ:
SRA_CERT_COUNTRY	_____
証明書データベースパスワード	データ:
SRA_CERT_PASSWORD	_____

Web Server のワークシート

このワークシートの詳細については 81 ページの「Web Server の設定情報」の表を参照してください。

表 2-13 Web Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	
Web Server	データ:
CMN_WS_INSTALLDIR	_____
	Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr (デフォルト)
	Linux の場合: /opt/sun/webserver (デフォルト)

表 2-13 Web Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
管理	
管理者ユーザー ID WS_ADMIN_USER	データ: _____ 例: admin (デフォルトは共通サーバー設定の値)
管理者パスワード WS_ADMIN_PASSWORD	データ: _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値)
Web Server ホスト WS_ADMIN_HOST	データ: _____ 例: mycomputer.example.com
管理ポート WS_ADMIN_PORT	データ: _____ 例: 8888 (デフォルト)
管理実行時ユーザー ID WS_ADMIN_SYSTEM_USER	データ: _____ 例: root (デフォルト)
デフォルト Web Server インスタンス	
実行時ユーザー ID WS_INSTANCE_USER	データ: _____ 例: webservd (デフォルト)
実行時グループ WS_INSTANCE_GROUP	データ: _____ 例: webservd (デフォルト)
HTTP ポート WS_ADMIN_PORT	データ: _____ 例: 80 (デフォルト)
ドキュメントルートディレクトリ WS_INSTANCE_CONTENT_ROOT	データ: _____ Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr/docs (デフォルト) Linux の場合: /opt/sun/webserver/docs (デフォルト)
システム再起動時に自動的に Web Server を起動 WS_INSTANCE_AUTO_START	データ: _____ 状態ファイルの例: N (デフォルト)

Web Proxy Server のワークシート

このワークシートの詳細については 84 ページの「Web Proxy Server の設定情報」を参照してください。

表 2-14 Web Proxy Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
Web Proxy Server	データ:
CMN_WPS_INSTALLDIR	_____ Solaris OS の場合: /opt/SUNWproxy (デフォルト) Linux の場合: /opt/sun/webproxy (デフォルト)
管理者ユーザー ID	データ:
WPS_ADMIN_USER	_____ 例: admin (デフォルトは共通サーバー設定の値)
管理者パスワード	データ:
WPS_ADMIN_PASSWORD	_____ (デフォルトは共通サーバー設定の値)
プロキシサーバードメイン名	データ:
WPS_PROXY_DOMAIN	_____ 例: mycomputer.example.com
管理ポート	データ:
WPS_ADMIN_PORT	_____ 例: 8888 (デフォルト)
管理サーバー実行時ユーザー ID	データ:
WPS_ADMIN_RUNTIME_USER	_____ 例: root (デフォルト)
インスタンス実行時ユーザー ID	データ:
WPS_INSTANCE_RUNTIME_USER	_____ 例: nobody (デフォルト)
プロキシインスタンスポート	データ:
WPS_INSTANCE_PORT	_____ 例: 8181 (デフォルト)

第 3 章

デフォルトのインストールディレクトリとポート

この章では、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラがデフォルトで使用するコンポーネントのインストールディレクトリおよびポート番号を示します。

デフォルトのインストールディレクトリ

Java ES インストーラは、特に指定されない限り、コンポーネントをデフォルトのディレクトリに自動的にインストールします。通常は、「今すぐ設定」オプションを使用すると、デフォルトの場所を別の場所に変更できます。

次のコンポーネントのインストールディレクトリには制限があります。

- **Directory Server:**Directory Server のインストール場所は指定できません。ただし、Directory Server ランタイム設定データの場所は指定できます。
- **Portal Server Secure Remote Access:**Portal Server Secure Remote Access コアは、Portal Server と同じ場所にインストールする必要があります。
- **Sun Cluster** ソフトウェア、**Sun Cluster Agents for Sun Java System:**インストールディレクトリの場所を変更することはできません。
- **Message Queue:**インストールディレクトリの場所を変更することはできません。

次の表は、Java ES コンポーネントのデフォルトインストールディレクトリのリストを記載しています。

表 3-1 デフォルトのインストールディレクトリ

ラベルと状態ファイルのパラメータ	デフォルトディレクトリ	コメント
Access Manager CMN_IS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWam Linux の場合: /opt/sun/identity	
Application Server CMN_AS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWappserver/appserver Linux の場合: /opt/sun/appserver	Application Server のユーティリティ、実行ファイル、およびライブラリが保存されます。
Application Server ドメイン CMN_AS_DOMAINSDIR	Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver/domains Linux の場合: /var/opt/sun/appserver/domains	管理ドメインが作成されるデフォルトの領域。
Calendar Server CMN_CS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt Linux の場合: /opt/sun	
Communications Express CMN_UWC_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWuwc Linux の場合: /opt/sun/uwc	
Directory Preparation Tool	Solaris OS の場合: /opt/SUNWcomds Linux の場合: /opt/sun/comms/dssetup	
Directory Proxy Server CMN_DPS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: / Linux の場合: /opt/sun	
Directory Server、サーバルート CMN_DS_SERVER_ROOT	Solaris OS の場合: /var/opt/mps/serverroot Linux の場合: /var/opt/sun/directory-server	
HADB CMN_HADB_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWhadb Linux の場合: /opt/SUNWhadb	HADB のインストール場所は、Java ES インストール時には再配置できません。
	Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWhadb Linux の場合: /var/opt/SUNWhadb	HADB のリポジトリデータとログの場所。
	Solaris OS の場合: /etc/opt/SUNWhadb Linux の場合: /etc/opt/SUNWhadb	HADB 管理エージェント設定ファイル
	Solaris OS の場合: /etc/init.d/ma-initd Linux の場合: /etc/init.d/ma-initd	HADB 管理エージェント起動スクリプト

表 3-1 デフォルトのインストールディレクトリ (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	デフォルトディレクトリ	コメント
Instant Messaging CMN_IIM_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt Linux の場合: /opt/sun	
Instant Messaging リソースディレクトリ CMN_IIM_DOCSDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWiim/html Linux の場合: /opt/sun/im/html	
Instant Messaging オンラインヘルプディレクトリ CMN_IIM_DOCSHELPPDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWiim/html/en/imhelp Linux の場合: /opt/sun/im/html/en/imhelp	
Message Queue インストールディレクトリを変更できないため、インストーラのフィールド、または状態ファイルのパラメータのフィールドは存在しません。	なし	Solaris OS の場合: /usr/bin /usr/share/lib /usr/share/lib/imq /etc/imq /var/imq /usr/share/javadoc/imq /usr/demo/imq /opt/SUNWimq Linux の場合: /opt/sun/mq /etc/opt/sun/mq /var/opt/sun/mq
Messaging Server CMN_MS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWmsgsr Linux の場合: /opt/sun/messaging	
Portal Server CMN_PS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWps Linux の場合: /opt/sun/portal	
Portal Server Secure Remote Access CMN_SRA_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWps Linux の場合: /opt/sun/portal	Portal Server Secure Remote Access コアは、Portal Server と同じディレクトリにインストールする必要があります。
Service Registry CMN_REG_SERVER_ROOT	Solaris OS の場合: /opt/SUNWsoar Linux の場合: /opt/sun/SUNWsoar	

表 3-1 デフォルトのインストールディレクトリ (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	デフォルトディレクトリ	コメント
Sun Cluster インストールディレクトリを変更できないため、インストーラのフィールド、または状態ファイルのパラメータのフィールドは存在しません。	なし	Sun Cluster ソフトウェアは、Solaris OS 上の次の場所にインストールされます。 / /usr/opt /usr/cluster
Web Server CMN_WS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr Linux の場合: /opt/sun/webserver	
Web Proxy Server CMN_WPS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWproxy Linux の場合: /opt/sun/webproxysvr	

デフォルトのポート番号

Java ES インストーラは、ポート番号の入力をユーザーに要求する際、使用中のポートの実行時チェックを実行して適切なデフォルト値を表示します。別のコンポーネント、または同じコンポーネントの別のインスタンスがデフォルト番号のポートを使用している場合、インストーラは別の値を示します。

次の表は、Java ES コンポーネントのポート番号および各ポートの目的を示しています。

注 - Access Manager および Portal Server は、それぞれが配備される Web コンテナのポート番号を使用するため、この表には含まれません。

表 3-2 コンポーネントのデフォルトポート番号

コンポーネント	ポート	目的
管理サーバー	390	標準の HTTP ポート

表 3-2 コンポーネントのデフォルトポート番号 (続き)

コンポーネント	ポート	目的
Application Server	8080	標準の HTTP ポート
	3700	標準の IIOP ポート
	4849	管理サーバーのポート
	7676	標準の Message Queue ポート
	8686	JMX ポート
	8181	HTTPS ポート
Calendar Server	80	標準の HTTP ポート
	389	LDAP ポート
	57997	ENS
	59779	DWP
Common Agent Container	10162	JMX ポート (TCP)
	10161	SNMP アダプタポート (UDP)
	10162	トラップ用 SNMP アダプタポート (UDP)
	10163	Commandstream アダプタポート (TCP)
Directory Proxy Server	489	LDAP リスナ
Directory Server	389	標準の LDAP リスナ
	636	LDAPS over SSL
HADB	1862	管理エージェントのポート (JMX)
	15200	デフォルトのポートベース
Instant Messaging	5222	マルチプレクサポート
	5269	Instant Messaging サーバー間ポート
	45222	Instant Messaging のポート
Message Queue	80	標準の HTTP ポート
	7676	ポートマッパー
	7677	HTTP トネリングサブレットポート

表 3-2 コンポーネントのデフォルトポート番号 (続き)

コンポーネント	ポート	目的
Messaging Server	25	標準の SMTP ポート
	80	Messaging Express (HTTP) のポート
	110	標準の POP3 ポート / MMP POP3 プロキシ
	143	標準の IMAP4 ポート / MMP IMAP プロキシ
	992	POP3 over SSL
	993	IMAP over SSL または MMP IMAP プロキシ over SSL
	7997	イベント通知サービスのポート
	27442	製品の内部通信のために Job Controller によって使用されます
	49994	製品の内部通信のために Watcher によって使用されます
Portal Server Secure Remote Access	8080	標準の HTTP ポート
	443	HTTP over SSL
	10443	Rewriter プロキシポート
	10555	Netlet プロキシポート
Service Registry	6060	HTTP ポート
	6443	HTTPS ポート
	6484	Message Queue ポート
	6485	IIOP ポート
	6486	IIOP SSL ポート
	6487	IIOP 相互認証ポート
	6488	JMX ポート
	6489	Application Server ドメインの管理ポート

表 3-2 コンポーネントのデフォルトポート番号 (続き)

コンポーネント	ポート	目的
Sun Cluster ソフトウェア	23	Sun Fire 15000 システムコントローラ用に Telnet ポート 23 を使用します
	161	SNMP (Simple Network Management Proocol) エージェント通信ポート
	3000	SunPlex インストーラポート
	5000 ... 5010	物理ポート番号に 5000 を追加する、コンソールアクセスポート
	6789	Sun Java Web コンソールを介して SunPlex Installer にアクセスします
Web Server	80	標準の HTTP ポート
	8888	標準の管理ポート
Web Proxy Server	8888	管理ポート
	8081	プロキシインスタンスポート

第 4 章

Java ES の配布内容

この章の表に、Java ES ソフトウェアの配布内容の一覧を示します。容量を考慮する必要がある場合は、サイズがより小さいコンポーネントバンドルを使用できます。ただし、帯域幅が問題でない場合や、将来 Java ES コンポーネントを複数インストールする予定である場合は、完全な Java ES 配布内容の使用をお勧めします。1 台のコンピュータで複数のバンドルを使用すると、システムの管理が一層困難になります。

バンドル名の中に、そのバンドルが対応するオペレーティングシステムが示されています (例: `java_es_05Q4_directory-ga-solaris-sparc.zip`)。ISO 配布には、バンドル名に `iso` という指定が含まれます。たとえば、`java_es_05Q4-ga-solaris-sparc-1-iso.zip` となります。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 129 ページの「Solaris SPARC の配布内容」
- 132 ページの「Solaris x86 の配布内容」
- 134 ページの「Linux の配布内容」

Solaris SPARC の配布内容

表 4-1 Solaris SPARC の配布内容

コンポーネントバンドル	それ以外に含まれる内容	バンドル名
Solaris SPARC プラットフォーム	すべてのコンポーネント	<code>java_es_05Q4-ga-solaris-sparc-1.zip</code> <code>java_es_05Q4-ga-solaris-sparc-2.zip</code> または <code>java_es_05Q4-ga-solaris-sparc-1-iso.zip</code> <code>java_es_05Q4-ga-solaris-sparc-2-iso.zip</code>

表 4-1 Solaris SPARC の配布内容 (続き)

コンポーネントバンドル	それ以外に含まれる内容	バンドル名
Access Manager	管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server	java_es_05Q4_identity-ga-solaris-sparc.zip
Application Server	Message Queue Web Server	java_es_05Q4_appserver-ga-solaris-sparc.zip
Calendar Server	Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server	java_es_05Q4_calendar-ga-solaris-sparc.zip
Communications Express	Access Manager 管理サーバー Application Server Calendar Server Directory Server Message Queue Messaging Server Web Server Delegated Administrator	java_es_05Q4_uwc-ga-solaris-sparc.zip
Directory Server	管理サーバー	java_es_05Q4_directory-ga-solaris-sparc.zip
Directory Proxy Server	管理サーバー Directory Server	java_es_05Q4_dirproxy-ga-solaris-sparc.zip
Instant Messaging	Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server	java_es_05Q4_im-ga-solaris-sparc.zip

表 4-1 Solaris SPARC の配布内容 (続き)

コンポーネントバンドル	それ以外に含まれる内容	バンドル名
Message Queue	なし	java_es_05Q4_msgq-ga-solaris-sparc.zip
Messaging Server	Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server Delegated Administrator	java_es_05Q4_msgserver-ga-solaris-sparc.zip
Portal Server	Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Portal Server SRA Web Server	java_es_05Q4_portal-ga-solaris-sparc.zip
Service Registry	Application Server Message Queue	java_es_05Q4_soaregistry-ga-solaris-sparc.zip
Sun Cluster	Sun Cluster Agents for Java ES 管理サーバー	java_es_05Q4_cluster-ga-solaris-sparc.zip
Web Server	Web Server	java_es_05Q4_webserver-ga-solaris-sparc.zip
Web Proxy Server	なし	java_es_05Q4_webproxy-ga-solaris-sparc.zip

Solaris x86 の配布内容

表 4-2 Solaris x86 の配布内容

コンポーネントバンドル	それ以外に含まれる内容	バンドル名
Solaris x86 プラットフォーム	すべてのコンポーネント	java_es_05Q4-ga-solaris-x86-1.zip java_es_05Q4-ga-solaris-x86-2.zip または java_es_05Q4-ga-solaris-x86-1-iso.zip java_es_05Q4-ga-solaris-x86-2-iso.zip
Access Manager	管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server	java_es_05Q4_identity-ga-solaris-x86.zip
Application Server	Message Queue Web Server	java_es_05Q4_appserver-ga-solaris-x86.zip
Calendar Server	Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server	java_es_05Q4_calendar-ga-solaris-x86.zip
Communications Express	Access Manager 管理サーバー Application Server Calendar Server Directory Server Message Queue Messaging Server Web Server Delegated Administrator	java_es_05Q4_uwc-ga-solaris-x86.zip

表 4-2 Solaris x86 の配布内容 (続き)

コンポーネントバンドル	それ以外に含まれる内容	バンドル名
Directory Server	管理サーバー	java_es_05Q4_directory-ga-solaris-x86.zip
Directory Proxy Server	管理サーバー Directory Server	java_es_05Q4_dirproxy-ga-solaris-x86.zip
Instant Messaging	Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server	java_es_05Q4_im-ga-solaris-x86.zip
Message Queue	なし	java_es_05Q4_msgq-ga-solaris-x86.zip
Messaging Server	Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server Delegated Administrator	java_es_05Q4_msgserver-ga-solaris-x86.zip
Portal Server	Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Portal Server SRA Web Server	java_es_05Q4_portal-ga-solaris-x86.zip
Service Registry	Application Server Message Queue	java_es_05Q4_soaregistry-ga-solaris-x86.zip
Sun Cluster	Sun Cluster Agents for Java ES 管理サーバー	java_es_05Q4_cluster-ga-solaris-x86.zip

表 4-2 Solaris x86 の配布内容 (続き)

コンポーネントバンドル	それ以外に含まれる内容	バンドル名
Web Server	Web Server	java_es_05Q4_webserver-ga-solaris-x86.zip
Web Proxy Server	なし	java_es_05Q4_webproxy-ga-solaris-x86.zip

Linux の配布内容

表 4-3 Linux の配布内容

コンポーネントバンドル	それ以外に含まれる内容	バンドル名
Linux x86 プラットフォーム	すべてのコンポーネント	java_es_05Q4-ga-linux-x86.zip または java_es_05Q4-ga-linux-x86-iso.zip
Access Manager	管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server	java_es_05Q4_identity-ga-linux-x86.zip
Application Server	Message Queue Web Server	java_es_05Q4_appserver-ga-linux-x86.zip
Calendar Server	Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server	java_es_05Q4_calendar-ga-linux-x86.zip

表 4-3 Linux の配布内容 (続き)

コンポーネントバンドル	それ以外に含まれる内容	バンドル名
Communications Express	Access Manager 管理 サーバー Application Server Calendar Server Directory Server Message Queue Messaging Server Web Server Delegated Administrator	java_es_05Q4_uwc-ga-linux-x86.zip
Directory Server	管理サーバー	java_es_05Q4_directory-ga-linux-x86.zip
Directory Proxy Server	管理サーバー、Directory Server	java_es_05Q4_dirproxy-ga-linux-x86.zip
Instant Messaging	Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server	java_es_05Q4_im-ga-linux-x86.zip
Message Queue	なし	java_es_05Q4_msgq-ga-linux-x86.zip
Messaging Server	Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server Delegated Administrator	java_es_05Q4_msgserver-ga-linux-x86.zip

表 4-3 Linux の配布内容 (続き)

コンポーネントバンドル	それ以外に含まれる内容	バンドル名
Portal Server	Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Portal Server SRA Web Server	java_es_05Q4_portal-ga-linux-x86.zip
Service Registry	Application Server Message Queue	java_es_05Q4_soaregistry-ga-linux-x86.zip
Web Server	Web Server	java_es_05Q4_webserver-ga-linux-x86.zip
Web Proxy Server	なし	java_es_05Q4_webproxy-ga-linux-x86.zip

第 5 章

インストール可能なパッケージの一覧

次の節では、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラによりインストールされるパッケージの一覧を示します。

- 137 ページの「Solaris パッケージ」
 - 137 ページの「Solaris OS 用アンインストールパッケージ」
 - 138 ページの「コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ」
 - 145 ページの「共有コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ」
 - 148 ページの「コンポーネント用のローカライズされた Solaris パッケージ」
- 159 ページの「Linux パッケージ」
 - 159 ページの「Linux 用アンインストールパッケージ」
 - 159 ページの「コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ」
 - 166 ページの「共有コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ」
 - 169 ページの「コンポーネント用のローカライズされた Linux パッケージ」

Solaris パッケージ

Solaris OS 用アンインストールパッケージ

次の表に、Java ES のアンインストールパッケージを示します。

表 5-1 Solaris OS 用アンインストールパッケージ

コンポーネント	パッケージ
アンインストーラ	SUNWentsys4
アンインストーラ (ローカライズされたパッケージ)	SUNWentsys4-l10n

コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ

この節では、Java ES の各コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージを示します。

Access Manager の Solaris パッケージ

表 5-2 Solaris OS 用 Access Manager パッケージ

コンポーネント	パッケージ	
Access Manager	SUNWamsam SUNWamsai SUNWamrsa	SUNWamutl SUNWcomic SUNWcomis
Access Manager SDK	SUNWamext SUNWamconsdk SUNWamsdk	SUNWamclnt SUNWamsdkconfig
管理コンソール	SUNWamcon	SUNWampwd
Mobile Access プラグイン	SUNWamma	SUNWammae
アイデンティティ管理とポリシーサービスコア	SUNWamsvc	SUNWamsvcconfig
連携管理の共有ドメインサービス	SUNWamfcd	
セッションフェイルオーバー	SUNWamsfodb	

管理サーバーの Solaris パッケージ

表 5-3 Solaris OS 用管理サーバーパッケージ

コンポーネント	パッケージ	
管理サーバー	SUNWasvc SUNWasvcp	SUNWasvr SUNWasvu SUNWasvmn

Application Server の Solaris パッケージ

表 5-4 Solaris OS 用 Application Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ	
Application Server、Enterprise Edition	SUNWasacee SUNWascm1 SUNWasdem SUNWashdm SUNWasman SUNWasmanee SUNWascmn SUNWascmnse	SUNWasdb SUNWasdemdb SUNWasu SUNWasuee SUNWasut SUNWaswbcr SUNWasjdoc SUNWasJdbcDrivers
管理クライアント	SUNWasac	
Point Base Server	SUNWasdb	
ロードバランスプラグイン	SUNWaslb	

Calendar Server の Solaris パッケージ

表 5-5 Solaris OS 用 Calendar Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ	
Calendar Server	SUNWica5	SUNWics5

Communications Express の Solaris パッケージ

表 5-6 Solaris OS 用 Communications Express パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Communications Express	SUNWuwc

Delegated Administrator の Solaris パッケージ

表 5-7 Solaris OS 用 Delegated Administrator パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Communications Services Delegated Administrator	SUNWcommcli-client SWUNcommcli-server

Directory Server の Solaris パッケージ

表 5-8 Solaris OS 用 Directory Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ	
SPARC 環境の Directory Server	SUNWdsvr	SUNWdsvpl
	SUNWdsvu	SUNWdsvhx
	SUNWdsvx	SUNWdsvh
	SUNWdsvcp	SUNWdsvmn
	X86 環境の Directory Server	SUNWdsvr
	SUNWdsvmn	SUNWdsvpl
	SUNWdsvu	

Directory Proxy Server の Solaris パッケージ

表 5-9 Solaris OS 用 Directory Proxy Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ
SPARC 環境の Directory Proxy Server	SUNWdps SUNWdpsg SUNWdpsi

HADB の Solaris パッケージ

表 5-10 Solaris OS 用 HADB パッケージ

コンポーネント	パッケージ	
HADB	SUNWhadbc	SUNWhadbi
	SUNWhadbe	SUNWhadbs
	SUNWhadbv	SUNWhadbj
	SUNWhadbx	SUNWhadbm
	SUNWhadba	

Instant Messaging の Solaris パッケージ

表 5-11 Solaris OS 用 Instant Messaging パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Instant Messaging サーバーコア	SUNWiim SUNWiimjd SUNWiimin SUNWiimm
Instant Messaging リソース	SUNWiimc SUNWiimd
Access Manager Instant Messaging Service	SUNWiimid SUNWiimin

Message Queue の Solaris パッケージ

表 5-12 Solaris OS 用 Message Queue パッケージ

コンポーネント	パッケージ	
Message Queue Enterprise Edition	SUNWiqcdv	SUNWiq1pl
	SUNWiqcrt	SUNWiqr
	SUNWiqdoc	SUNWiqu
	SUNWiqfs	SUNWiquc
	SUNWiqjx	SUNWiqum
	SUNWiq1en	

Portal Server Secure Remote Access の Solaris パッケージ

表 5-15 Solaris OS 用 Portal Server SRA パッケージ

コンポーネント	パッケージ	
Portal Server SRA コア	SUNWpsgws	SUNWpsplt
	SUNWpsgwa	SUNWpspltconfig
	SUNWpsks	SUNWpsgwm
	SUNWpsnl	SUNWpsss
	SUNWpsnf	SUNWpscfcg
ゲートウェイ	SUNWpsgw	SUNWpscfcg
	SUNWpsgwm	
Netlet プロキシ	SUNWpsnlp	SUNWpscfcg
Rewriter プロキシ	SUNWpsrwp	SUNWpscfcg

Service Registry の Solaris パッケージ

表 5-16 Solaris OS 用 Service Registry パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Service Registry	SUNWsoar-sdk
	SUNWsoar-server

Sun Cluster ソフトウェアとエージェントの Solaris パッケージ

表 5-17 Solaris 8 および 9 OS 用 Sun Cluster ソフトウェアのパッケージ

コンポーネント	パッケージ
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWscdev
	SUNWscgds
	SUNWscman
	SUNWscnm
	SUNWscr
	SUNWscsal
	SUNWscvm (SPARC only)
	SUNWmdmSUNWscsam
	SUNWscsck
	SUNWscu
	SUNWscva
	SUNWscmasa
	SUNWscspm
	SUNWscspmu
	SUNWscspmr

表 5-18 Solaris 10 OS 用 Sun Cluster パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWscdev
	SUNWscgds
	SUNWscman
	SUNWscnm
	SUNWscr
	SUNWscsal
	SUNWscvm (SPARC only)
	SUNWscsam
	SUNWscu
	SUNWscva
	SUNWscspm
	SUNWscspmu
	SUNWscspmr
	SUNWmdmr
	SUNWmdmu
	SUNWscmasar
	SUNWscmasau
	SUNWscnmr
	SUNWscnmu
	SUNWscsckr
SUNWscscku	

表 5-19 Solaris OS 用 Sun Cluster Agent for Sun Java System パッケージ

コンポーネント	パッケージ
管理サーバーデータサービス	SUNWasha
Application Server データサービス	SUNWscslas
Calendar Server データサービス	SUNWscics
Directory Server データサービス	SUNWdsha
Instant Messaging データサービス	SUNWiimsc
Message Queue データサービス	SUNWscslmq
Messaging Server データサービス	SUNWscims
Sun Java System HADB 用 Sun Cluster HA データサービス	SUNWschadb
Web Server データサービス	SUNWschtt

Web Server の Solaris パッケージ

表 5-20 Solaris OS 用 Web Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Web Server	SUNWawbsvr SUNWwbsvr

Web Proxy Server

表 5-21 Solaris OS 用 Web Proxy Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Web Proxy Server	SUNWproxy

共有コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ

次の表に、各共有コンポーネント用に配布される Solaris パッケージの名前を示します。

表 5-22 Solaris OS 用共用コンポーネントパッケージ

コンポーネント	パッケージ	
Ant	SUNWant	
Apache Derby データベース	SUNWderby-core SUNWderby-javadoc-dev	
ACL (Apache Common Logging)	aclg	
Berkeley DB	SUNWbdb	SUNWbdbj
Common Agent Container	SUNWcacao	SUNWcacaocfg
ICU (International Components for Unicode)	SUNWicu SUNWicux SUNWisux (SPARC 8,9 only)	
IMSDK	SUNWiimd	
J2SE (Java 2 Standard Edition) JDK 1.5	SUNWj5rt SUNWj5cfg SUNWj5dev SUNWj5dmo SUNWj5man	SUNWj5jmp SUNWj5rtx SUNWj5dvr SUNWj5dmx
JATO (Java Studio Enterprise Web Application Framework)	SUNWjato SUNWjatodoc	SUNWjatodmo
JavaHelp Runtime	SUNWjhrt SUNWjhdev	SUNWjhdoc SUNWjhdem
Java Mail Runtime	SUNWjmail	
JAXB (Java Architecture for XML Binding) Runtime	SUNWjaxb	
JAF (JavaBeans Activation Framework)	SUNWjaf	
JAXP (Java API for XML Processing)	SUNWjaxp	
JAXR (Java API for XML Registries) Runtime	SUNWxrgrt	
JAX-RPC (Java API for XML-based Remote Procedure Call) Runtime	SUNWxrpcrt	
JCAPI (Java Calendar API)	SUNWjcapi	

表 5-22 Solaris OS 用共用コンポーネントパッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ	
JDK (Java Dynamic Management Kit) Runtime	SUNWjdk-runtime SUNWjdk-runtime-jmx	
JSS (Java Security Services)	SUNWjss	SUNWjssx
KTSE (KT Search Engine)	SUNWktse	
LDAP C Language SDK	SUNWldk SUNWldkx SUNWldkx (SPARC 8, 9 only)	
LDAP Java SDK	SUNWljdk	
MA コア (Mobile Access コア)	SUNWamma SUNWammae	
NSPR (Netscape Portable Runtime)	SUNWpr SUNWprd	SUNWprx
NSS (Netscape Security Services)	SUNWtls SUNWtlisu	SUNWtlisx
SAAJ (SOAP With Attachments API for Java)	SUNWxsrt	
SASL (Simple Authentication Security Layer)	SUNWsas1	SUNWsas1x
Sun Explorer Data Collector	SUNWexplo SUNWexplj	SUNWexplu
Sun Java Monitoring Framework	SUNWmfwk-agent SUNWmfwk-cfg	SUNWmfwk-man
Sun Java Web コンソール	SUNWmcon SUNWmconr SUNWmcos	SUNWmcosx SUNWmctag
WSCL (Web Services Common Library)	SUNWwsc1	

コンポーネント用のローカライズされた Solaris パッケージ

ここでは、Java ES の各コンポーネント用のローカライズされたパッケージを示します。これは、言語別に構成されており、ローカライズされたパッケージが作成された言語ごとに分かれています。各言語のセクションでは、Java ES コンポーネントごとにローカライズされたパッケージを示します。また、表にはローカライズされたコンポーネントのバージョン番号も示されます。

ローカライズされたパッケージの名前には、言語を識別するための文字が含まれます。一部のパッケージでは、パッケージ名に含まれる「SUNW」の後に1文字が挿入されています。たとえば、日本語にローカライズされた Web Server のパッケージ名は SUNWjwbsvr で、このパッケージの韓国語バージョンの名前は SUNWkwbsvr です。

それ以外のパッケージでは、パッケージ名全体にローカライズバージョンを識別するための2文字が追加されています。たとえば、日本語にローカライズされた Messaging Server のパッケージ名は SUNWmsgja で、このパッケージの韓国語バージョンの名前は SUNWmsgko です。

次の表は、ローカライズされたパッケージ名の識別に使用される1文字と2文字の略号を示しています。

表 5-23 パッケージ名に含まれる言語略号

言語	1文字の略号	2文字の略号
簡体字中国語	c	zh
繁体字中国語	h	tw
フランス語	f	fr
ドイツ語	d	de
日本語	j	ja
韓国語	k	ko
スペイン語	e	es

簡体字中国語の Solaris パッケージ

表 5-24 簡体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Access Manager	SUNWamlzh SUNWcammmap

表 5-24 簡体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ	
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWcsc SUNWcscspmu	SUNWcscspm
Web Server	SUNWcwbsvr	
Web Proxy Server	SUNWcproxy	
Sun Java Web コンソール	SUNWcmcon SUNWcmconr SUNWcmcos	SUNWcmcosx SUNWcmctag

繁体字中国語の Solaris パッケージ

表 5-25 繁体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ

コンポーネント	パッケージ	
Access Manager	SUNWamltw	SUNWhammap
管理サーバー	SUNWhasvu SUNWhasvc	SUNWhasvcp
Application Server	SUNWhasacee SUNWhascmnse	SUNWhasu SUNWhasuee
Calendar Server	SUNWtwics	
Communications Express	SUNWhuwc	
Directory Server	SUNWhdsvcp	SUNWhdsvu
Directory Proxy Server	SUNWhdpsg	
Instant Messaging	SUNWhiimc SUNWhiimd	SUNWhiimin SUNWhimid
Message Queue	SUNWhiqu	SUNWhiquc
Messaging Server	SUNWmsgtw	

表 5-26 フランス語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ	
Application Server	SUNWfasacee SUNWfascmse	SUNWfasu SUNWfasuee
Calendar Server	SUNWfrics	
Communications Express	SUNWfuwc	
Directory Server	SUNWfdsvcp	SUNWfdsvu
Directory Proxy Server	SUNWfdpsg	
Instant Messaging	SUNWfiimc SUNWfiimd	SUNWfiimin SUNWfimid
Message Queue	SUNWfiqu	SUNWfiquc
Messaging Server	SUNWmsgfr	
Portal Server Portal Server Secure Remote Access	SUNWfpsab SUNWfpsca SUNWfpsda SUNWfpsdm SUNWfpsds SUNWfpsdt SUNWfpsdx SUNWfpsga SUNWfpsgw SUNWfpsim SUNWfpsma SUNWfpsmai SUNWfpsmap SUNWfpsmas SUNWfpsnf SUNWfpsnl SUNWfpsnm	SUNWfpsoh SUNWfppsp SUNWfppslt SUNWfppsp SUNWfppsr SUNWfppra SUNWfppss SUNWfppssa SUNWfppsse SUNWfppso SUNWfppsp SUNWfppssp SUNWfppssa SUNWfppsssoa SUNWfppssu SUNWfppswsrpconsumer SUNWfppswsrpconsumersample SUNWfppswsrpproducer
Service Registry	SUNWfsoar-sdk SUNWfsoar-server	
Sun Cluster エージェント	SUNWfschtt SUNWfscslas	SUNWfschadb SUNWfscslmq
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWfsc SUNWfscspmu	SUNWfscspm
Web Server	SUNWfwbsvr	

表 5-26 フランス語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ	
Web Proxy Server	SUNWfproxy	
Sun Java Web コンソール	SUNWfmcon SUNWfmconr SUNWfmcos	SUNWfmcosx SUNWfmctag

ドイツ語の Solaris パッケージ

表 5-27 ドイツ語にローカライズされた Solaris パッケージ

コンポーネント	パッケージ	
Access Manager	SUNWamlde	SUNWdammap
管理サーバー	SUNWdasvu SUNWdasvc	SUNWdasvc
Application Server	SUNWdasacee SUNWdascmnse	SUNWdasu SUNWdasuee
Calendar Server	SUNWdeics	
Communications Express	SUNWduwc	
Directory Server	SUNWddsvcp SUNWddsvu	
Directory Proxy Server	SUNWddpsg	
Instant Messaging	SUNWdiimc SUNWdiimd	SUNWdiimin SUNWdimid
Message Queue	SUNWdiqu	SUNWdiquc
Messaging Server	SUNWmsgde	

表 5-27 ドイツ語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ	
Portal Server	SUNWdpsab	SUNWdpsoh
Portal Server	SUNWdpsca	SUNWdpsp
Secure Remote Access	SUNWdpsda	SUNWdpsplt
	SUNWdpsdm	SUNWdpsps
	SUNWdpsds	SUNWdpsr
	SUNWdpsdt	SUNWdpsra
	SUNWdpsdx	SUNWdps
	SUNWdpsga	SUNWdpsa
	SUNWdpsgw	SUNWdpsse
	SUNWdpsim	SUNWdpsso
	SUNWdpsma	SUNWdpsp
	SUNWdpsmai	SUNWdps
	SUNWdpsmap	SUNWdpssoa
	SUNWdpsmas	SUNWdpsu
	SUNWdpsnd	SUNWdpswsrproducer
	SUNWdpsnl	SUNWdpswsrconsumersample
	SUNWdpsnm	SUNWdpswsrproducer
Service Registry	SUNWdsoar-sdk	
	SUNWdsoar-server	
Sun Cluster エージェント	SUNWdscht	SUNWdschadb
	SUNWdscslas	SUNWdscslmq
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWdsc	SUNWdscspm
	SUNWdscspmu	
Web Server	SUNWdwbsvr	
Web Proxy Server	SUNWdproxy	
Sun Java Web コンソール	SUNWdmcon	SUNWdmcosx
	SUNWdmconr	SUNWdmctag
	SUNWdmcos	

日本語の Solaris パッケージ

表 5-28 日本語にローカライズされた Solaris パッケージ

コンポーネント	パッケージ	
Access Manager	SUNWamlja	SUNWjammap
管理サーバー	SUNWjasvu	SUNWjasvcp
	SUNWjasvc	

表 5-28 日本語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ	
Web Server	SUNWjwbsvr	
Web Proxy Server	SUNWjproxy	
Sun Java Web コンソール	SUNWjmcon SUNWjmconr SUNWjmcos	SUNWjmcosx SUNWjmctag

韓国語の Solaris パッケージ

表 5-29 韓国語にローカライズされた Solaris パッケージ

コンポーネント	パッケージ	
Access Manager	SUNWam1ko	SUNWkammap
管理サーバー	SUNWkasvu SUNWkasvc	SUNWkasvcp
Application Server	SUNWkasacee SUNWkascmnse	SUNWkasu SUNWkasuee
Calendar Server	SUNWkoics	
Communications Express	SUNWkuwc	
Directory Server	SUNWkdsvcp	SUNWkdsvu
Directory Proxy Server	SUNWkdpsg	
Instant Messaging	SUNWkiimc SUNWkiimd	SUNWkiimin SUNWkimid
Message Queue	SUNWkiqu	SUNWkiquc
Messaging Server	SUNWmsgko	

表 5-29 韓国語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ	
Portal Server	SUNWkpsab	SUNWkpsoh
Portal Server	SUNWkpsca	SUNWkpsp
Secure Remote Access	SUNWkpsda	SUNWkpsplt
	SUNWkpsdm	SUNWkpsps
	SUNWkpsds	SUNWkpsr
	SUNWkpsdt	SUNWkpsra
	SUNWkpsdx	SUNWkpss
	SUNWkpsga	SUNWkpssa
	SUNWkpsgw	SUNWkpse
	SUNWkpsim	SUNWkpssso
	SUNWkpsma	SUNWkpssp
	SUNWkpsmai	SUNWkpsss
	SUNWkpsmap	SUNWkpsssoa
	SUNWkpsmas	SUNWkpssu
	SUNWkpsnk	SUNWkpswsrproducer
	SUNWkpsnl	SUNWkpswsrconsumersample
	SUNWkpsnm	SUNWkpswsrproducer
Service Registry	SUNWksoar-sdk	
	SUNWksoar-server	
Sun Cluster エージェント	SUNWkscht	SUNWkschadb
	SUNWkscslas	SUNWkscslmq
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWksc	SUNWkscspm
	SUNWkscspmu	
Web Server	SUNWkwbsvr	
Web Proxy Server	SUNWkproxy	
Sun Java Web コンソール	SUNWkmcon	SUNWkmcsox
	SUNWjmconr	SUNWkmctag
	SUNWkmcos	

スペイン語の Solaris パッケージ

表 5-30 スペイン語にローカライズされた Solaris パッケージ

コンポーネント	パッケージ	
Access Manager	SUNWamles	SUNWeammmap
管理サーバー	SUNWeasvu	SUNWeasvc
	SUNWeasvc	

表 5-30 スペイン語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ	
Application Server	SUNWeasaco SUNWeascmo	SUNWeasdmo SUNWeaso
Calendar Server	SUNWesics	
Communications Express	SUNWeuwc	
Directory Server	SUNWedsvcp	SUNWedsvu
Directory Proxy Server	SUNWedpsg	
Instant Messaging	SUNWeiimc SUNWeiimd	SUNWeiimin SUNWeiimid
Message Queue	SUNWeiqu	SUNWeiquc
Messaging Server	SUNWmsges	
Portal Server Secure Remote Access	SUNWepsab SUNWepsca SUNWepsda SUNWepsdm SUNWepsds SUNWepsdt SUNWepsdx SUNWepsga SUNWepsgw SUNWepsim SUNWepsma SUNWepsmai SUNWepsmap SUNWepsmas SUNWepsne SUNWepsnl SUNWepsnm	SUNWepsoh SUNWepsp SUNWepsplt SUNWepsps SUNWepsr SUNWepsra SUNWepss SUNWepssa SUNWepsse SUNWepssso SUNWepssp SUNWepsss SUNWepsssoa SUNWepssu SUNWepswsrpconsumer SUNWepswsrpconsumersample SUNWepswsrpproducer
Service Registry	SUNWesoar-sdk SUNWesoar-server	
Sun Cluster エージェント	SUNWeschtt SUNWescslas	SUNWeschadb SUNWescslmq
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWesc SUNWescspmu	SUNWescspm
Web Server	SUNWewbsvr	

表 5-30 スペイン語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ	
Web Proxy Server	SUNWeproxy	
Sun Java Web コンソール	SUNWemcon SUNWemconr SUNWemcos	SUNWemcosx SUNWemctag

Linux パッケージ

Linux 用アンインストールパッケージ

次の表は、Java ES のアンインストールパッケージを示しています。

表 5-31 Linux 用アンインストールパッケージ

コンポーネント	パッケージ
アンインストーラ	sun-entsys4
アンインストーラ (ローカライズされたパッケージ)	sun-entsys4-l10n

コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ

この節では、Java ES の各コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージを示します。

Access Manager の Linux パッケージ

表 5-32 Linux 用 Access Manager パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Access Manager	sun-identity-external sun-identity-utils sun-identity-clientsdk
管理コンソール	sun-identity-console sun-identity-console-sdk sun-identity-password sun-identity-sci
Mobile Access	sun-identity-mobileaccess sun-identity-mobileaccess-config
アイデンティティ管理とポリシー サービスコア	sun-identity-services sun-identity-services-config
連携管理の共有ドメインサービス	sun-identity-federation
Access Manager SDK	sun-identity-samples sun-identity-sdk sun-identity-sdk-config
セッションフェイルオーバー	sun-identity-sfodb

管理サーバーの Linux パッケージ

表 5-33 Linux 用管理サーバーパッケージ

コンポーネント	パッケージ
管理サーバー	sun-admin-server sun-server-console sun-admin-server-man

Application Server の Linux パッケージ

表 5-34 Linux 用 Application Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Application Server、Enterprise Edition	sun-asJdbcDrivers sun-asacee sun-ascml sun-ascmn sun-ascmnse sun-asdem sun-asdemdb sun-ashdm sun-asjdoc sun-asman sun-asmanee sun-asu sun-asuee sun-asut sun-aswbcr
Administration Client	sun-asac
Point Base サーバー	sun-asdb
Load Balancing Plugin	sun-aslb

Calendar Server の Linux パッケージ

表 5-35 Linux 用 Calendar Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Calendar Server	sun-calendar-api sun-calendar-core

Communications Express の Linux パッケージ

表 5-36 Linux 用 Communications Express パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Communications Express	sun-uwc

Delegated Administrator の Linux パッケージ

表 5-37 Linux 用 Delegated Administrator パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Communications Services Delegated Administrator	sun-commcli-client sun-commcli-server

Directory Server の Linux パッケージ

表 5-38 Linux 用 Directory Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Directory Server	sun-directory-server sun-directory-server-man

Directory Proxy Server の Linux パッケージ

表 5-39 Linux 用 Directory Proxy Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Directory Proxy Server	sun-directory-proxy-server

HADB の Linux パッケージ

表 5-40 Linux 用 HADB パッケージ

コンポーネント	パッケージ
HADB	sun-hadb-a sun-hadb-c sun-hadb-e sun-hadb-i sun-hadb-j sun-hadb-m sun-hadb-s sun-hadb-v sun-hadb-x

Instant Messaging の Linux パッケージ

表 5-41 Linux 用 Instant Messaging の Linux パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Instant Messaging サーバーコア	sun-im-apidoc sun-im-install sun-im-mux sun-im-server
Instant Messaging リソース	sun-im-client sun-im-olh
Access Manager Instant Messaging Service	sun-im-ident

Message Queue の Linux パッケージ

表 5-42 Linux 用 Message Queue パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Message Queue Enterprise Edition	sun-mq sun-mq-config sun-mq-var sun-mq-ent sun-mq-jaxm sun-mq-jmsclient sun-mq-xmlclient sun-mq-compatible sun-mq-capi

Messaging Server の Linux パッケージ

表 5-43 Linux 用 Messaging Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Messaging Server	sun-messaging-server

Portal Server の Linux パッケージ

表 5-44 Linux 用 Portal Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Portal Server	sun-portal-addressbookapi sun-portal-addressbookapi-config sun-portal-calendarapi sun-portal-calendarapi-config sun-portal-configurator sun-portal-container sun-portal-core sun-portal-core-config sun-portal-desktop sun-portal-desktopadmin- sun-portal-desktop-config sun-portal-desktopdatamgmt sun-portal-desktopextension sun-portal-desktopextension-config sun-portal-desktoppapi sun-portal-desktoppapi-config sun-portal-desktopserviceconfig sun-portal-desktopserviceconfig-config sun-portal-discussions sun-portal-discussions-config sun-portal-instantmessaging sun-portal-instantmessaging-config sun-portal-jsptaglib sun-portal-jsptaglib-config sun-portal-l10n-configurator sun-portal-mail sun-portal-mail-config sun-portal-mobileaccess sun-portal-mobileaccess-config sun-portal-mobileaccess-doc sun-portal-mobileaccess-identity sun-portal-mobileaccessstatic sun-portal-mobileaccessstatic-config
	sun-portal-netmail sun-portal-onlinehelp sun-portal-onlinehelp-identity sun-portal-portlet sun-portal-portlet-config sun-portal-portletsample sun-portal-portletsample-config

表 5-44 Linux 用 Portal Server パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
	sun-portal-portlettck
	sun-portal-portlettck-config
	sun-portal-rewriter
	sun-portal-rewriteradmin
	sun-portal-sample
	sun-portal-sample-config
	sun-portal-sdk
	sun-portal-searchadmin
	sun-portal-searchserver
	sun-portal-searchui
	sun-portal-searchui-config
	sun-portal-ssoadapter
	sun-portal-ssoadapteradmin
	sun-portal-subscriptions
	sun-portal-subscriptions-config
	sun-portal-wsrpcommon
	sun-portal-wsrpconsumer
	sun-portal-wsrpconsumerconfig
	sun-portal-wsrpconsumersample
	sun-portal-wsrpproducer
	sun-portal-wsrpproducersample
	sun-webnfs

Portal Server Secure Remote Access の Linux パッケージ

表 5-45 Linux 用 Portal Server SRA パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Portal Server Secure Remote Access コア	sun-portal-gatewayadmin sun-portal-gatewayidentityagent sun-portal-gatewayidentityagent-identity sun-portal-netfile sun-portal-kssl sun-portal-netlet sun-portal-netlet-config sun-portal-proxylet-config sun-portal-srasample
ゲートウェイ	sun-portal-gateway sun-portal-gateway-config sun-portal-gatewayadmin sun-portal-gatewayidentityagent sun-portal-gatewayidentityagent-identity
Netlet プロキシ	sun-portal-netletproxy sun-portal-netletproxy-config

表 5-45 Linux 用 Portal Server SRA パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
Rewriter プロキシ	sun-portal-rewriterproxy sun-portal-rewriterproxy-config sun-portal-configurator

Service Registry の Linux パッケージ

表 5-46 Linux 用 Service Registry パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Service Registry	sun-soarsdk sun-soarserver

Web Server の Linux パッケージ

表 5-47 Linux 用 Web Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Web Server	sun-webserver

Web Proxy Server の Linux パッケージ

表 5-48 Linux 用 Web Proxy Server パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Web Proxy Server	sun-proxyserver

共有コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ

次の表に、各共有コンポーネント用に配布される Linux パッケージの名前を示します。

表 5-49 Linux 用共有コンポーネントパッケージ

コンポーネント	パッケージ
Ant	sun-ant
Apache Derby データベース	sun-derby-core sun-derby-javadoc
ACL (Apache Common Logging)	sun-aclg
Berkeley DB	sun-berkeleydatabase-core sun-berkeleydatabase-java
Common Agent Container	sun-cacao sun-cacao-config sun-cacao-man
ICU (international Components for Unicode)	sun-icu
IMSDK (Instant Messaging SDK)	sun-im-dev
J2SE (Java 2 Standard Edition、JDK)	jdk
JAF (JavaBeans Activation Framework)	sun-jaf
JATO (Java Studio Enterprise Web Application Framework)	SUNWjato SUNWjatodmo SUNWjatodoc
JavaHelp Runtime	sun-javahelp
Java Mail Runtime	sun-javamail
JAXB (Java Architecture for XML Binding) Runtime	sun-jaxb
JAXP (Java API for XML Processing)	sun-jaxp
JAXR (Java API for XML Registries) Runtime	sun-jaxr
JAX-RPC (Java API for XML-based Remote Procedure Call) Runtime	sun-jaxrpc
JCAPI (Java Calendar API)	sun-jcapi
JDMK (Java Dynamic Management Kit) Runtime Library	sun-jdmk-runtime sun-jdmk-runtime-jmx

表 5-49 Linux 用共有コンポーネントパッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
JSS (Java Security Services)	sun-jss sun-jss-devel
KTSE (KTSerch Engine)	sun-ktsearch
LDAP C Language SDK	sun-ldapcsdk
LDAP Java SDK	sun-ljdk
MA コア (Mobile Access コア)	sun-identity-mobileaccess sun-identity-mobileaccess-config
NSPR (Netscape Portable Runtime)	sun-nspr sun-nspr-devel
NSS (Netscape Security Services)	sun-nss sun-nss-devel
SAAJ (SOAP With Attachments API for Java)	sun-saaaj
SASL (Simple Authentication Security Layer)	sun-sasl
Sun Java Monitoring Framework	sun-mfwk-agent sun-mfwk-cfg sun-mfwk-man
Sun Java Web コンソール	SUNWmcon SUNWmconr SUNWmcos SUNWmcosx SUNWmctag
WSCL (Web Services Common Library)	sun-wscl

コンポーネント用のローカライズされた Linux パッケージ

簡体字中国語の Linux パッケージ

表 5-50 簡体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Access Manager	sun-identity-sdk-zh_CN
管理サーバー	sun-admin-server-zh_CN sun-server-console-zh_CN
Application Server	sun-asacee-zh_CN sun-ascmnse-zh_CN sun-asu-zh_CN sun-asuee-zh_CN
Calendar Server	sun-calendar-core-zh_CN
Communications Express	sun-uwc-zh_CN
Directory Server	sun-directory-server-zh_CN
Directory Proxy Server	sun-directory-proxy-server-zh_CN
Instant Messaging	sun-im-client-zh_CN sun-im-ident-zh_CN sun-im-install-zh_CN sun-im-olh-zh_CN
Message Queue	sun-mq-zh_CN
Messaging Server	sun-messaging-l10n-zh_CN

表 5-50 簡体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
Portal Server	sun-portal-addressbookapi-zh_CN
Portal Server Secure	sun-portal-addressbookapi-zh_CN-config
Remote Access	sun-portal-calendarapi-zh_CN-
	sun-portal-calendarapi-zh_CN-config
	sun-portal-data-migration-zh_CN
	sun-portal-desktopadmin-zh_CN
	sun-portal-desktopdatamgmt-zh_CN
	sun-portal-desktopextension-zh_CN
	sun-portal-desktopextension-zh_CN-config
	sun-portal-desktop-zh_CN
	sun-portal-desktop-zh_CN-config

表 5-50 簡体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
	sun-portal-discussions-zh_CN
	sun-portal-discussions-zh_CN-config
	sun-portal-gatewayadmin-zh_CN
	sun-portal-gatewaycommon-zh_CN
	sun-portal-gatewayidentityagent-zh_CN
	sun-portal-gatewayidentityagent-zh_CN-identity
	sun-portal-gateway-zh_CN
	sun-portal-instantmessaging-zh_CN
	sun-portal-instantmessaging-zh_CN-config
	sun-portal-mail-zh_CN
	sun-portal-mail-zh_CN-config
	sun-portal-mobileaccess-identity-zh_CN
	sun-portal-mobileaccessstatic-zh_CN
	sun-portal-mobileaccessstatic-zh_CN-config
	sun-portal-mobileaccess-zh_CN
	sun-portal-netfile-zh_CN
	sun-portal-netletproxy-zh_CN
	sun-portal-netlet-zh_CN
	sun-portal-netlet-zh_CN-config
	sun-portal-netmail-zh_CN
	sun-portal-onlinehelp-zh_CN
	sun-portal-onlinehelp-zh_CN-identity
	sun-portal-portletsample-zh_CN
	sun-portal-portlet-zh_CN
	sun-portal-proxylet-zh_CN
	sun-portal-rewriteradmin-zh_CN
	sun-portal-rewriterproxy-zh_CN
	sun-portal-rewriter-zh_CN
	sun-portal-sample-zh_CN
	sun-portal-sample-zh_CN-config
	sun-portal-searchadmin-zh_CN
	sun-portal-searchserver-zh_CN
	sun-portal-searchui-zh_CN
	sun-portal-srasample-zh_CN
	sun-portal-ssoadapteradmin-zh_CN
	sun-portal-ssoadapter-zh_CN
	sun-portal-subscriptions-zh_CN
	sun-portal-subscriptions-zh_CN
	sun-portal-wsrpconsumersample-zh_CN
	sun-portal-wsrpconsumer-zh_CN
	sun-portal-wsrpproducer-zh_CN
Service Registry	sun-soar-sdk-zh_CN
	sun-soar-server-zh
Web Server	sun-webserver-zh_CN
Web Proxy Server	sun-proxyserver-zh_CN

繁体字中国語の Linux パッケージ

表 5-51 繁体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Access Manager	sun-identity-sdk-zh_TW
管理サーバー	sun-admin-server-zh_TW sun-server-console-zh_TW
Application Server	sun-asacee-zh_TW sun-ascmse-zh_TW sun-asu-zh_TW sun-asuee-zh_TW
Calendar Server	sun-calendar-core-zh_TW
Communications Express	sun-uwc-zh_TW
Directory Server	sun-directory-server-zh_TW
Directory Proxy Server	sun-directory-proxy-server-zh_TW
Instant Messaging	sun-im-client-zh_TW- sun-im-ident-zh_TW sun-im-install-zh_TW sun-im-olh-zh_TW
Message Queue	sun-mq-zh_TW
Messaging Server	sun-messaging-l10n-zh_TW
Portal Server Portal Server Secure Remote Access	sun-portal-addressbookapi-zh_TW sun-portal-addressbookapi-zh_TW-config sun-portal-calendarapi-zh_TW sun-portal-calendarapi-zh_TW-config sun-portal-data-migration-zh_TW sun-portal-desktopadmin-zh_TW sun-portal-desktopdatamgmt-zh_TW sun-portal-desktopextension-zh_TW sun-portal-desktopextension-zh_TW-config sun-portal-desktop-zh_TW sun-portal-desktop-zh_TW-config sun-portal-discussions-zh_TW sun-portal-discussions-zh_TW-config sun-portal-gatewayadmin-zh_TW sun-portal-gatewaycommon-zh_TW

表 5-51 繁体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
	sun-portal-gatewayidentityagent-zh_TW-identity
	sun-portal-gateway-zh_TW
	sun-portal-instantmessaging-zh_TW-config
	sun-portal-mail-zh_TW
	sun-portal-mail-zh_TW-config
	sun-portal-mobileaccess-identity-zh_TW
	sun-portal-mobileaccessstatic-zh_TW-config
	sun-portal-mobileaccess-zh_TW
	sun-portal-netfile-zh_TW
	sun-portal-netletproxy-zh_TW
	sun-portal-netlet-zh_TW
	sun-portal-netlet-zh_TW-config
	sun-portal-netmail-zh_TW
	sun-portal-onlinehelp-zh_TW
	sun-portal-onlinehelp-zh_TW
	sun-portal-portletsample-zh_TW
	sun-portal-portlet-zh_TW
	sun-portal-proxylet-zh_TW
	sun-portal-rewriteradmin-zh_TW
	sun-portal-rewriterproxy-zh_TW
	sun-portal-rewriter-zh_TW
	sun-portal-sample-zh_TW
	sun-portal-sample-zh_TW-config
	sun-portal-searchadmin-zh_TW
	sun-portal-searchserver-zh_TW
	sun-portal-searchui-zh_TW
	sun-portal-srasample-zh_TW
	sun-portal-ssoadapteradmin-zh_TW
	sun-portal-ssoadapter-zh_TW
	sun-portal-subscriptions-zh_TW
	sun-portal-subscriptions-zh_TW
	sun-portal-wsrpconsumersample-zh_TW
	sun-portal-wsrpconsumer-zh_TW
	sun-portal-wsrpproducer-zh_TW
Service Registry	sun-soar-sdk-zh_TW
	sun-soar-server-zh_TW
Web Server	sun-webserver-zh_TW
Web Proxy Server	sun-proxyserver-zh_TW

フランス語の Linux パッケージ

表 5-52 フランス語にローカライズされた Linux パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Access Manager	sun-identity-sdk-fr
管理サーバー	sun-admin-server-fr sun-server-console-fr
Application Server	sun-asacee-fr sun-ascmse-fr sun-asu-fr sun-asuee-fr
Calendar Server	sun-calendar-core-fr
Communications Express	sun-uwc-fr
Directory Server	sun-directory-server-fr
Directory Proxy Server	sun-directory-proxy-server-fr
Instant Messaging	sun-im-client-fr sun-im-ident-fr sun-im-install-fr sun-im-olh-fr
Message Queue	sun-mq-fr
Messaging Server	sun-messaging-110n-fr
Portal Server Portal Server Secure Remote Access	sun-portal-addressbookapi-fr sun-portal-addressbookapi-fr-config sun-portal-calendarapi-fr sun-portal-calendarapi-fr-config sun-portal-data-migration-fr sun-portal-desktopadmin-fr sun-portal-desktopdatamgmt-fr sun-portal-desktopextension-fr sun-portal-desktopextension-fr-config sun-portal-desktop-fr sun-portal-desktop-fr-config sun-portal-discussions-fr sun-portal-discussions-fr-config sun-portal-gatewayadmin-fr sun-portal-gatewaycommon-fr sun-portal-gateway-fr

表 5-52 フランス語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
	sun-portal-gatewayidentityagent-fr sun-portal-gatewayidentityagent-fr-identity sun-portal-instantmessaging-fr sun-portal-instantmessaging-fr-config sun-portal-mail-fr sun-portal-mail-fr-config sun-portal-mobileaccess-fr sun-portal-mobileaccess-identity-fr sun-portal-mobileaccessstatic-fr sun-portal-mobileaccessstatic-fr-config sun-portal-netfile-fr sun-portal-netlet-fr sun-portal-netlet-fr-config sun-portal-netletproxy-fr sun-portal-netmail-fr sun-portal-onlinehelp-fr sun-portal-onlinehelp-fr-identity sun-portal-portlet-fr sun-portal-portletsample-fr sun-portal-proxylet-fr sun-portal-rewriteradmin-fr sun-portal-rewriter-fr sun-portal-rewriterproxy-fr sun-portal-sample-fr sun-portal-sample-fr-config sun-portal-searchadmin-fr sun-portal-searchserver-fr sun-portal-searchui-fr sun-portal-srasample-fr sun-portal-ssoadapteradmin-fr sun-portal-ssoadapter-fr sun-portal-subscriptions-fr sun-portal-subscriptions-fr-config sun-portal-wsrpconsumer-fr sun-portal-wsrpconsumersample-fr sun-portal-wsrpproducer-fr
Service Registry	sun-soar-sdk-fr sun-soar-server-fr
Web Server	sun-webserver-fr
Web Proxy Server	sun-proxyserver-fr

ドイツ語の Linux パッケージ

表 5-53 ドイツ語にローカライズされた Linux パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Access Manager	sun-identity-sdk-de
管理サーバー	sun-admin-server-de sun-server-console-de
Application Server	sun-asacee-de sun-ascmse-de sun-asu-de sun-asuee-de
Calendar Server	sun-calendar-core-de
Communications Express	sun-uwc-de
Directory Server	sun-directory-server-de
Directory Proxy Server	sun-directory-proxy-server-de
Instant Messaging	sun-im-client-de sun-im-ident-de sun-im-install-de sun-im-olh-de
Message Queue	sun-mq-de
Messaging Server	sun-messaging-l10n-de
Portal Server Portal Server Secure Remote Access	sun-portal-addressbookapi-de sun-portal-addressbookapi-de-config sun-portal-calendarapi-de sun-portal-calendarapi-de-config sun-portal-data-migration-de sun-portal-desktopadmin-de sun-portal-desktopdatamgmt-de sun-portal-desktop-de sun-portal-desktop-de-config sun-portal-desktopextension-de sun-portal-desktopextension-de-config sun-portal-discussions-de sun-portal-discussions-de-config sun-portal-gatewayadmin-de sun-portal-gatewaycommon-de sun-portal-gateway-de

表 5-53 ドイツ語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
	sun-portal-gatewayidentityagent-de
	sun-portal-gatewayidentityagent-de-identity
	sun-portal-instantmessaging-de
	sun-portal-instantmessaging-de-config
	sun-portal-mail-de
	sun-portal-mail-de-config
	sun-portal-mobileaccess-de
	sun-portal-mobileaccess-identity
	sun-portal-mobileaccessstatic-de
	sun-portal-mobileaccessstatic-de-config
	sun-portal-netfile-de
	sun-portal-netlet-de
	sun-portal-netlet-de-config
	sun-portal-netletproxy-de
	sun-portal-netmail-de
	sun-portal-onlinehelp-de
	sun-portal-onlinehelp-de-identity
	sun-portal-portlet-de
	sun-portal-portletsample-de
	sun-portal-proxylet-de
	sun-portal-rewriteradmin-de
	sun-portal-rewriter-de
	sun-portal-rewriterproxy-de
	sun-portal-sample-de
	sun-portal-sample-de-config
	sun-portal-searchadmin-de
	sun-portal-searchserver-de
	sun-portal-searchui-de
	sun-portal-srasample-de
	sun-portal-ssoadapteradmin-de
	sun-portal-ssoadapter-de
	sun-portal-subscriptions-de
	sun-portal-subscriptions-de-config
	sun-portal-wsrpconsumer-de
	sun-portal-wsrpconsumersample-de
	sun-portal-wsrpproducer-de
Service Registry	sun-soar-sdk-de
	sun-soar-server-de
Web Server	sun-webserver-de
Web Proxy Server	sun-proxyserver-de

日本語の Linux パッケージ

表 5-54 日本語にローカライズされた Linux パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Access Manager	sun-identity-sdk-ja
管理サーバー	sun-admin-server-ja sun-server-console-ja
Application Server	sun-asacee-ja sun-ascmse-ja sun-asu-ja sun-asuee-ja
Calendar Server	sun-calendar-core-ja
Communications Express	sun-uwc-ja
Directory Server	sun-directory-server-ja
Directory Proxy Server	sun-directory-proxy-server-ja
Instant Messaging	sun-im-client-ja sun-im-ident-ja sun-im-install-ja sun-im-olh-ja
Message Queue	sun-mq-ja
Messaging Server	sun-messaging-110n-ja
Portal Server Portal Server Secure Remote Access	sun-portal-addressbookapi-ja sun-portal-addressbookapi-ja-config sun-portal-calendarapi-ja sun-portal-calendarapi-ja-config sun-portal-data-migration-ja sun-portal-desktopadmin-ja sun-portal-desktopdatamgmt-ja sun-portal-desktopextension-ja sun-portal-desktopextension-ja-config sun-portal-desktop-ja sun-portal-desktop-ja-config sun-portal-discussions-ja sun-portal-discussions-ja-config sun-portal-gatewayadmin-ja sun-portal-gatewaycommon-ja sun-portal-gatewayidentityagent-ja

表 5-54 日本語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
	sun-portal-gatewayidentityagent-ja-identity
	sun-portal-gateway-ja
	sun-portal-instantmessaging-ja
	sun-portal-instantmessaging-ja-config
	sun-portal-mail-ja
	sun-portal-mail-ja-config-
	sun-portal-mobileaccess-identity-ja
	sun-portal-mobileaccess-ja
	sun-portal-mobileaccessstatic-ja
	sun-portal-mobileaccessstatic-ja-config
	sun-portal-netfile-ja
	sun-portal-netlet-ja
	sun-portal-netlet-ja-config
	sun-portal-netletproxy-ja
	sun-portal-netmail-ja
	sun-portal-onlinehelp-ja
	sun-portal-onlinehelp-ja-identity
	sun-portal-portlet-ja
	sun-portal-portletsample-ja
	sun-portal-proxylet-ja
	sun-portal-rewriteradmin-ja
	sun-portal-rewriter-ja
	sun-portal-rewriterproxy-ja
	sun-portal-sample-ja
	sun-portal-sample-ja-config
	sun-portal-searchadmin-ja
	sun-portal-searchserver-ja
	sun-portal-searchui-ja
	sun-portal-srasample-ja
	sun-portal-ssoadapteradmin-ja
	sun-portal-ssoadapter-ja
	sun-portal-subscriptions-ja
	sun-portal-subscriptions-ja-config
	sun-portal-wsrpconsumer-ja
	sun-portal-wsrpconsumersample-ja
	sun-portal-wsrpproducer-ja
Service Registry	sun-soar-sdk-ja sun-soar-server-ja
Web Server	sun-webserver-ja
Web Proxy Server	sun-proxyserver-ja

韓国語の Linux パッケージ

表 5-55 韓国語にローカライズされた Linux パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Access Manager	sun-identity-sdk-ko
管理サーバー	sun-admin-server-ko sun-server-console-ko
Application Server	sun-asacee-ko sun-ascmnse-ko sun-asu-ko sun-asuee-ko
Calendar Server	sun-calendar-core-ko
Communications Express	sun-uwc-ko
Directory Server	sun-directory-server-ko
Directory Proxy Server	sun-directory-proxy-server-ko
Instant Messaging	sun-im-client-ko sun-im-ident-ko sun-im-install-ko sun-im-olh-ko
Message Queue	sun-mq-ko
Messaging Server	sun-messaging-l10n-ko
Portal Server Portal Server Secure Remote Access	sun-portal-addressbookapi-ko sun-portal-addressbookapi-ko-config sun-portal-calendarapi-ko sun-portal-calendarapi-ko sun-portal-data-migration-ko sun-portal-desktopadmin-ko sun-portal-desktopdatamgmt-ko sun-portal-desktopextension-ko sun-portal-desktopextension-ko-config sun-portal-desktop-ko sun-portal-desktop-ko-config sun-portal-discussions-ko sun-portal-discussions-ko-config sun-portal-gatewayadmin-ko sun-portal-gatewaycommon-ko sun-portal-gatewayidentityagent-ko

表 5-55 韓国語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
	sun-portal-gatewayidentityagent-ko-identity
	sun-portal-gateway-ko
	sun-portal-instantmessaging-ko
	sun-portal-instantmessaging-ko-config
	sun-portal-mail-ko
	sun-portal-mail-ko-config
	sun-portal-mobileaccess-identity-ko
	sun-portal-mobileaccess-ko
	sun-portal-mobileaccessstatic-ko
	sun-portal-mobileaccessstatic-ko-config
	sun-portal-netfile-ko
	sun-portal-netlet-ko
	sun-portal-netlet-ko-config
	sun-portal-netletproxy-ko
	sun-portal-netmail-ko
	sun-portal-onlinehelp-ko
	sun-portal-onlinehelp-ko-identity
	sun-portal-portlet-ko
	sun-portal-portletsample-ko
	sun-portal-proxylet-ko
	sun-portal-rewriteradmin-ko
	sun-portal-rewriter-ko
	sun-portal-rewriterproxy-ko
	sun-portal-sample-ko
	sun-portal-sample-ko-config
	sun-portal-searchadmin-ko
	sun-portal-searchserver-ko
	sun-portal-searchui-ko
	sun-portal-srasample-ko
	sun-portal-ssoadapteradmin-ko
	sun-portal-ssoadapter-ko
	sun-portal-subscriptions-ko
	sun-portal-subscriptions-ko-config
	sun-portal-wsrpconsumer-ko
	sun-portal-wsrpconsumersample-ko
	sun-portal-wsrpproducer-ko
Service Registry	sun-soar-sdk-ko
	sun-soar-server-ko
Web Server	sun-webserver-ko
Web Proxy Server	sun-proxyserver-ko

スペイン語の Linux パッケージ

表 5-56 スペイン語にローカライズされた Linux パッケージ

コンポーネント	パッケージ
Access Manager	sun-identity-sdk-es
管理サーバー	sun-admin-server-es sun-server-console-es
Application Server	sun-asacee-es sun-ascmnse-es sun-asu-es sun-asuee-es
Calendar Server	sun-calendar-core-es
Communications Express	sun-uwc-es
Directory Server	sun-directory-server-es
Directory Proxy Server	sun-directory-proxy-server-es
Instant Messaging	sun-im-client-es sun-im-ident-es sun-im-install-es sun-im-olh-es
Message Queue	sun-mq-es
Messaging Server	sun-messaging-110n-es
Portal Server Secure Remote Access	sun-portal-addressbookapi-es sun-portal-addressbookapi-es-config sun-portal-calendarapi-es sun-portal-calendarapi-es-config sun-portal-data-migration-es sun-portal-desktopadmin-es sun-portal-desktopdatamgmt-es sun-portal-desktop-es sun-portal-desktop-es-config sun-portal-desktopextension-es sun-portal-desktopextension-es-config sun-portal-discussions-es sun-portal-discussions-es-config sun-portal-gatewayadmin-es sun-portal-gatewaycommon-es sun-portal-gateway-es

表 5-56 スペイン語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
	sun-portal-gatewayidentityagent-es
	sun-portal-gatewayidentityagent-es-identity
	sun-portal-instantmessaging-es
	sun-portal-instantmessaging-es-config
	sun-portal-mail-es
	sun-portal-mail-es-config
	sun-portal-mobileaccess-es
	sun-portal-mobileaccess-identity-es
	sun-portal-mobileaccessstatic-es
	sun-portal-mobileaccessstatic-es-config
	sun-portal-netfile-es
	sun-portal-netlet-es
	sun-portal-netlet-es-config
	sun-portal-netletproxy-es
	sun-portal-netmail-es
	sun-portal-onlinehelp-es
	sun-portal-onlinehelp-es-identity
	sun-portal-portlet-es
	sun-portal-portletsample-es
	sun-portal-proxylet-es
	sun-portal-rewriteradmin-es
	sun-portal-rewriter-es
	sun-portal-rewriterproxy-es
	sun-portal-sample-es
	sun-portal-sample-es-config
	sun-portal-searchadmin-es
	sun-portal-searchserver-es
	sun-portal-searchui-es
	sun-portal-srasample-es
	sun-portal-ssoadapteradmin-es
	sun-portal-ssoadapter-es
	sun-portal-subscriptions-es
	sun-portal-subscriptions-es-config
	sun-portal-wsrpconsumer-es
	sun-portal-wsrpconsumersample-es
	sun-portal-wsrpproducer-es
Service Registry	sun-soar-sdk-es sun-soar-server-es
Web Server	sun-webserver-es
Web Proxy Server	sun-proxyserver-es

索引

A

Access Manager

- インストールタイプ, 26
- インストールのタイプ, 32, 34
- 設定情報, 23
- パッケージ, 138, 160
- ローカライズされたパッケージ, 148
- ワークシート, 89-97

Access Manager SDK

- 設定情報, 39, 40

ACL パッケージ, 146

ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 47

ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_USER 状態ファイルパラメータ, 46

ADMINSERV_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 46

ADMINSERV_PORT 状態ファイルパラメータ, 45

ADMINSERV_ROOT 状態ファイルパラメータ, 45, 57

AM_ENC_PWD 状態ファイルパラメータ, 26, 41

Ant パッケージ, 146, 167

Apache (ACL) パッケージ, 146

Apache Derby データベースパッケージ, 146, 167

Apache ログパッケージ, 167

Application Server

- 設定情報, 47-50
- ノードエージェントのパラメータ, 48-49
- パッケージ, 139, 161
- ローカライズされたパッケージ, 148
- ワークシート, 98-100

Application Server のドメイン管理, 47-50

Application Server のノードエージェント, 48-49

AS_ADMIN_PORT 状態ファイルパラメータ, 48

AS_ADMIN_USER_NAME 状態ファイルパラメータ, 48

AS_HTTP_PORT 状態ファイルパラメータ, 48

AS_JMX_PORT 状態ファイルパラメータ, 48

AS_MASTER_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 48

AS_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 48

AS_WEB_SERVER_LOCATION 状態ファイルパラメータ, 50

AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE 状態ファイルパラメータ, 49

ASNA_ADMIN_HOST_NAME 状態ファイルパラメータ, 49

ASNA_ADMIN_PORT 状態ファイルパラメータ, 49

ASNA_ADMIN_USER_NAME 状態ファイルパラメータ, 49

ASNA_MASTER_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 49

ASNA_NODE_AGENT_NAME 状態ファイルパラメータ, 49

ASNA_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 49

B

Berkeley DB パッケージ, 146, 167

C

Calendar Server, ローカライズされたパッケージ, 148

CCCP_UPGRADE_EXTERNAL_INCOMPATIBLE_JDK 状態ファイルパラメータ, 85

CDS_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 31, 36

CMN_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 23

CMN_ADMIN_USER 状態ファイルパラメータ, 23

CMN_AS_DOMAINSDIR 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_AS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_CS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_DOMAIN_NAME 状態ファイルパラメータ, 23

CMN_DPS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_DS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_DS_SERVER_ROOT 状態ファイルパラメータ, 51

CMN_HOST_NAME 状態ファイルパラメータ, 23

CMN_IIM_DOCSDIR 状態ファイルパラメータ, 123

CMN_IIM_DOCSHELPDIR 状態ファイルパラメータ, 123

CMN_IIM_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_IPADDRESS 状態ファイルパラメータ, 23

CMN_IS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_MS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 123

CMN_PS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 123

CMN_REG_SERVER_ROOT 状態ファイルパラメータ, 123

CMN_SRA_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 123

CMN_SYSTEM_GROUP 状態ファイルパラメータ, 23

CMN_SYSTEM_USER 状態ファイルパラメータ, 23

CMN_UWC_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_WS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 124

Common Agent Container, 125

Common Agent Container パッケージ, 146, 167

CONFIG_DIR_ADM_PASSWD 状態ファイルパラメータ, 53

CONFIG_DIR_ADM_USER 状態ファイルパラメータ, 53

CONFIG_DIR_HOST 状態ファイルパラメータ, 53

CONFIG_DIR_PORT 状態ファイルパラメータ, 53

CONFIG_TYPE 状態ファイルパラメータ, 85

CONSOLE_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 32, 34

CONSOLE_HOST 状態ファイルパラメータ, 32, 34

CONSOLE_PORT 状態ファイルパラメータ, 33, 35

COOKIE_DOMAIN_LIST 状態ファイルパラメータ, 31, 36, 45

D

DeploymentServer 状態ファイルパラメータ, 85

Directory Proxy Server
設定情報, 56
ローカライズされたパッケージ, 148
ワークシート, 103-104

Directory Server
設定情報, 50-56
パッケージ, 140, 162
ローカライズされたパッケージ, 148
ワークシート, 100-103

DPS_PORT 状態ファイルパラメータ, 56

DPS_SERVERROOT 状態ファイルパラメータ, 57

DS_ADD_SAMPLE_ENTRIES 状態ファイルパラメータ, 55

DS_ADM_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 52

DS_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 51

DS_ADMIN_USER 状態ファイルパラメータ, 50

DS_DIR_MGR_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 51
DS_DIR_MGR_USER 状態ファイルパラメータ, 51
DS_DISABLE_SCHEMA_CHECKING 状態ファイルパラメータ, 56
DS_POPULATE_DATABASE_FILE_NAME 状態ファイルパラメータ, 55
DS_POPULATE_DATABASE 状態ファイルパラメータ, 55
DS_SERVER_IDENTIFIER 状態ファイルパラメータ, 51
DS_SERVER_PORT 状態ファイルパラメータ, 51
DS_SUFFIX 状態ファイルパラメータ, 52
DS_SYSTEM_GROUP 状態ファイルパラメータ, 52
DS_SYSTEM_USER 状態ファイルパラメータ, 52

H

HADB
設定情報, 57
パッケージ, 141, 162
ワークシート, 104
HADB_ALLOW_GROUPMANAGE 状態ファイルパラメータ, 57
HADB_AUTO_START 状態ファイルパラメータ, 57
HADB_DEFAULT_ADMINPORT 状態ファイルパラメータ, 57
HADB_DEFAULT_GROUP 状態ファイルパラメータ, 57
HADB_DEFAULT_RESDIR 状態ファイルパラメータ, 57
HTTPS ポート, 48

I

IAS81_ADMINPORT 状態ファイルパラメータ, 30
ICU パッケージ, 146, 167
IMSDK パッケージ, 146, 167
Instant Messaging
パッケージ, 141, 163

Instant Messaging (続き)

ローカライズされたパッケージ, 148
IS_ADMIN_USER_ID 状態ファイルパラメータ, 25, 40
IS_ADMINPASSWD 状態ファイルパラメータ, 25, 40
IS_APPSERVERBASEDIR 状態ファイルパラメータ, 29
IS_DIRMGRPASSWD 状態ファイルパラメータ, 37, 42
IS_DS_HOSTNAME 状態ファイルパラメータ, 37, 41
IS_DS_PORT 状態ファイルパラメータ, 37, 41
IS_IAS7INSTANCE_PORT 状態ファイルパラメータ, 33
IS_IAS7INSTANCE 状態ファイルパラメータ, 29
IS_IAS81_ADMINPASSWD 状態ファイルパラメータ, 29
IS_IAS81_ADMINPORT 状態ファイルパラメータ, 30
IS_IAS81_ADMIN 状態ファイルパラメータ, 29
IS_IAS81INSTANCE_PORT 状態ファイルパラメータ, 29, 30
IS_IAS81INSTANCEDIR 状態ファイルパラメータ, 29
IS_LDAP_USER 状態ファイルパラメータ, 25, 40
IS_LDAPUSERPASSWD 状態ファイルパラメータ, 25, 41
IS_LOAD_DIT 状態ファイルパラメータ, 38, 43
IS_ORG_NAMING_ATTR 状態ファイルパラメータ, 39, 43
IS_ORG_OBJECT_CLASS 状態ファイルパラメータ, 38, 43
IS_ROOT_SUFFIX 状態ファイルパラメータ, 37, 42
IS_SERVER_HOST 状態ファイルパラメータ, 31, 35
IS_SUNAPPSERVER_DOCS_DIR 状態ファイルパラメータ, 29
IS_USER_NAMING_ATTR 状態ファイルパラメータ, 39, 44
IS_USER_OBJECT_CLASS 状態ファイルパラメータ, 39, 44
IS_WS_HOST_NAME 状態ファイルパラメータ, 27

IS_WS_INSTANCE_DIR 状態ファイルパラメータ, 28
IS_WS_INSTANCE_PORT 状態ファイルパラメータ, 27, 33

J

J2SE パッケージ, 146, 167
JAF パッケージ, 146, 167
JATO パッケージ, 146, 167
Java ES, パッケージ, 137
JavaHelp パッケージ, 146, 167
Java Mail パッケージ, 146, 167
JAX-RPC パッケージ, 146, 167
JAXB パッケージ, 167
JAXP パッケージ, 146, 167
JAXR パッケージ, 146, 167
JCAPI パッケージ, 146, 167
JDKM パッケージ, 147, 167
JMX ポート, 48
JSS パッケージ, 147, 168

K

KTSE パッケージ, 147, 168

L

LDAP C SDK パッケージ, 147, 168
LDAP Java SDK パッケージ, 147, 168
LICENSE_TYPE 状態ファイルパラメータ, 86

M

MA コアパッケージ, 147, 168
Message Queue
 パッケージ, 141, 163
 ローカライズされたパッケージ, 148
Messaging Server
 パッケージ, 142, 163
 ローカライズされたパッケージ, 148
Monitoring Framework パッケージ, 147, 168

N

Netlet プロキシパッケージ, 143, 165
NSPR パッケージ, 147, 168
NSS パッケージ, 147, 168

P

PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 32, 34, 35
Point Base Server パッケージ, 139
Portal Server
 設定情報, 58
 パッケージ, 142, 164
 ローカライズされたパッケージ, 148
Portal Server Secure Remote Access
 設定情報, 65-81
 パッケージ, 143, 165
 ローカライズされたパッケージ, 148
PS_AUTO_DEPLOY 状態ファイルパラメータ, 65, 110
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 60, 62, 69
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT 状態ファイルパラメータ, 60
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL 状態ファイルパラメータ, 61
PS_DEPLOY_ADMIN 状態ファイルパラメータ, 60, 62
PS_DEPLOY_DIR 状態ファイルパラメータ, 58, 60, 61, 63
PS_DEPLOY_DOCROOT 状態ファイルパラメータ, 59, 60, 62, 63
PS_DEPLOY_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 60, 62
PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR 状態ファイルパラメータ, 60
PS_DEPLOY_INSTANCE 状態ファイルパラメータ, 59, 62, 63
PS_DEPLOY_NODE 状態ファイルパラメータ, 63
PS_DEPLOY_NOW 状態ファイルパラメータ, 62
PS_DEPLOY_PORT 状態ファイルパラメータ, 59, 60, 62, 63
PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR 状態ファイルパラメータ, 61
PS_DEPLOY_PROJECT_DIR 状態ファイルパラメータ, 61

PS_DEPLOY_PROTOCOL 状態ファイルパラメータ, 59, 61, 62, 64
PS_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 65
PS_DEPLOY_VIRTUAL_HOST 状態ファイルパラメータ, 63
PSDEPLOYTYPE 状態ファイルパラメータ, 85
PSP_EXIT_ON_DEPENDENCY_WARNING 状態ファイルパラメータ, 86
PSP_LOG_CURRENTLY_INSTALLED 状態ファイルパラメータ, 86
PSP_SELECTED_COMPONENTS 状態ファイルパラメータ, 87

R

REMOVE_BUNDLED_PRODUCTS 状態ファイルパラメータ, 87
Rewriter プロキシパッケージ, 143, 166

S

SAAJ パッケージ, 147, 168
SASL パッケージ, 147, 168
SERVER_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 31, 35, 44
SERVER_HOST 状態ファイルパラメータ, 31, 35
Service Registry
パッケージ, 143-144, 166
SRA_CERT_CITY 状態ファイルパラメータ, 72, 77, 81
SRA_CERT_COUNTRY 状態ファイルパラメータ, 72, 77, 81
SRA_CERT_DIVISION 状態ファイルパラメータ, 72, 77, 81
SRA_CERT_ORGANIZATION 状態ファイルパラメータ, 72, 76, 81
SRA_CERT_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 72, 77, 81
SRA_CERT_STATE 状態ファイルパラメータ, 72, 77, 81
SRA_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 68, 69, 70, 73, 78
SRA_GATEWAY_PROFILE 状態ファイルパラメータ, 67
SRA_GW_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 71

SRA_GW_HOSTNAME 状態ファイルパラメータ, 71
SRA_GW_IPADDRESS 状態ファイルパラメータ, 71
SRA_GW_PORT 状態ファイルパラメータ, 71
SRA_GW_PROFILE 状態ファイルパラメータ, 71
SRA_GW_PROTOCOL 状態ファイルパラメータ, 71
SRA_GW_START 状態ファイルパラメータ, 72
SRA_GW_SUBDOMAIN 状態ファイルパラメータ, 71
SRA_IS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 70, 73
SRA_IS_ORG_DN 状態ファイルパラメータ, 75, 80
SRA_IS_PASSWORD_KEY 状態ファイルパラメータ, 76, 80
SRA_IS_SERVICE_URI 状態ファイルパラメータ, 76, 80
SRA_LOG_USER_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 67, 71, 78
SRA_NLP_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 74
SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE 状態ファイルパラメータ, 74
SRA_NLP_HOSTNAME 状態ファイルパラメータ, 74
SRA_NLP_IPADDRESS 状態ファイルパラメータ, 74
SRA_NLP_PORT 状態ファイルパラメータ, 74
SRA_NLP_START 状態ファイルパラメータ, 74
SRA_NLP_SUBDOMAIN 状態ファイルパラメータ, 74
SRA_RWP_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 78
SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE 状態ファイルパラメータ, 78
SRA_RWP_HOSTNAME 状態ファイルパラメータ, 78
SRA_RWP_IPADDRESS 状態ファイルパラメータ, 78
SRA_RWP_PORT 状態ファイルパラメータ, 78
SRA_RWP_START 状態ファイルパラメータ, 79
SRA_RWP_SUBDOMAIN 状態ファイルパラメータ, 78
SRA_SERVER_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 75, 80

SRA_SERVER_HOST 状態ファイルパラメータ, 75, 79
SRA_SERVER_PORT 状態ファイルパラメータ, 75, 80
SRA_SERVER_PROTOCOL 状態ファイルパラメータ, 75, 79
Sun Cluster
 パッケージ, 144
 ローカライズされたパッケージ, 148
Sun Cluster Agents, ローカライズされたパッケージ, 148
Sun Explorer Data Collector パッケージ, 147
Sun Java Monitoring Framework パッケージ, 147, 168
Sun Java Web コンソールパッケージ, 147, 168

U

uninstall コマンド
 パッケージ, 137, 159
USE_EXISTING_CONFIG_DIR 状態ファイルパラメータ, 53
USE_EXISTING_USER_DIR 状態ファイルパラメータ, 54
USER_DIR_ADM_PASSWD 状態ファイルパラメータ, 54, 68, 69
USER_DIR_ADM_USER 状態ファイルパラメータ, 54, 68, 69
USER_DIR_HOST 状態ファイルパラメータ, 54
USER_DIR_PORT 状態ファイルパラメータ, 54
USER_DIR_SUFFIX 状態ファイルパラメータ, 54

W

Web Proxy Server
 パッケージ, 145, 166
 ワークシート, 119
Web Server
 設定情報, 81
 パッケージ, 145, 166
 ローカライズされたパッケージ, 148
 ワークシート, 117-119
WPS_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 84

WPS_ADMIN_PORT 状態ファイルパラメータ, 84
WPS_ADMIN_RUNTIME_USER 状態ファイルパラメータ, 84
WPS_ADMIN_USER 状態ファイルパラメータ, 84
WPS_INSTANCE_AUTO_START 状態ファイルパラメータ, 84
WPS_INSTANCE_PORT 状態ファイルパラメータ, 84
WPS_PROXY_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 84
WS_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 82
WS_ADMIN_PORT 状態ファイルパラメータ, 82
WS_ADMIN_SYSTEM_USER 状態ファイルパラメータ, 82
WS_ADMIN_USER 状態ファイルパラメータ, 82
WS_INSTANCE_AUTO_START 状態ファイルパラメータ, 83
WS_INSTANCE_CONTENT_ROOT 状態ファイルパラメータ, 83
WS_INSTANCE_GROUP 状態ファイルパラメータ, 83
WS_INSTANCE_HOST 状態ファイルパラメータ, 82
WS_INSTANCE_PORT 状態ファイルパラメータ, 83
WS_INSTANCE_USER 状態ファイルパラメータ, 83
WSCL パッケージ, 147, 168

い

インストール
 ディレクトリ, 121
 配布内容, 129-132
 Linux, 134-136
 Solaris x86, 132-134

か

管理クライアントパッケージ, 139
管理サーバー
 設定情報, 45-47
 パッケージ, 139, 160

管理サーバー (続き)
ワークシート, 97

き

旧バージョンモード (Access Manager), 26
共通サーバー設定, 22
共有コンポーネント
パッケージ, 145, 166

け

ゲートウェイパッケージ, 143, 165
言語, ローカライズされたパッケージ, 148

し

状態ファイルのパラメータ, 85-87
ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_PASSWORD, 47
ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_USER, 46
ADMINSERV_DOMAIN, 46
ADMINSERV_PORT, 45
ADMINSERV_ROOT, 45, 57
AM_ENC_PWD, 26, 41
AS_ADMIN_PORT, 48
AS_ADMIN_USER_NAME, 48
AS_HTTP_PORT, 48
AS_JMX_PORT, 48
AS_MASTER_PASSWORD, 48
AS_PASSWORD, 48
AS_WEB_SERVER_LOCATION, 50
AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE, 49
ASNA_ADMIN_HOST_NAME, 49
ASNA_ADMIN_PORT, 49
ASNA_ADMIN_USER_NAME, 49
ASNA_MASTER_PASSWORD, 49
ASNA_NODE_AGENT_NAME, 49
ASNA_PASSWORD, 49
CDS_DEPLOY_URI, 31, 36
CMN_ADMIN_PASSWORD, 23
CMN_ADMIN_USER, 23
CMN_AS_DOMAINSDIR, 122
CMN_AS_INSTALLDIR, 122
CMN_CS_INSTALLDIR, 122
CMN_DOMAIN_NAME, 23

状態ファイルのパラメータ (続き)

CMN_DPS_INSTALLDIR, 122
CMN_DS_INSTALLDIR, 122
CMN_DS_SERVER_ROOT, 51
CMN_HOST_NAME, 23
CMN_IIM_DOCSDIR, 123
CMN_IIM_DOCSHELPPDIR, 123
CMN_IIM_INSTALLDIR, 122
CMN_IPADDRESS, 23
CMN_IS_INSTALLDIR, 122
CMN_MS_INSTALLDIR, 123
CMN_PS_INSTALLDIR, 123
CMN_SRA_INSTALLDIR, 123
CMN_SYSTEM_GROUP, 23
CMN_SYSTEM_USER, 23
CMN_UWC_INSTALLDIR, 122
CMN_WS_INSTALLDIR, 124
CONFIG_DIR_ADM_PASSWD, 53
CONFIG_DIR_ADM_USER, 53
CONFIG_DIR_HOST, 53
CONFIG_DIR_PORT, 53
CONSOLE_DEPLOY_URI, 32, 34
CONSOLE_HOST, 32, 34
CONSOLE_PORT, 33, 35
COOKIE_DOMAIN_LIST, 31, 36, 45
DPS_PORT, 56
DPS_SERVERROOT, 57
DS_ADD_SAMPLE_ENTRIES, 55
DS_ADM_DOMAIN, 52
DS_ADMIN_PASSWORD, 51
DS_ADMIN_USER, 50
DS_DIR_MGR_PASSWORD, 51
DS_DIR_MGR_USER, 51
DS_DISABLE_SCHEMA_CHECKING, 56
DS_POPULATE_DATABASE, 55
DS_POPULATE_DATABASE_FILE_NAME, 55
DS_SERVER_IDENTIFIER, 51
DS_SERVER_PORT, 51
DS_SUFFIX, 52
DS_SYSTEM_GROUP, 52
DS_SYSTEM_USER, 52
IS_ADMIN_USER_ID, 25, 40
IS_ADMINPASSWD, 25, 40
IS_APPSERVERBASEDIR, 29
IS_DIRMGRPASSWD, 37, 42
IS_DS_HOSTNAME, 37, 41
IS_DS_PORT, 37, 41
IS_IAS7_ADMIN, 29

状態ファイルのパラメータ (続き)

IS_IAS7_ADMINPASSWD, 29
IS_IAS7_ADMINPORT, 30
IS_IAS7INSTANCE, 29
IS_IAS7INSTANCE_PORT, 29, 30, 33
IS_IAS7INSTANCEDIR, 29
IS_LDAP_USER, 25, 40
IS_LDAPUSERPASSWD, 25, 41
IS_LOAD_DIT, 38, 43
IS_ORG_NAMING_ATTR, 39, 43
IS_ORG_OBJECT_CLASS, 38, 43
IS_ROOT_SUFFIX, 37, 42
IS_SERVER_HOST, 31, 35
IS_SUNAPPSERVER_DOCS_DIR, 29
IS_USER_NAMING_ATTR, 39, 44
IS_USER_OBJECT_CLASS, 39, 44
IS_WS_HOST_NAME, 27
IS_WS_INSTANCE_DIR, 28
IS_WS_INSTANCE_PORT, 27, 33
PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI, 32, 34, 35
PS_AUTO_DEPLOY, 65, 110
PS_DEPLOY_ADMIN, 60, 62
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD, 60, 62, 69
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT, 60
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL, 61
PS_DEPLOY_DIR, 58, 60, 61, 63
PS_DEPLOY_DOCROOT, 59, 60, 62, 63
PS_DEPLOY_DOMAIN, 60, 62
PS_DEPLOY_INSTANCE, 59, 62, 63
PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR, 60
PS_DEPLOY_NODE, 63
PS_DEPLOY_NOW, 62
PS_DEPLOY_PORT, 59, 60, 62, 63
PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR, 61
PS_DEPLOY_PROJECT_DIR, 61
PS_DEPLOY_PROTOCOL, 59, 61, 62, 64
PS_DEPLOY_URI, 65
PS_DEPLOY_VIRTUAL_HOST, 63
SERVER_DEPLOY_URI, 31, 35, 44
SERVER_HOST, 31, 35
SRA_CERT_CITY, 72, 77, 81
SRA_CERT_COUNTRY, 72, 77, 81
SRA_CERT_DIVISION, 72, 77, 81
SRA_CERT_ORGANIZATION, 72, 76, 81
SRA_CERT_PASSWORD, 72, 77, 81
SRA_CERT_STATE, 72, 77, 81
SRA_DEPLOY_URI, 68, 69, 70, 73, 78

状態ファイルのパラメータ (続き)

SRA_GATEWAY_PROFILE, 67
SRA_GW_DOMAIN, 71
SRA_GW_HOSTNAME, 71
SRA_GW_IPADDRESS, 71
SRA_GW_PORT, 71
SRA_GW_PROFILE, 71
SRA_GW_PROTOCOL, 71
SRA_GW_START, 72
SRA_GW_SUBDOMAIN, 71
SRA_IS_INSTALLDIR, 70, 73
SRA_IS_ORG_DN, 75, 80
SRA_IS_PASSWORD_KEY, 76, 80
SRA_IS_SERVICE_URI, 76, 80
SRA_LOG_USER_PASSWORD, 67, 71, 78
SRA_NLP_DOMAIN, 74
SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE, 74
SRA_NLP_HOSTNAME, 74
SRA_NLP_IPADDRESS, 74
SRA_NLP_PORT, 74
SRA_NLP_START, 74
SRA_NLP_SUBDOMAIN, 74
SRA_RWP_DOMAIN, 78
SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE, 78
SRA_RWP_HOSTNAME, 78
SRA_RWP_IPADDRESS, 78
SRA_RWP_PORT, 78
SRA_RWP_START, 79
SRA_RWP_SUBDOMAIN, 78
SRA_SERVER_DEPLOY_URI, 75, 80
SRA_SERVER_HOST, 75, 79
SRA_SERVER_PORT, 75, 80
SRA_SERVER_PROTOCOL, 75, 79
USE_EXISTING_CONFIG_DIR, 53
USE_EXISTING_USER_DIR, 54
USER_DIR_ADM_PASSWD, 54, 68, 69
USER_DIR_ADM_USER, 54, 68, 69
USER_DIR_HOST, 54
USER_DIR_PORT, 54
USER_DIR_SUFFIX, 54
WS_ADMIN_PASSWORD, 82
WS_ADMIN_PORT, 82
WS_ADMIN_SYSTEM_USER, 82
WS_ADMIN_USER, 82
WS_INSTANCE_AUTO_START, 83
WS_INSTANCE_CONTENT_ROOT, 83
WS_INSTANCE_GROUP, 83
WS_INSTANCE_HOST, 82

状態ファイルのパラメータ (続き)

WS_INSTANCE_PORT, 83

WS_INSTANCE_USER, 83

せ

設定

Access Manager SDK, 40

Portal Server, 58

設定情報

Access Manager, 23

Access Manager SDK, 39

Application Server, 47-50

Directory Proxy Server, 56

Directory Server, 50-56

HADB, 57

Portal Server Secure Remote Access, 65-81

Web Server, 81

管理サーバー, 45-47

収集, 19-87

状態ファイル、コンポーネント製品以外, 85-87

用語, 21-22

設定情報の収集, 19-87

設定用の用語, 21-22

は

配布内容, 129-132

Linux, 134-136

Solaris x86, 132-134

パッケージ

Access Manager, 138, 160

Application Server, 139, 161

Directory Server, 140, 162

HADB, 141, 162

Instant Messaging, 141, 163

Message Queue, 141, 163

Messaging Server, 142, 163

Netlet プロキシ, 143, 165

Point Base Server, 139

Portal Server, 142, 164

Portal Server Secure Remote Access, 143, 165

Rewriter プロキシ, 143, 166

Service Registry, 143-144, 166

Sun Cluster ソフトウェア, 144

パッケージ (続き)

Web Proxy Server, 145, 166

Web Server, 145, 166

アンインストール, 137

管理クライアント, 139

管理サーバー, 139, 160

共有コンポーネント, 145, 166

ゲートウェイ, 143, 165

ローカライズされた, 148

ローカライズされたパッケージ, 148

ほ

ポート番号, 124

よ

用語集、リンク, 15

れ

レルムモード (Access Manager), 26

わ

ワークシート, 89-119, 119

